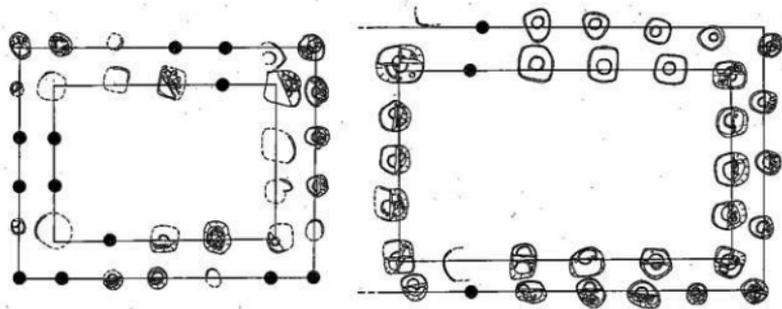


古新田Ⅲ



2005

浅羽町教育委員会

例 言

- 1 本書は静岡県磐田郡浅羽町浅羽に所在する、古新田遺跡5・8・9次試掘調査の報告書である。
- 2 調査は、浅羽町立浅羽東幼稚園建設工事に伴う事前調査として、浅羽町教育委員会が調査主体となつて実施し、報告書作成業務も同じく実施した。
- 3 調査は古新田遺跡8・9次試掘調査を2003年度に実施し、報告書作成業務を2004年度に実施した。
- 4 古新田遺跡8次試掘調査は、町単独事業として、古新田遺跡9次試掘調査は、国庫補助事業として実施した。報告書作成業務は、町単独事業として実施した。
- 5 2003年度の調査体制は次のとおりである。

調査主体者 静岡県磐田郡浅羽町教育委員会 教育長 鈴木絃一

担当者 浅羽町教育委員会社会教育課 主任 山本義孝 囑託員 木曾昌司
調査員 鈴木仁美

事務局 浅羽町教育委員会社会教育課 課長 村松 修、係長 伊藤 覚、主任 山本義孝
(文化財担当)

調査作業員 荒井友彦、萩原央一、金原藤江茂、桑原美由喜、近藤昭、近藤三雄、早川トミ、
前嶋さとし、松浦秀俊、山本さつき、安井力

- 6 2004年度の報告書作成業務の体制は次のとおりである。

調査主体者 静岡県磐田郡浅羽町教育委員会 教育長 鈴木絃一

担当者 浅羽町教育委員会社会教育課 係長 山本義孝 主査 木曾昌司

事務局 浅羽町教育委員会社会教育課 課長 伊藤 覚、係長 山本義孝、主査 木曾昌司
(文化財担当)

整理作業員 桑原美由喜、鈴木仁美、山本さつき

- 7 本書の執筆、編集は木曾が行った。第5章は山本が執筆した。現場での写真撮影は山本・木曾が、遺構図の編集・トレースは鈴木・木曾が、出土遺物の実測・トレースは木曾が行った。
- 8 基準杭設定は(株)フジヤマに委託して実施した。
- 9 本書に用いた水準は海拔、方位は座標北である。
- 10 本書に用いた土色名は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『標準土色帖』に基づいた。
- 11 調査によって出土した遺物、調査に関わる諸記録は浅羽町教育委員会が保管している。
- 12 報告書の作成にあたり、以下の人物、機関の助言および協力を得た。
柴田稔、柴田睦、白澤崇、鈴木一有、鈴木敏則、田村隆太郎、中嶋郁夫、中川律子、橋本博文、
松井一明、向坂鋼二、宮本長二郎、静岡県教育委員会文化課

本文目次

例言

第1章 調査に至る経緯と経過

1 古新田遺跡5次調査	1
2 古新田遺跡8次調査	1
3 古新田遺跡9次調査	2

第2章 位置と背景

1 位置と自然環境	3
2 歴史的環境	6

第3章 調査された遺構

概要	8
1 掘立柱建物跡1	11
2 掘立柱建物跡2	11
3 掘立柱建物跡3	17
4 掘立柱建物跡4	20
5 掘立柱建物跡5	20
6 掘立柱建物跡6	24
7 掘立柱建物跡7	24
8 掘立柱建物跡8	26
9 掘立柱建物跡9	26
10 掘立柱建物跡10	28
11 掘立柱建物跡11	29
12 櫛列跡1	29
13 広場(整地層)	29
14 土壇	29
15 溝状遺構1, 2	34
16 南側谷地形	34
17 5次調査で確認された遺構	34

第4章 出土遺物

1 8・9次調査出土遺物(古墳時代)	40
2 4次調査出土遺物	41
3 8・9次調査出土遺物(奈良時代)	46

第5章 総括

	47
--	----

目 次

- | | |
|--|--|
| <p>1 古新田遺跡1・8次調査区全景</p> <p>2 1. 古新田遺跡8次調査区全景</p> <p>3 1. 掘立柱建物跡1</p> <p>4 1. 柱穴4-イ、柱穴に 半載
3. 柱穴2-イ、柱穴ろ 半載
5. 柱穴1-ロ 半載
7. 柱穴1-ニ 半載</p> <p>5 1. 掘立柱建物跡2</p> <p>6 1. 掘立柱建物跡2
3. 作業風景</p> <p>7 1. 柱穴5-イ、柱穴4-イ、柱穴わ、柱穴か 半載
3. 柱穴4-イ、柱穴か 半載
5. 柱穴2-イ 半載
7. 柱穴1-イ、柱穴い、柱穴ろ 半載</p> <p>8 1. 柱穴1-ハ、柱穴に 半載
3. 柱穴と 半載
5. 柱穴2-へ 半載
7. 柱穴4-へ 半載</p> <p>9 1. 掘立柱建物跡3</p> <p>10 1. 柱穴1-イ 半載
3. 柱穴1-ハ 半載
5. 柱穴1-ホ 半載
7. 柱穴3-ホ 半載</p> <p>11 1. 掘立柱建物跡4</p> <p>12 1. 柱穴4-イ 半載
3. 柱穴2-イ 半載
5. 柱穴1-ロ 半載
7. 柱穴1-ニ 半載</p> <p>13 1. 掘立柱建物跡5</p> <p>14 1. 柱穴5-ホ 半載
3. 柱穴5-ハ 半載
5. 柱穴5-イ 半載
7. 柱穴1-イ 半載</p> <p>15 1. 柱穴1-ニ 半載
3. 柱穴1-へ 半載
5. 柱穴3-へ 半載
7. 棟持柱1 半載</p> | <p>2. 調査区周辺</p> <p>2. 掘立柱建物跡1 調査後</p> <p>2. 柱穴3-イ、柱穴は 半載
4. 柱穴1-イ、柱穴い 半載
6. 柱穴1-ハ 半載
8. 柱穴ほ 半載</p> <p>2. 掘立柱建物跡2 調査後</p> <p>2. 掘立柱建物跡2 調査後</p> <p>2. 柱穴か 半載
4. 柱穴3-イ、柱穴よ 半載
6. 柱穴2-イ、柱穴た 半載
8. 柱穴1-ロ、柱穴は 半載</p> <p>2. 柱穴1-ニ、柱穴ほ 半載
4. 柱穴1-ハ 半載
6. 柱穴3-へ 半載
8. 柱穴5-へ 半載</p> <p>2. 掘立柱建物跡3 調査後</p> <p>2. 柱穴1-ロ 半載
4. 柱穴1-ニ 半載
6. 柱穴2-ホ 半載
8. 柱穴4-ホ 半載</p> <p>2. 掘立柱建物跡4 調査後</p> <p>2. 柱穴3-イ 半載
4. 柱穴1-イ 半載
6. 柱穴1-ハ 半載
8. 柱穴4-ハ、小穴2、小穴1、柱穴4-ニ 半載</p> <p>2. 掘立柱建物跡5 調査後</p> <p>2. 柱穴5-ニ 半載
4. 柱穴5-ロ 半載
6. 柱穴4-イ(間柱) 半載
4. 柱穴3-イ 半載
2. 柱穴1-ホ 半載
4. 柱穴2-へ(間柱) 半載
6. 柱穴4-へ(間柱) 半載
4. 棟持柱2 半載</p> |
|--|--|

- | | | | | | | | |
|----|----|----------------|----------|----|------------------|--------|--------|
| 16 | 1. | 掘立柱建物跡 6 | | 2. | 掘立柱建物跡 6 | 調査後 | |
| 17 | 1. | 柱穴 1-ニ | 半載 | 2. | 柱穴 1-ハ | 半載 | |
| | 3. | 柱穴 1-ロ | 半載 | 4. | 柱穴 1-イ | 半載 | |
| | 5. | 柱穴 2-イ | 半載 | 6. | 柱穴 3-イ | 半載 | |
| | 7. | 柱穴 1 | 半載 | 8. | 柱穴 1-ニ | | |
| 18 | 1. | 掘立柱建物跡 7 | | 2. | 掘立柱建物跡 7 | 調査後 | |
| 19 | 1. | 掘立 6 | 柱穴 1-ハ | 2. | 掘立 6 | 柱穴 1-ロ | |
| | 3. | 掘立 6 | 柱穴 1-イ | 4. | 掘立 7 | 柱穴 1-ロ | |
| | 5. | 掘立 7 | 柱穴 1-ハ | 半載 | 6. | 掘立 7 | 柱穴 4-ハ |
| | 7. | 掘立 7 | 柱穴に | 半載 | 8. | 掘立 7 | 柱穴は |
| 20 | 1. | 柱穴そ | 半載 | 2. | 柱穴つ | 半載 | |
| | 3. | 柱穴ね | 半載 | 4. | 柱穴ら | 半載 | |
| | 5. | 柱穴 4-イ | 半載 | 6. | 柱穴 4-イ | 遺物出土状態 | |
| | 7. | 柱穴 4-イ | 遺物出土状態近景 | 8. | 柱穴そ | 遺物出土状態 | |
| 21 | 1. | 掘立柱建物跡 8 | | 2. | 柱穴 1, 柱穴 2 | | |
| | 3. | 柱穴 2 | 半載 | 4. | 柱穴 3 | | |
| | 5. | 柱穴 4 | 半載 | | | | |
| 22 | 1. | 柱穴 1-ニ | 半載 | 2. | 柱穴 1-ハ | 半載 | |
| | 3. | 柱穴 1-ロ | 半載 | 4. | 柱穴 1-イ | 半載 | |
| | 5. | 柱穴 1 | 半載 | 6. | 柱穴 2 | 半載 | |
| | 7. | 柱穴 3 | 半載 | 8. | 柱穴 4 | 半載 | |
| 23 | 1. | 掘立柱建物跡 10 | | 2. | 柱穴 4-ホ | | |
| | 3. | 柱穴 3-ホ | 半載 | 4. | 柱穴 2-ホ | 半載 | |
| | 5. | 柱穴 1-ホ | 半載 | | | | |
| 24 | 1. | 柱穴 4-ニ | 半載 | 2. | 柱穴 4-ハ | 半載 | |
| | 3. | 柱穴 4-ロ | 半載 | 4. | 柱穴 4-イ | 半載 | |
| | 5. | 柱穴 1-ニ | 半載 | 6. | 柱穴 1-ハ | | |
| | 7. | 柱穴 1-ロ | 半載 | 8. | 柱穴 1-イ | | |
| 25 | 1. | 広場の中央に整地土を確認 | | 2. | 整地土内トレンチ | | |
| 26 | 1. | 9次調査トレンチ 整地土確認 | | 2. | サブトレンチ土層断面 | | |
| | 3. | 遺物出土状態 | | | | | |
| 27 | | 遺物出土状態近景 | | | | | |
| 28 | 1. | 土壇 調査前 | 南西より | 2. | 土壇 調査前 | 南より | |
| 29 | 1. | 土壇 調査中 | | 2. | 土壇 東西トレンチ断面 | | |
| 30 | 1. | 土壇 北トレンチ断面 | | 2. | 土壇 南トレンチ土坑遺物出土状態 | | |
| 31 | 1. | 土壇 南トレンチ断面 | 出土遺物状態 | 2. | 土壇 土坑 | | |
| 32 | 1. | 土壇 土坑完掘状態 | | 2. | 土壇南端の遺構 | | |
| 33 | 1. | 溝状遺構断面 | | 2. | 溝状遺構断面 | | |
| 34 | 1. | 溝状遺構断面 | | 2. | 溝状遺構断面 | | |
| 35 | 1. | 南側谷地形 1トレンチ | | 2. | 1トレンチ断面 | | |

- 36 1. 1トレンチ断面
- 37 1. 2トレンチ
- 38 1. 4トレンチ
- 39 1. 古新田遺跡5次調査全景
- 40 1. 掘立柱建物跡1 (南から)
 - 41 1. 柱穴1 半載
 - 3. 柱穴3 半載
 - 5. 柱穴5 半載
 - 7. 土坑1 半載
- 42 1. 柱穴1 完掘
- 3. 柱穴3 完掘
- 5. 柱穴5 完掘
- 7. 土坑1 完掘
- 43 広場・掘立柱建物跡の出土遺物
- 44 1. 掘立柱建物跡の出土遺物

- 2. 2トレンチ
- 2. 3トレンチ
- 2. 4トレンチ断面
- 2. 古新田遺跡5次調査全景 調査後
- 2. 掘立柱建物跡1 調査後 (西から)
 - 2. 柱穴2 半載
 - 4. 柱穴4 半載
 - 6. 柱穴6 半載
 - 8. 土坑2 半載
- 2. 柱穴2 完掘
- 4. 柱穴4 完掘
- 6. 柱穴6 完掘
- 8. 土坑2 完掘
- 2. 土壇の出土遺物

挿 図 目 次

図1 浅羽町の位置	3
図2 浅羽低地を中心とした地形概念図 (S = 1/50,000)	4
図3 浅羽低地を中心とした弥生・古墳時代の主要遺跡 (S = 1/50,000)	5
図4 調査区位置図 (S = 1/5,000)	9
図5 掘立柱建物跡1	10
図6 掘立柱建物跡1 模式図 遺物図	12
図7 掘立柱建物跡2	13
図8 掘立柱建物跡2 遺物図	14
図9 掘立柱建物跡2 模式図	15
図10 掘立柱建物跡3	16
図11 掘立柱建物跡3 模式図	17
図12 掘立柱建物跡4 模式図	18
図13 掘立柱建物跡5	19
図14 掘立柱建物跡5 模式図	20
図15 掘立柱建物跡6 模式図	21
図16 掘立柱建物跡7	22
図17 掘立柱建物跡7 遺物図	23
図18 掘立柱建物跡7 模式図	24
図19 掘立柱建物跡8・掘立柱建物跡10	25
図20 掘立柱建物跡8・掘立柱建物跡10 模式図	26
図21 掘立柱建物跡9・掘立柱建物跡11	27
図22 掘立柱建物跡9・11 模式図 遺物図	28
図23 整地土 遺物図	30
図24 整地土 遺物図	31
図25 土壇	32
図26 土坑	33
図27 溝状遺構	35
図28 南側谷地形	36
図29 古新田5次調査遺構図	37
図30 掘立柱建物跡1・土坑・焼土坑	38
図31 古新田遺跡8・9次調査出土遺物1	42
図32 古新田遺跡8・9次調査出土遺物2	43
図33 古新田遺跡8・9次調査出土遺物3	44
図34 古新田遺跡8・9次調査出土遺物4	45
図35 古新田遺跡8・9次調査出土遺物5	46
図36 古新田遺跡全体配置図	48
図37 古新田遺跡周辺の概念図	49

図38 遺構変遷図1 (5～9次調査区/弥生後期)	50
図39 遺構変遷図2 (5～9次調査区/5世紀後半～末)	50
図40 遺構変遷図3 (5～9次調査区/8世紀)	51
図41 1次調査区と8・9次調査区の建物の比較図1	52
図42 1次調査区と8・9次調査区の建物の比較図2	53
図43 1次調査区と8・9次調査区の建物の比較図3	54
図44 1次調査区と8・9次調査区の建物の比較図4	55
別図 古新田遺跡4・5・6・8・9次調査区全体図	

第1章 調査に至る経緯と経過

1 古新田遺跡5次調査

経緯 2001年度に磐田郡浅羽町宇原2665他2筆で賃貸マンション新築の届出(908.93㎡)が浅羽町教育委員会社会教育課にあった。申請地は古新田遺跡の範囲内であり、賃貸マンションは4階建て、基礎工事で地盤を掘削してしまうため、遺構が確認されると発掘調査を行う必要があることから、試掘調査を実施した。

経過 2002年1月30日から試掘調査を行なった(250㎡)。建物が建つ範囲に対して重機で表土掘削を行ない、人力で精査したところ掘立柱建物跡、土坑などを確認したため、発掘調査に切り替え遺構をすべて掘り上げた。その結果、掘立柱建物跡1棟、焼土坑3基、土坑3基、小穴2穴、溝状遺構1条などを確認した。記録はS=1/20で調査区全域の遺構図作成と写真撮影、遺構個別の平面図・断面図作成、写真撮影を行った。2002年2月28日に測量の後、機材を撤収し作業が終了した。

2 古新田遺跡8次調査

経緯 2003年度に浅羽東小学校南側の茶畑(磐田郡浅羽町浅羽2617番地ほか12筆)で、幼稚園(総面積8,015㎡)の新設計画が持ち上がり、浅羽町教育委員会学校教育課から同社会教育課に協議があった。建設予定地は利便性から東小学校の南隣が選ばれたのであるが、1989年3月から90年3月にかけて東小学校新設に先だてて古新田遺跡1次発掘調査が行なわれ、調査区のほぼ全域から豪族居館を構成する建物群が確認された。

その後、学校前の歩道での調査を実施した際、遺構等は確認されなかったが、1999年に道路をはさんだ南側の茶畑で個人住宅建設に先だてて4次調査を行なった時、四面庇建物跡や他の掘立柱建物跡などの遺構が確認されたことから、予定地で建物群の続きが検出されることが予想された。

このため遺構が集中する範囲は駐車場敷地、緑地として地下に保存し、建設用地内に遺構がどのように広がっているかを確認するために範囲確認試掘調査を実施することとなった。

経過 2003年9月16日より範囲確認のための試掘調査を行なった(2,500㎡)。建設用地の北半分(東西の道路をはさんで北側)を重機を用いて茶樹を引き抜き、調査区北端から全面的に掘削を行ない人力で精査を進めたところ、四面庇建物跡、両側に庇を伴う建物跡、大型の掘立柱建物跡群、整地土、溝状遺構を検出し、豪族居館の政庁域を確認した。

これらの遺構とは別に調査区東隅の盛土を調査した。当初は古墳と考えて十文字トレンチを設定し掘削したが、墓塚のラインが確認できず、古墳時代の遺物も出土しなかった。盛土最下層から土坑が検出され、奈良時代の土器が出土した。土の積み上げ方などから奈良時代の土壇であろうと考えられる。

記録はS=1/20で調査区全域の遺構全体図作成、遺構個別の写真撮影、平面図・断面図作成を行った。建設用地の南半分(東西の道路をはさんで南側)を遺構の有無確認のため重機によりトレンチ調査を行なったが、遺構・遺物とも確認できなかった。

これらの結果をもとに学校教育課と遺構面の保存について協議を行い、四面庇建物、両側に庇を伴う建物などの主な掘立柱建物4棟、土壇などが検出された範囲に砂を被せ、その上に土を盛り上げ、駐車場として保存することとなった。

2004年2月25日、遺構に砂を被せ埋め戻しを行ない作業が終了した。

3 古新田遺跡9次調査

経緯 8次調査で新たに四面庇建物跡、両側に庇を伴う建物などの掘立柱建物群、整地土が確認され、これら一連の建物群の構成を把握するために、西隣土地所有者の承諾を得て試掘調査（磐田郡浅羽町浅羽2644番地の1他1筆）を行なうこととなった。

経過 2003年1月5日から試掘調査を行なった（調査面積100m²）。重機で耕作土と攪乱土を取り除き、精査したところ、8次調査で見つかった四面庇建物跡の西側、整地土の一部が確認された。新たに棟持柱を伴う掘立柱建物跡が検出された。さらに6次調査で検出した四面庇建物跡の東側を再検出した。記録はS=1/20で調査区全域の遺構全体図作成、遺構個別の写真撮影、平面図・断面図作成を行った。2004年2月27日、遺構に砂を被せ埋め戻して終了した。

4 古新田遺跡8・9次調査日誌

2003年9月16日 範囲確認のための試掘調査を行う。8次調査。

9月29日 重機を導入し、面的に調査を行う。

10月24日 四面庇建物を確認する。

10月28日 四面庇建物などの掘立柱建物跡の写真撮影を行う。

11月17日 遺構全体の平面図作成（S=1/100）

11月19日 掘立柱建物跡の半截を始める。

12月5日 S=1/20で遺構全体の平面図の作成を始める。

2004年1月6日 8次調査と並行して9次調査を開始する。

1月13日 屋内棟持柱掘立柱建物を確認する。

2月7日 東北文化芸術大学教授宮本長二郎氏、現場を視察。

2月8日 現地説明会。320名

2月9日 調査区全体に等高線を入れる作業を行う。

2月10日 新潟大学教授橋本博文氏、現場を視察。

2月18日 遺構の平面図・断面図作成（S=1/20）。

2月25日 遺構全体に砂を被せる。機材を撤収し、8次調査終了。

2月27日 遺構全体に砂を被せる。機材を撤収し、9次調査終了。

第2章 位置と背景

1 位置と自然環境

磐田郡浅羽町は、静岡県西部の遠州海岸の東寄りに位置する。今回報告する古新田遺跡は、小笠山丘陵西南麓の諸井台地上に所在する。

町の地形は大きく丘陵、台地、平地、海岸砂地の四つに分類されている。最も特徴的な地形は、通称浅羽低地と呼ばれる低湿地で、現在ではそれを利用して稲を栽培し、田園地帯が広がる景観が見られる。県西部の中遠地域のなかでも有数の穀倉地帯である。

町の北東部は、海拔264mの小笠山多聞天神社付近を最高所とする小笠山丘陵の西麓部と諸井台地からなり、町の総面積の約20%を占める。町の中部から南部にかけては、自然堤防、後背低地、砂州列で構成され、特に後背湿地は粘土・泥炭混じりの粘土・泥炭からなっている。これらの平野が町の総面積の約80%を占めている。

縄文時代前期の縄文海進の最盛期（7,000～6,500年前）には、丘陵、台地の侵食谷まで水没し、深い入江を（古磐田海）を形成し、北は森町上飯田、掛川市大池のあたりまで海進が及んでいたようである。このように現在の町域のほとんどは、丘陵、台地部を除いて海面下にあった。

郷土資料館の泥炭層最下部の炭素14年代は6560年±450年を示しており、近年では、下水道処理場建設（アクアパーク）計画が持ち上がり、建設に先だって調査をおこなったところ、地表下約3mからカキ層が確認された。炭素14年代分析によると、5190年±70年、5060年±50年前の値が出ている。当時は、海が広がる光景であったといえる資料の一つであろう。

その後、海面の上昇が終わると、県西部では最も大きい河川の大天川によって吐き出された砂が、海流と波によって押し戻され、海岸に平行して砂州が出来た。その後順次南に向かって発達し、複数の砂州列となり、入江の出口を塞いでいった。これらの砂州列は、現在の西ヶ崎から梅山を抜けて、大須賀町横砂へいたる砂堤列としてその姿を留めている。

砂州によって海水の流入が制限されたことから、塩分の濃度が薄くなって湖沼化し、ラグーン（潟湖）を形成する。このように外洋の波に直接さらされることがなくなったため、中小河川沿いの堆積地形は保存されるようになり、太田川、原野谷川が吐き出す土砂によって序々に埋め立てられ、さらに原野谷川の旧本流（古川）と旧支流（古浅羽川）の蛇行流路と自然堤防が出現した。

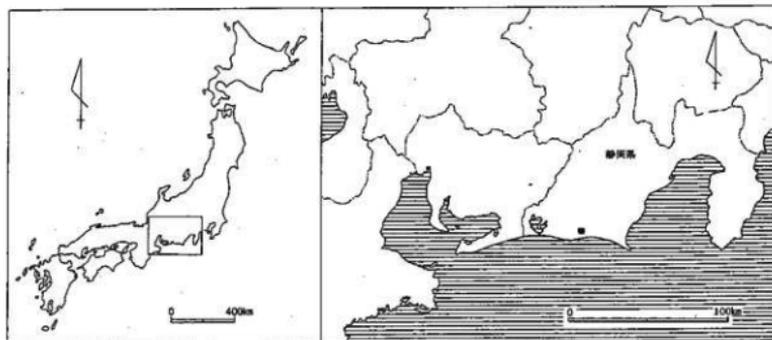


図1 浅羽町的位置

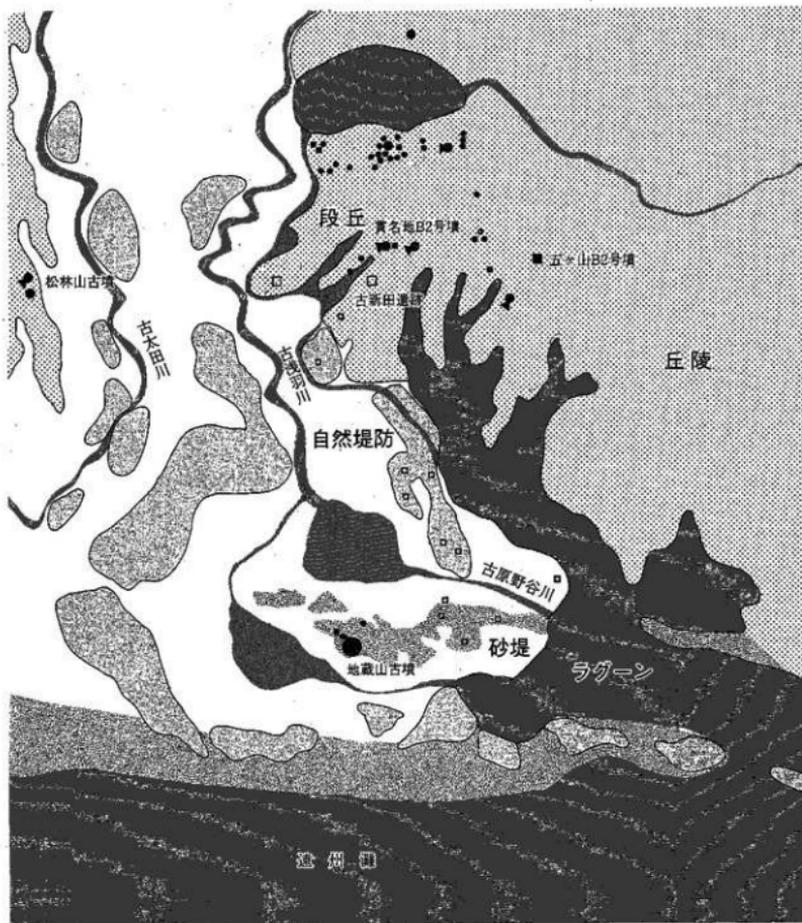


図2 浅羽低地を中心とした地形概念図 (S=1/50,000)



図3 浅羽低地を中心とした弥生・古墳時代の主要遺跡 (S=1/50,000)

〔浅羽低地を中心とする主要遺跡の一覧〕 (番号は図2に対応)

- A. 釜之上I遺跡 (袋井市) B. 大門I遺跡 (袋井市) C. 鎌井十二所遺跡 D. 橋宮遺跡 E. 古新田遺跡
 F. 新堀遺跡 G. 青木遺跡 H. 衛門坂古墳群 I. 北野遺跡 J. 西向遺跡
1. 大門大塚古墳 (袋井市、径26mの円墳、6世紀中頃) 2. 松林山古墳 (磐田市、全長107mの前方後円墳、4世紀後半)
 3. 高根山古墳 (磐田市、径58mの円墳、4世紀後半) 4. 団子塚遺跡・古墳群 5. 高尾向山古墳群 6. 貫名地A2号墳
 (全長約30mの前方後円墳、6世紀) 7. 貫名地B2号墳 (全長約32mの前方後円墳、6世紀前半) 8. 浅羽五ヶ山古墳群
 (30~40mの円墳数基で構成、5世紀?) 9. 五ヶ山A1号墳 (径20mの円墳、5世紀後半) 10. 五ヶ山B1号墳
 (全長約40mの前方後円墳? 5世紀中葉) 11. 五ヶ山B2号墳 (33×28mの方墳、甲冑・盾・鉄製品、5世紀中葉)
 12. 地蔵山古墳 (径40mの円墳、5世紀末~6世紀初頭)

原野谷川は西へ移動し、南へ大きく蛇行しながら流れ、南東端で潟湖に合流していた。これは、海岸沿いの砂州列に妨げられ東へ向ったからである。しかし、江戸時代初頭、慶長九(1604)年に伊奈備前守忠次によって太田川と原野川の両河川の合流工事がおこなわれ、流路は大きく変わった。

古浅羽川によって古釜田海が分割され、東に位置する小笠山丘陵の裾と、南の砂州列に囲まれた閉鎖性の強い水域、ラグーン(潟湖)・入江の範囲が限定される。この水域は近世までその名残りが池として残ることとなった。最後は宝永四(1707)年の大地震に伴う地盤隆起によって消滅してしまい、現在の平野が形成されたと考えられている。

古新田遺跡が居館として存続していた古墳時代当時は、細長い潟湖が存在していたと考えられている。当遺跡は潟湖の一番奥まった先に位置している。これに注ぎ込む河川を利用すれば、水上ルートで物資を運搬する際、非常に適した環境と考えられる。

2 歴史的環境

町内から発見される最古の遺物として、北部の丘陵や台地の北山遺跡や団子塚遺跡から旧石器時代のナイフ形石器や石核、彫器などの石器が3点出土している。遺物に伴う遺構は確認されていないが、当時、浅羽で人が活動していたことを示す資料といえる。

次の縄文時代には、先ほどの遺跡以外に中部の古浅羽川が形成した自然堤防上に立地する青木遺跡、南部の砂州列上の松山遺跡、野島遺跡、八幡西遺跡、宮ノ腰遺跡、権現山遺跡で少量の土器片や石器などの遺物の出土が確認されている。これらの遺物は、明確な遺構に伴うものではなく、縄文時代中期以降と考えられている。

下って弥生時代中期に丘陵上の団子塚遺跡で総数約180基の大規模な方形周溝墓群が確認された。町内で人が生活した明確な遺構としては、同遺跡と北原遺跡で竪穴住居跡が発見されている。北原遺跡は団子塚遺跡の南隣に位置していることから、今後周辺の調査が進めば、この時期の竪穴住居の確認は増えていくものと考えられる。

弥生時代後期になると本格的に団子塚遺跡に集落が営まれるようになり、古新田遺跡でも集落が見つかっている。この時期になると浅羽低地の河川堆積による自然堤防の形成がさらに進み、高乾地を利用した諸井十二所遺跡の集落が確認されている。

古墳時代前期、諸井十二所遺跡以外に、中部でも明確な集落が確認されている。自然堤防上には拠点集落である青木遺跡、新堀遺跡が所在し、嚮向型祭祀に類似するような土坑祭祀の痕跡が見つかっている。手捏ね土器、土製勾玉・丸玉が発見され、S字口縁甕の出土量も他の集落遺跡より較べて多い。

西部の自然堤防上で前期の遺物が出土する西向遺跡が発見されている。遺構面が海拔1mに満たない土地に集落が確認できた点は重要である。

古墳時代中期には浅羽北部の丘陵上で五ヶ山A1号墳、五ヶ山B1号墳、五ヶ山B2号墳、観音山古墳群などが確認されている。A1号墳からは、刀1振と須恵器片が出土している。B1号墳から我国最古級の銅芯金貼りの耳環、スズ製銅、ガラス小玉、壺橋など装身具を主体とした副葬品が発見され、被葬者は交易職業者と考えられている。

五ヶ山B2号墳は、約33×約28mの規模を持ち2段築成の県内最大の方墳で、埴輪と葦石をもち、主体部からは甲冑、漆塗り盾、農工具、刀、剣、槍、鉞、鉄鍬など、武器や武具を主体とした副葬品が発見されている。被葬者は堂山古墳に埋葬された王を軍事的に補佐した將軍であると考えられている。

これらの古墳は盛土を殆ど伴わず、自然地形に手を加えただけのものが主流を占めており、地表観察では確認しにくい。

中期になると、台地上の古新田遺跡が豪族居館と考えられている企画性のある建物群が発見されている。主屋が正面に建ち左右前面に脇屋が伴い、主屋の西側に脇屋が建っていて全体がコ字状に配置された主館域、主屋と脇屋そして倉庫の三棟で構成された居館域、総柱式の倉庫が四棟、倉庫のほかに高殿、神殿とも考えられている総柱式の建物が二棟、庇付きの建物二棟がロ字状に配置された倉庫域、堅穴住居が主体の居住域、と言うように建物群を四つに分類されている。

最近の第4～9次調査により、豪族居館を構成する建物群が、南側にも広がり存在していることがわかってきている。

古墳時代後期には、台地や丘陵で貫名地古墳群と団子塚古墳群が確認されている。貫名地古墳群は北側の尾根をA群、南側の尾根をB群に分けて把握し、両者とも全長30m級の前方後円墳を中心として、周辺に円墳が築造されている。97年に貫名地B2号墳の試掘調査が行なわれ、墳丘規模が32mの前方後円墳であることが判明した。前方部と後円部のくびれ部付近の墳丘裾から墳丘構築途中の儀礼に使ったと考えられる須恵器の短頸壺、甕、高坏が出土した。短頸壺を除く他の須恵器は、衛門坂古窯産の可能性があるのである。

団子塚古墳群は、町内で最も古墳が密集している地区で、浅羽町と袋井市にまたがって6世紀前半から7世紀中頃まで数十基が分布している。木棺直葬、横穴式木芯粘土室、横穴式石室、小石室などバラエティに富んだ埋葬施設が確認されている。この横穴式木芯粘土室は、原野谷川、太田川流域に分布する特徴的な埋葬施設である。

浅羽南部の砂堤列上では5世紀末から6世紀初頭に築造された円墳で運輪を伴う、径40mの地蔵山古墳を中心とした古墳群が所在している。遠州灘の水利に関わる集団墓地と考えられている。

後期の集落は、現在のところ発見されていないが今後の調査に期待したい。

以上、古新田遺跡が居館として機能した古墳時代までの遺跡を概観した。特に5世紀代は特徴的な古墳や遺跡が確認されている。このことは、潟湖を背景に水利面で有利な地形であったことが、これらの遺跡を出現させた要因であったことを推測させる。

【参考文献・引用文献】

- 加藤芳朗 「第一編第二章第一節 平野の成立と変遷」 『浅羽町史 通史編』2000 浅羽町
柴田稔 (編) 「浅羽町史 資料編一 考古・古代・中世」1997 浅羽町
柴田稔 「第二編第三章 古墳時代の浅羽」 『浅羽町史 通史編』2000 浅羽町
『五ヶ山B2号墳』1999 浅羽町教育委員会
『浅羽町内遺跡発掘調査報告書I』2002 浅羽町教育委員会

第3章 調査された遺構

概要 (折込図 図版1・2)

調査区は諸井台地上に位置する。8次調査区東端の標高は18.0m、9次調査区4トレンチ西端での標高は16.5mと、西方向に緩やかに傾斜している。8次調査区南側では急斜面になっており、その縁に建物群が建てられている。

地山は小笠山礫層と粘質土層が交互に堆積された土層のため、遺構検出面であまり礫が見られない場所(8次調査区北半分)と礫が目立つ場所(9次調査区)が見られた。

基本層序は、耕作土・覆乱土(地表下約50~60cm)、地山(2.5Y7/6明黄褐色土)の順である。

遺構の検出は地表に盛土として残っている土壌以外は地山面からである。

調査区は茶畑の開発でかなり削平・攪乱を受けている。土壌の底面で旧表土が確認され、周りの遺構面との比高差が50~60cmあった。このことから柱穴本来の大きさが全体的に小さくなり、深さが浅くなっていると考えられる。

遺構は掘立柱建物跡11棟(4次調査の2棟含む)、横列1条、整地層、土壇1基、土坑2基、溝状遺構2条、南側谷地形を確認した。

遺物は整地層からは纏まって出土しているが、掘立柱建物跡からの出土は非常に少なく、年代が分かる遺物も限られていた。掘立柱建物跡1, 6, 7で5世紀後半から六世紀初頭の遺物が出土している。特徴的な遺構の概要であるが、旧谷地形を整地して広場の空間を造り出している。その整地層上面から土器が割られた状態で多く出土し、祭祀を行なった痕跡と考えられる。

広場(整地層)の北側で身舎の東西両側に庇が付く特殊な構造の掘立柱建物跡1、北西側で屋内棟持柱建物跡5、北西側手前で掘立柱建物跡6、南側で四方向に庇が付く四面庇掘立柱建物跡の掘立柱建物跡2、掘立柱建物跡7などの構造の異なる大型建物が1ヶ所に纏まって見つかった。これらの建物の柱穴内に、地山で確認される小笠山礫層の礫を根石として詰め込み基礎固めを行ない、掘り方も柱を支えるため丁寧に埋められている。

特に四面庇建物が確認されたことから、広場をとりまく建物群は豪族居館の主領域と考えられる。また、四面庇建物2棟は、主軸は両棟ともほぼ同じであるが、辺がずれて建ており正確なシンメトリーとはいえない。これらの建物は同時に存在したのではなく建替えが行なわれたものと考えられる。

広場(整地層)東側で掘立柱建物跡3を検出したが、前者の建物群と違って柱穴内に根石が詰め込まれず、掘り方も一気に埋め立てられて、柱穴下層から8世紀前半の遺物が見つかった。調査区の東端で奈良時代の土壇が確認されていることから、同時期に土壇と掘立柱建物がセットで存在した可能性がある。

調査区の南隣で旧谷地形を確認した。この谷を挟んで南側の台地でもトレンチ調査をおこなっているが遺構・遺物は確認されていない。このことから南側谷地形が豪族居館の南の境界になるものと考えられる。

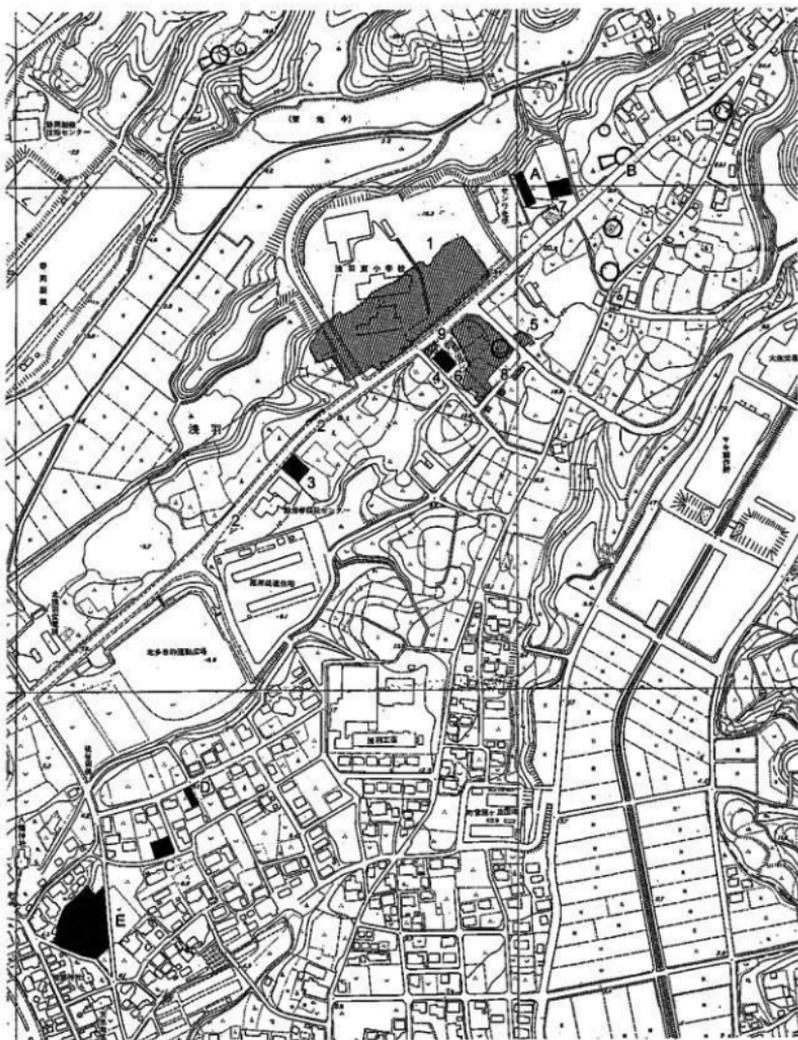


図4 調査区位置図 (S=1/5,000)

1. 古新田遺跡1次調査 2. 古新田遺跡2次調査 3. 古新田遺跡3次調査 4. 古新田遺跡4次調査
 5. 古新田遺跡5次調査 6. 古新田遺跡6次調査 7. 古新田遺跡7次調査 8. 古新田遺跡8次調査
 9. 古新田遺跡9次調査 A. サンワ化学駐車場調査 B. 貫名地B2号墳範囲確認調査
 C. 高道遺跡1次調査 D. 高道遺跡2次調査 E. 光徳寺跡試掘調査

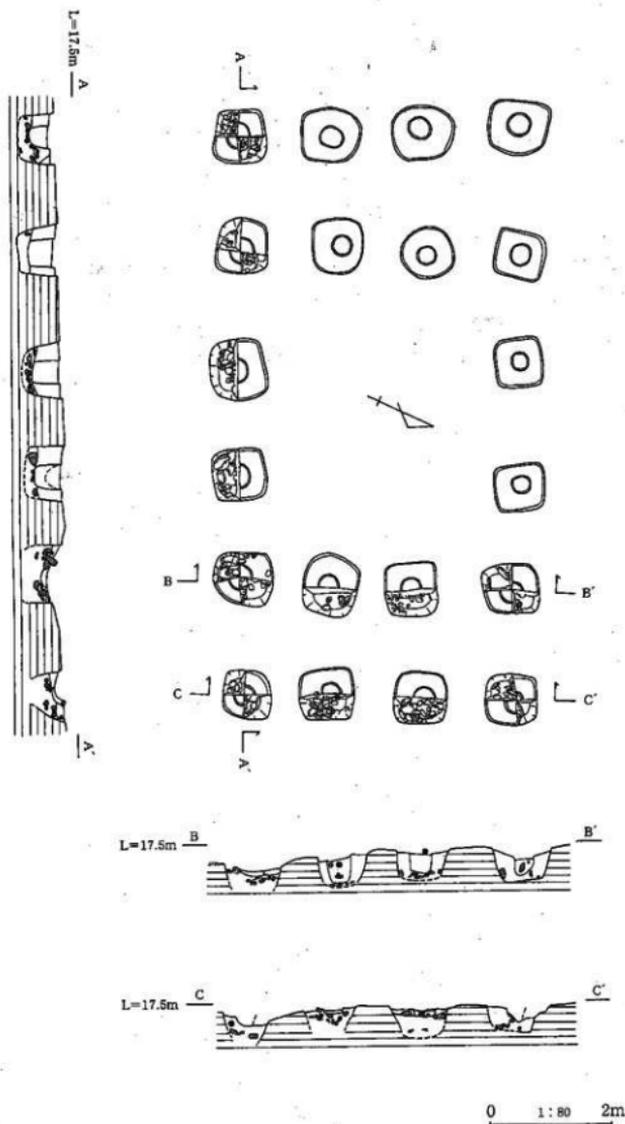


图5 掘立柱建物跡1

1 掘立柱建物跡1 (図5・6 図版3・4)

桁行3間(5.4m)×梁行3間(4.66m)の身舎の東西両側に庇が付く掘立柱建物。庇を含めると桁行5間(9.44m)となり、横長の掘立柱建物跡である。

建物の棟方位はS-65°-W。建物の面積は約44m²。

柱穴の検出は、掘り方が2.5Y5/2暗灰黄色土で容易に確認できた。

柱穴の平面形は隅丸方形で、大きさは身舎・庇ともに80~100cm、規模による違いは認められなかった。柱痕の規模は30~40cmで、全体的に深さは身舎部分の柱穴で50~60cm、庇部分の柱穴で40~50cmと身舎部柱穴より底部柱穴の方が若干浅い。身舎部の柱穴と底部の柱穴の通りはほぼ垂直方向に揃っている。

柱穴断面形は逆台形、U字形をしている。壁面は直線的に掘りこまれ、底は平底もしくは丸底である。

身舎部柱穴は、柱穴ニー1、柱穴ハー1、柱穴ロー1、柱穴イー1、底部柱穴い、柱穴ろ、柱穴は、の下面に10~40cmの砂質礫の礫を根石として混入し、地山の2.5Y7/6明黄褐色土を用いて基礎固めした上に、柱材をすえた痕跡2.5Y5/4黄褐色土が認められ、そのまわりを2.5Y5/3黄褐色土で埋めていた。これらの礫は地山の小笠山砂礫層に含まれるものを使用している。

そのほか身舎部柱穴イー2、柱穴イー3、底部柱穴イー4、柱穴い、柱穴にでも根石を確認した。

柱間距離は桁行間で平均185cmであるのに対して、梁行間では平均152cmとなり、桁行の方が約1.2倍長くなっている。

柱穴に伴う出土遺物は4点でいずれも柱穴検出面からの出土である。身舎部分の柱穴ニー4、柱穴イー2の検出面から須恵器の高坏脚部の破片(遺物1、遺物2)が出土した。時期は特徴からTK208以前と考えられる。同様に柱穴イー3の検出面から須恵器の甕脚部の小破片(遺物24)が出土している。他に庇部分の柱穴い、の検出面から土師器の二重口縁壺口縁部の小破片(遺物14)が出土した。

2 掘立柱建物跡2 (図7・8・9 図版5・6・7・8)

桁行5間(10.24m)×梁行4間(6.08m)の身舎の周り四方向に庇が付く四面庇建物。

庇の桁行は西端が未掘だが7間(12.26m)、梁行は4間(8.08m)と推定。

建物棟方位はS-75°-W。建物面積は約99m²と推定。

柱穴の確認は、掘り方が2.5Y5/4黄褐色土で比較的容易であった。

身舎部分柱穴の平面形は隅丸方形もしくは楕円形で、大きさは80~140cm、深さは40~80cm、柱痕の規模は32~52cmである。

庇部分の柱穴の平面形は楕円形もしくは円形で大きさは70~90cm、深さは40~60cmで柱痕の規模は25~30cm、身舎部分柱穴に比べて全体的に一回り小さくて浅い。

柱穴断面形は逆台形、U字形をしている。壁面は直線的に掘りこまれ、底は平底もしくは丸底である。

身舎部柱穴へー2、柱穴へー3、柱穴へー4、底部柱穴に、柱穴わ、柱穴よ、柱穴たの下層に10~45cmの礫を根石として置き、地山の2.5Y7/6明黄褐色土で基礎固めした上に柱痕の2.5Y6/4にぶい黄色土、掘り方を2.5Y5/4黄褐色土で埋めている。

身舎部の柱穴イー2、柱穴イー3、柱穴イー4、底部柱穴へ、柱穴は、柱穴ろ、柱穴い、柱穴か、で根石を確認した。これらの礫は地山の小笠山砂礫層に含まれるものを使用している。

柱穴へー1では2.5Y7/6明黄褐色土と2.5Y4/1灰黄色土が互層に積まれていた。これは寸法の異なる柱を上面でレベルを揃えて据えるためと考えられる。同様に柱穴ロー1、柱穴イー1でも2.5Y6/6明黄褐色土、10YR6/8明黄褐色粘質土粒混じりの2.5Y4/4オリーブ褐色土、2.5Y4/4オリーブ褐色土が互層

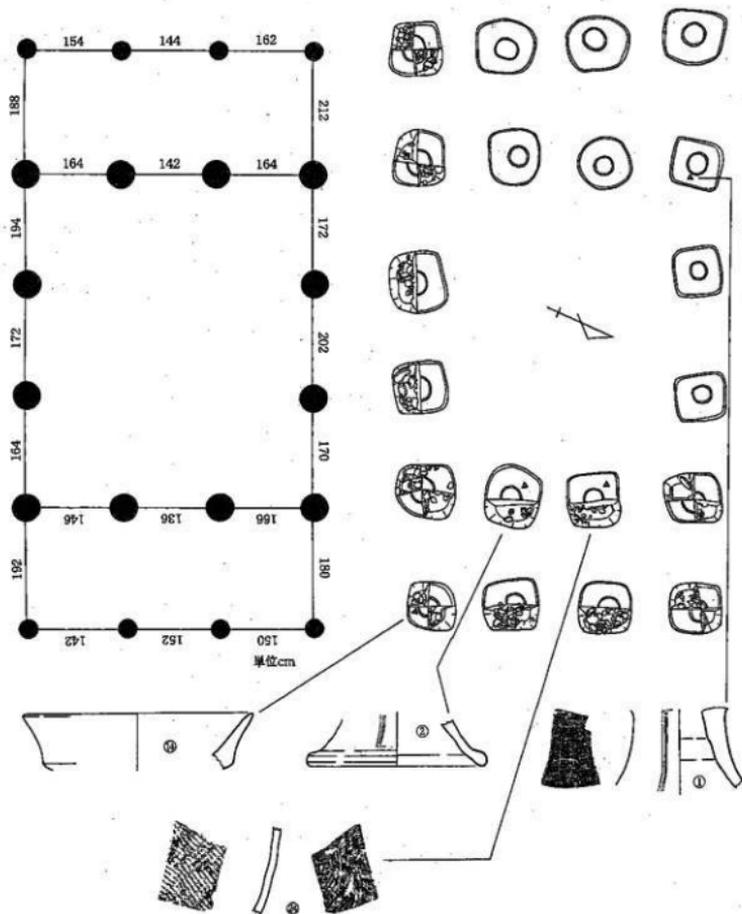


図6 掘立柱建物跡1 模式図 遺物図

に覆まれていた。柱穴ニー1は切り合いが確認され、上面は土坑、下面が建物に伴う柱穴である。

身舎部分の桁行の柱穴間距離は平均で約200cmと長いのに対して、梁行の柱穴間距離は平均で約150cmと短く前者に比べ約4分の3の長さである。底部分の柱穴間距離は桁行・梁行ともほぼ同じで平均で約180cmである。

柱穴に伴う遺物は3点出土している。身舎部分の柱穴へー1の検出面から須恵器の甕胴部の小破片（遺物27）が出土した。同じ柱穴下層から土師器の高坏脚部の破片（遺物11）が出土している。柱穴ニー5の検出面から須恵器の甕胴部の小破片（遺物25）が出土している。

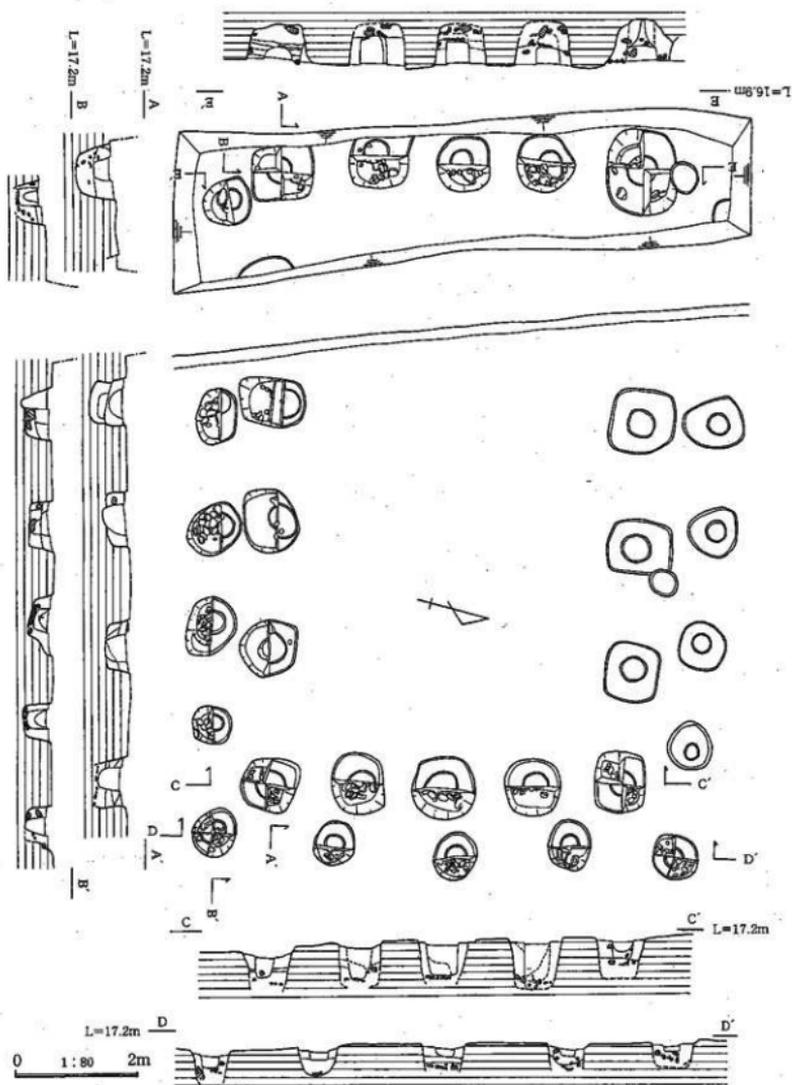


图7 掘立柱建物跡 2

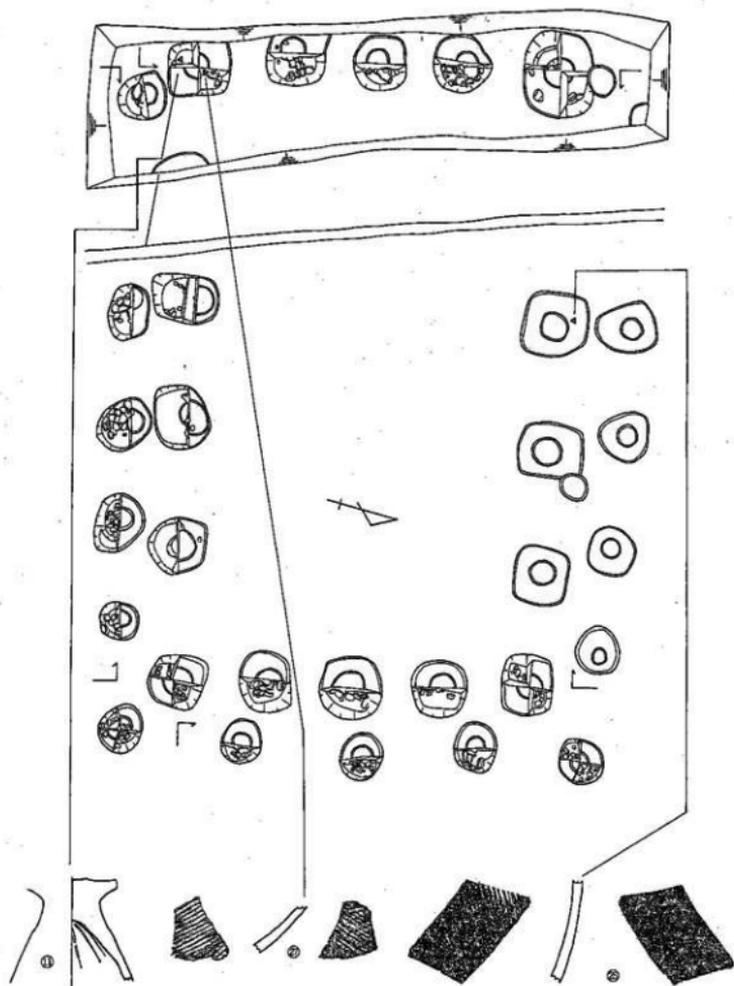


图8 掘立柱建物跡2 遺物図

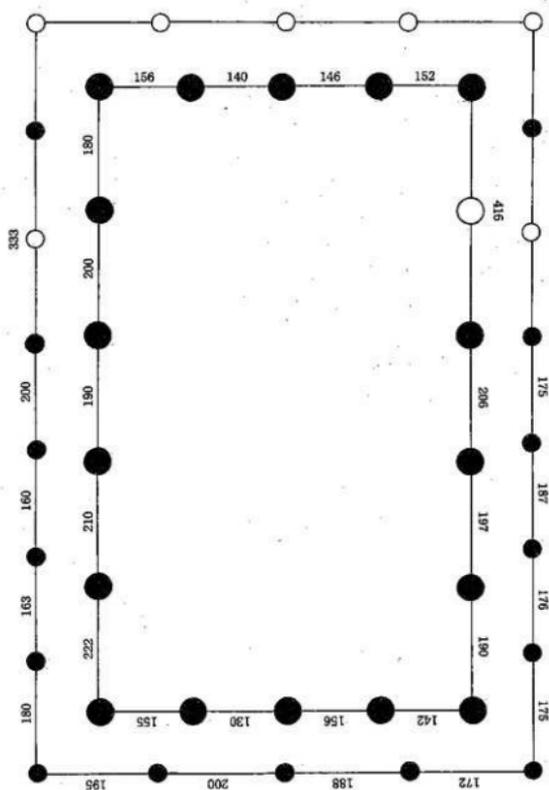


图 9 掘立柱建物跡 2 模式図

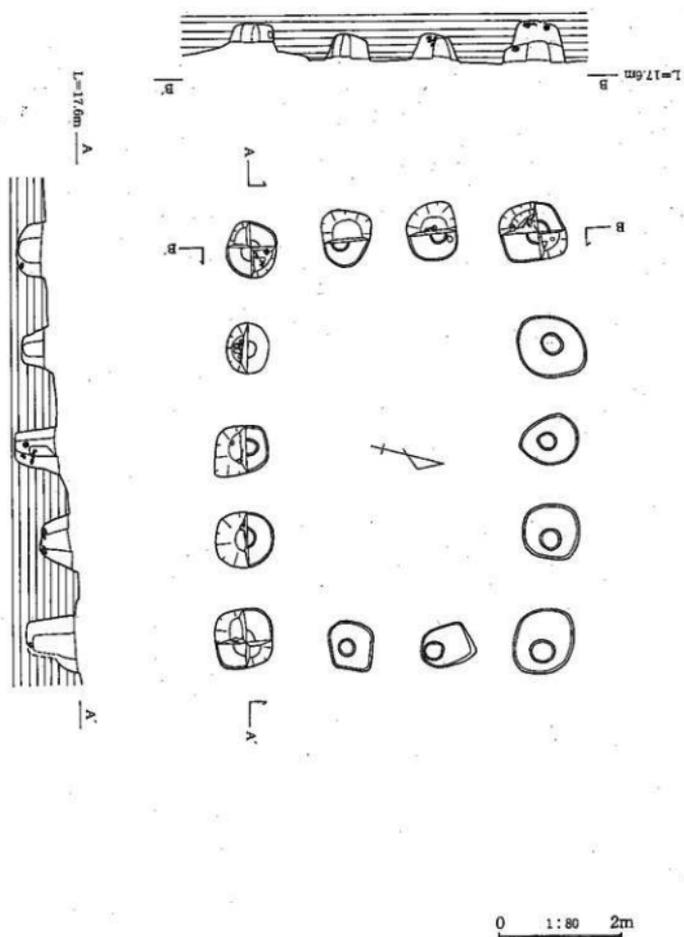


图10 掘立柱建物跡3

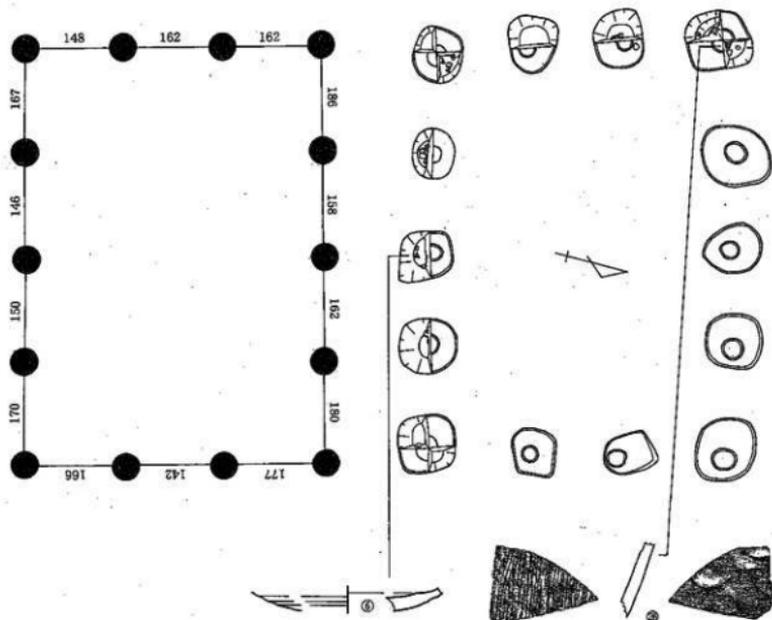


図11 掘立柱建物跡3 模式図

3 掘立柱建物跡3 (図10・11 図版9・10)

桁行4間(6.82m)×梁行3間(4.75m)の掘立柱建物。

建物の棟方位はS-76°-W。建物面積は約32㎡。

柱穴の確認は、掘り方の埋土が2.5Y6/6明黄褐色土で地山に近くやや困難であった。

柱穴の平面形は隅丸方形もしくは楕円形である。柱穴の大きさは70~100cm、深さは40~85cm、柱痕の規模は30~40cm。

柱穴ホ-4の掘り方内では下層を2.5Y8/6黄褐色土で埋めた上に柱痕の2.5Y5/4黄褐色土、まわりを2.5Y6/6明黄褐色土で埋めている。これに対して柱穴ホ-1、柱穴ホ-2、柱穴ホ-3、柱穴ニ-1、柱穴ロー-1、柱イ-1では柱を直接、底面に据えて建てられていた。

柱穴に伴う遺物は2点出土している。柱穴ホ-1の下層から須恵器の坏の小破片(遺物6)が出土し、7世紀以降のものと考えられる。柱穴ホ-4の底から須恵器の臺脚部の小破片(遺物26)が出土した。

この建物に伴う柱穴の特徴は周辺の5世紀代の掘立柱建物に比べて、柱穴掘り方覆土が地山の色調に近く、根石を使わず柱を底面に直に据えて立っているという点で異なっている。

柱穴ホ-4下層の埋め立てについては掘立柱建物跡1、掘立柱建物跡2、掘立柱建物跡5、掘立柱建物跡7の様に意識して礫を混入して埋めているのではなく、単純に土を入れて埋めている。

掘立柱建物跡2の柱穴ホ-1、柱穴ロー-1、柱穴イ-1で見られる柱を安定させるために掘り方内を互層に埋めた作業が見られない。

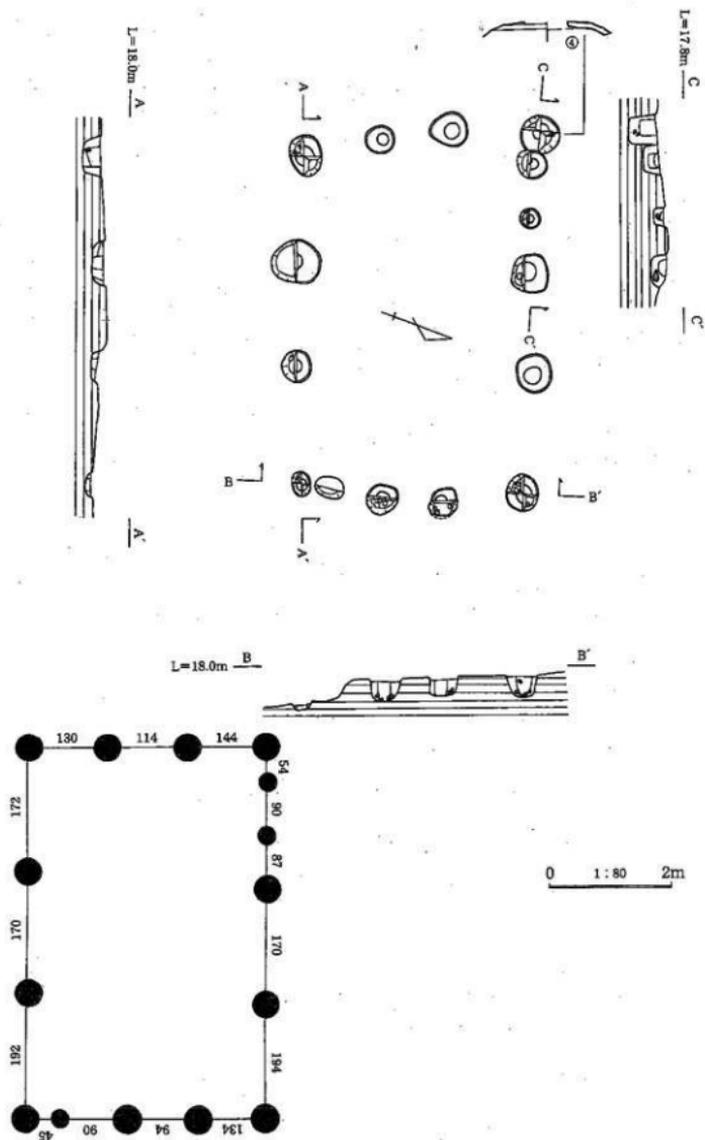


图12 掘立柱建物跡4 模式图

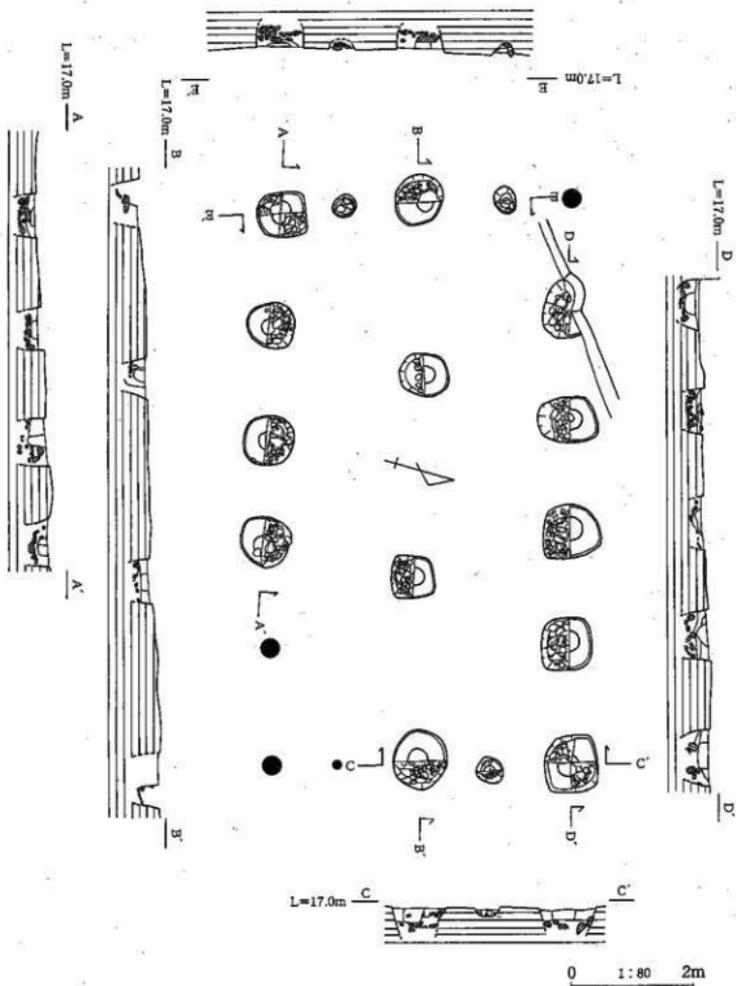


图13 掘立柱建物跡 5

4 掘立柱建物跡4 (図12 図版11・12)

桁行3間(6.04m)×梁行3間(3.85m)の掘立柱建物。

建物の棟方位はS-69°-W。建物面積は約23㎡。

柱穴の確認は、掘り方内の埋土が2.5Y5/3黄褐色土で容易であった。

桁行・梁行とも3間×3間であるが、桁行間の柱間距離が平均して190cmであるのに、梁行間の平均125cmで桁行の方が約1.5倍長い。

柱穴の平面形は円形もしくは楕円形である。柱穴の大きさは40~70cm、深さは30~50cm、柱痕の規模は20~30cm。

柱穴断面形は逆台形、U字形をしている。壁面は直線的に掘りこまれ、底は平底もしくは丸底である。

柱穴ニー1、柱穴ハー1、柱穴ロー1、柱穴イー1、柱穴イー2、柱穴イー3では、柱痕の2.5Y5/4黄褐色土を直接、底に建てて掘り方を2.5Y5/3黄褐色土で埋めていた。

柱穴ニー4と柱穴ハー4の間に小穴1と小穴2が確認でき、柱穴ニー4と小穴1の柱間の距離は54cm、小穴1と小穴2の間は90cm、小穴2と柱穴ハー4の柱間は87cmを測る。柱穴ニー4と柱穴ハー4の間は231cmあり、他の桁行の柱間距離が平均して190cmであるのに対して約40cm長い。この建物の出入り口を考えている。

柱穴に伴う遺物は1点で、柱穴ニー4内から須恵器坏の小破片(遺物4)が出土している。

5 掘立柱建物跡5 (図13・14 図版13・14・15)

桁行5間(9.12m)×梁行4間(5m)、屋内に棟持柱が付く屋内棟持柱建物。

建物の方位はS-72°-W。建物面積は約46㎡。

柱穴の確認は、柱穴の埋土が10Y6/8明黄褐色土で容易であった。

柱穴の平面形は隅丸方形もしくは円形で、大きさは75~100cm、深さは約50~60cmである。柱痕の規模は30~40cm。

柱穴ハー1、柱穴ニー1、柱穴ニー5、柱穴ハー5、柱穴ロー5、柱穴イー5、柱穴イー3は10~20cmの礫を根石として多量に混入し、2.5Y5/4黄褐色土で基礎固めをした上に柱痕の10YR5/4に多い黄褐色土が認められ、そのまわりを10YR6/8明黄褐色土で埋めていた。

柱穴ハー3は下層に5~10cmの礫を根石として多量に混入し、さらに平らな面を上にした約35cmの礎石のような石を乗せている。石の上に柱を建て(柱痕2.5Y5/2暗灰黄色土)、まわりを2.5Y7/6明黄褐色土で埋めていた。

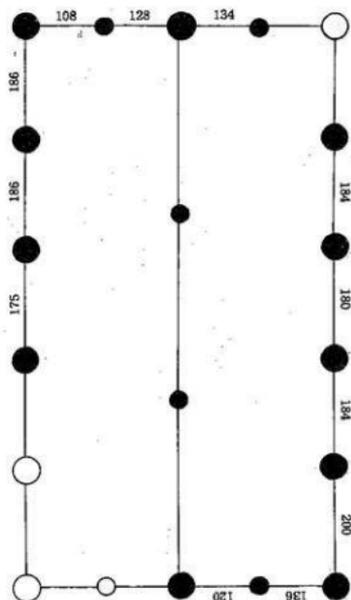


図14 掘立柱建物跡5 模式図

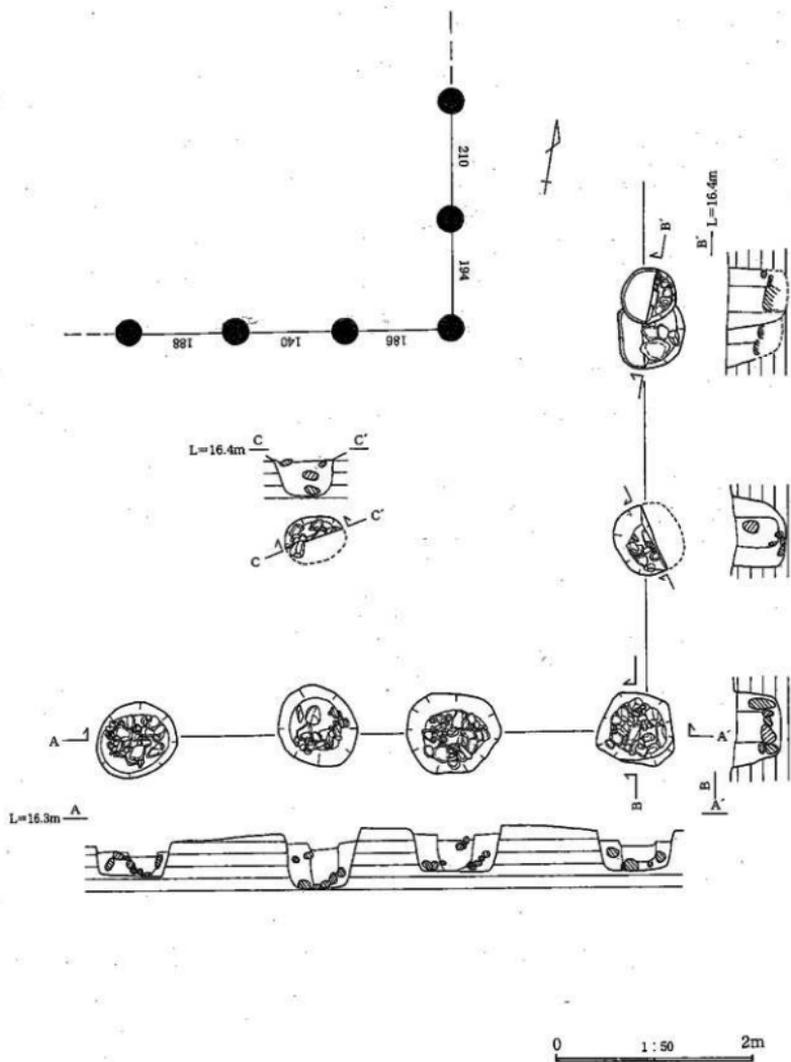


图15 掘立柱建物跡6 模式図

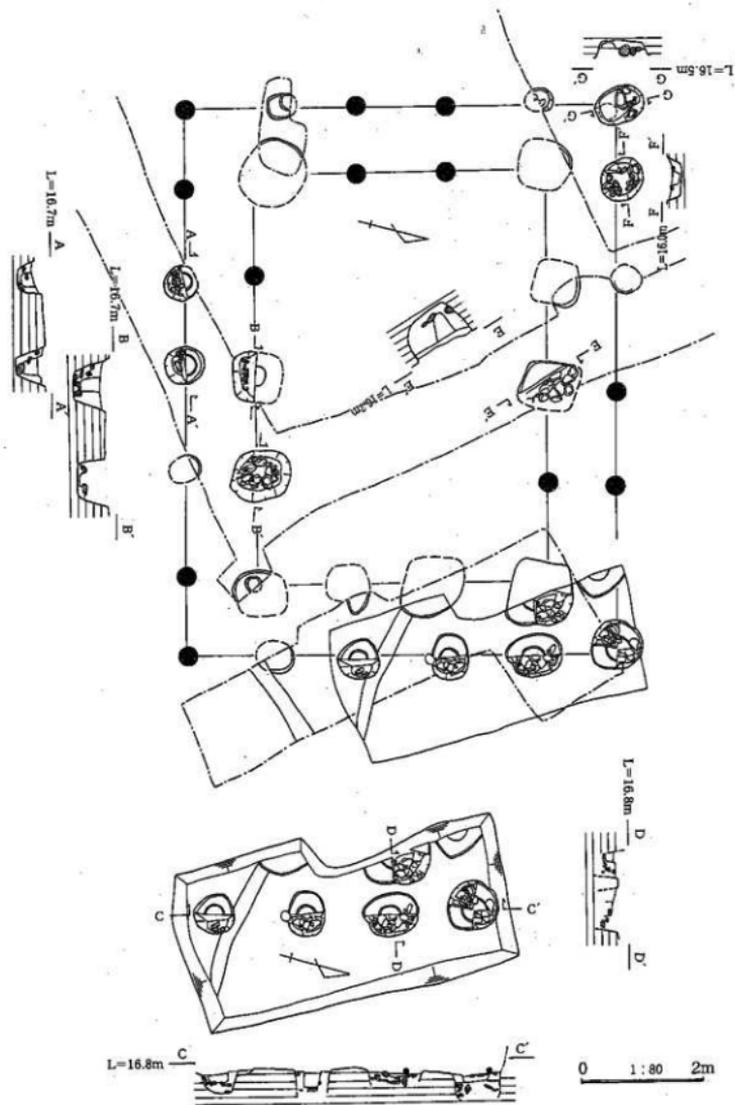


图16 掘立柱建物跡 7

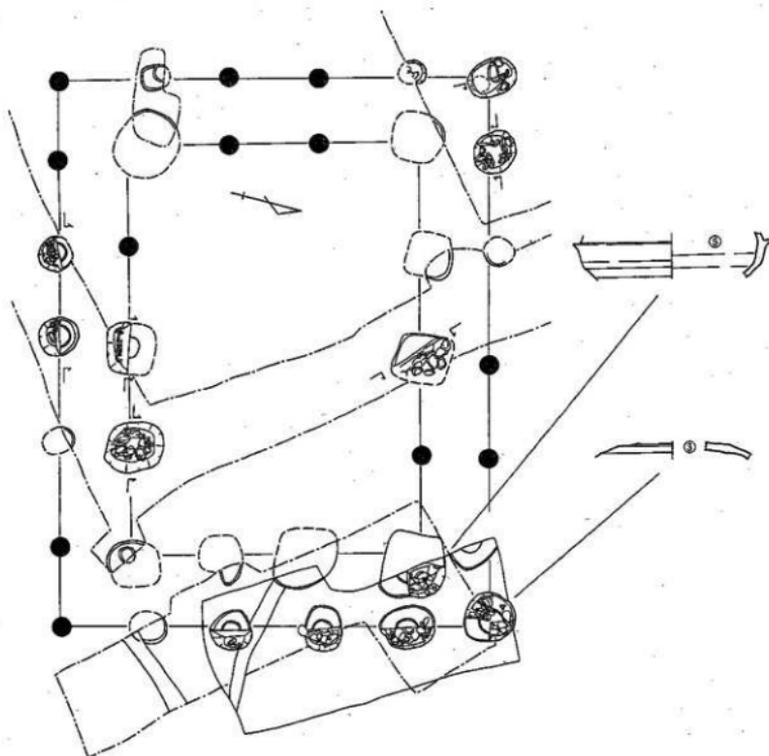


図17 掘立柱建物跡7 遺物図

柱穴ホー1、柱穴ホー5、柱穴ハー1では10~20cmの礫を根石として多量に混入して基礎固めをした上に柱痕の10YR5/4におい黄褐色土が認められ、そのまわりを10YR6/8明黄褐色土で埋めていた。

棟持柱の柱穴の平面形は隅丸方形の棟持柱1と円形の棟持柱2で、大きさは70cm前後、深さは約40cmである。柱痕の規模は約30cmである。欄柱穴に比べ若干、小さく浅い。

棟持柱1は5~15cmの礫を根石として多量に混入し、2.5Y5/4明黄褐色土で基礎固めした上に柱痕の2.5Y4/4オリブ褐色土が認められ、まわりを10YR6/6明黄褐色土で埋めていた。

棟持柱2は10cm前後の根石を入れて柱を建て（柱痕2.5Y5/4黄褐色土）、まわりを10YR6/6明黄褐色土で埋めていた。これらの礫は地山の小笠山砂礫層に含まれるものを使用している。

梁行の大型柱穴の間に一際小さい柱穴へー2、柱穴へー3、柱穴イー4を確認した。平面形は円形で、大きさは35~45cm、深さは20cmである。柱痕の規模は18cm前後である。土壁を支える間柱と考えられる。この建物に伴う遺物は出土していない。

6 掘立柱建物跡6

(図15 図版16・17・19)

8・9次調査で建物群の全体が復元されたため、4次調査の掘立柱建物跡2を掘立柱建物跡6として再録した。結果的に見解が変わったため、以前の内容と一部異なっている。

桁行3間(5.60m)以上×梁行2間(4.70m)以上の規模を持つ。

建物の方位はS-81°-Wと推定される。

柱穴の確認は、柱穴の埋土が7.5YR3/1黒褐色土のため容易で、南辺の桁行柱穴は整地層上面から掘り込まれている。

柱穴の平面形は円形で、大きさは70~90cm、深さは35~60cm、柱痕の規模は28~35cmである。

壁面は直線的に掘り込まれ、底は平底である。断面は逆台形である。

柱穴ニー1、柱穴ハー1、柱穴ロー1、柱穴イー1、柱穴イー2、柱穴

イー3では5~20cmの礫を根石として多量に混入し基礎固めを行ない、上に柱痕の7.5YR2/1黒色土が認められ、そのまわりを7.5YR3/1黒褐色土で埋めていた。これらの礫は地山の小笠山砂礫層に含まれるものを使用している。

柱穴に伴う遺物は柱穴イー1の根石と根石の隙間から、須恵器の瓦泉の口縁部小破片(遺物36)が1点出土した。

7 掘立柱建物跡7 (図16・17・18 図版18・19・20)

掘立柱建物跡6と同様に8・9次調査で建物群の全体が復元されたため、4次調査の掘立柱建物跡1を掘立柱建物跡7として再録した。結果的に見解が変わったため、以前の内容と一部異なっている。桁行4間(6.60m)×梁行3間(4.66m)の身舎の周り四方向に庇が付く四面庇建物。

庇の桁行は6間(9m)、梁行は5間(7.08m)と推定される。

建物棟方位はS-76°-W、建物面積は約64㎡。

掘立柱建物跡2(四面庇建物)と建物面積を比較すると約3分の2の大きさである。

柱穴の確認は、掘り方が7.5YR3/3暗褐色土で容易であった。

身舎部分の柱穴の平面形は隅丸方形もしくは楕円形で、大きさは80~100cm、深さは50~65cm、柱痕の規模は25~35cmである。柱穴断面は逆台形を呈し、直線的に掘り込まれ平底である。

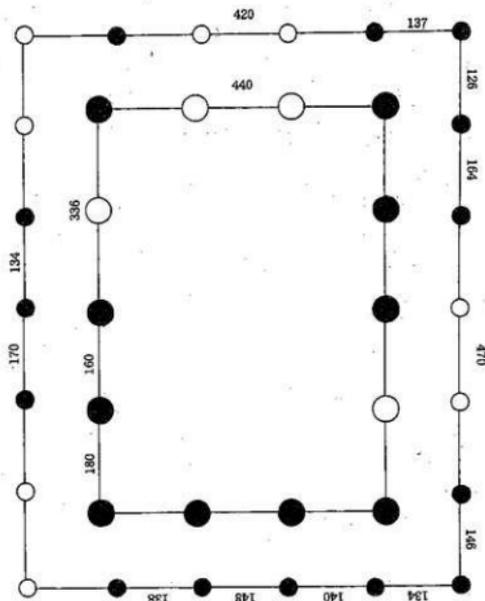


図18 掘立柱建物跡7 模式図

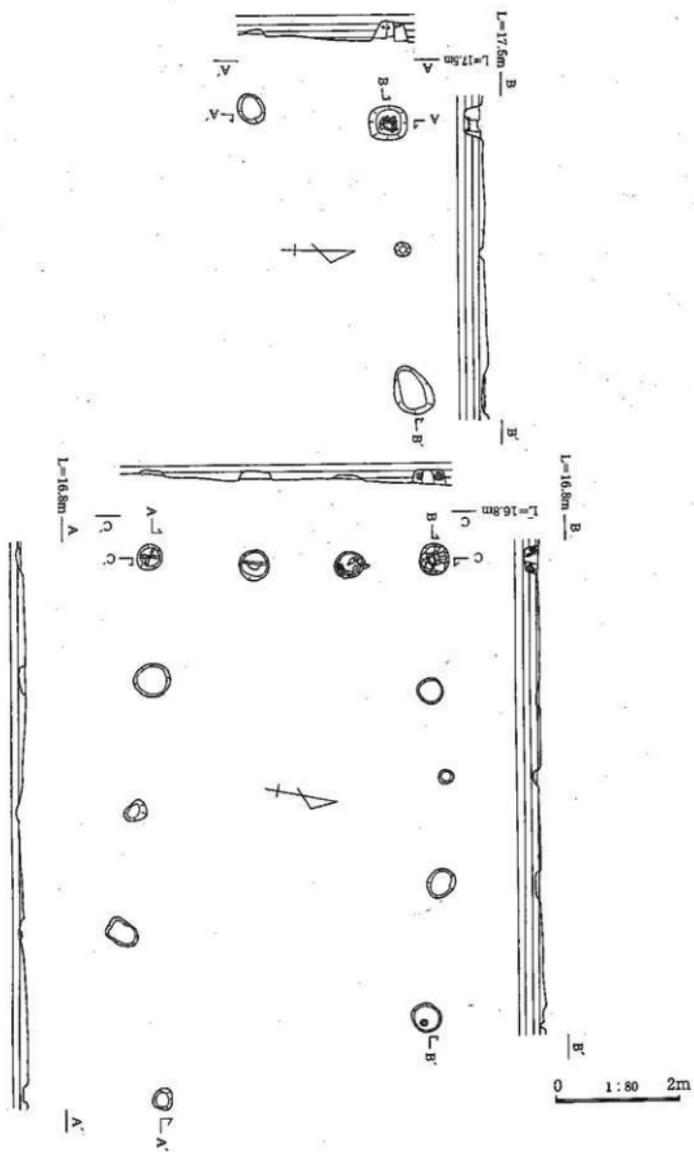


图19 掘立柱建物跡8、掘立柱建物跡10

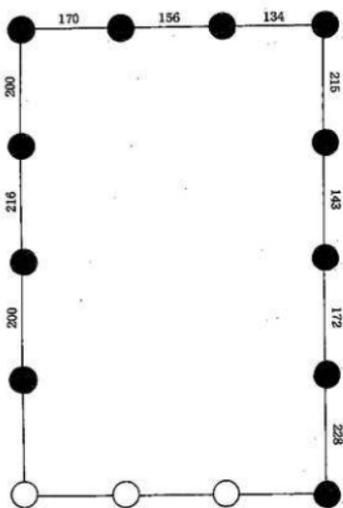
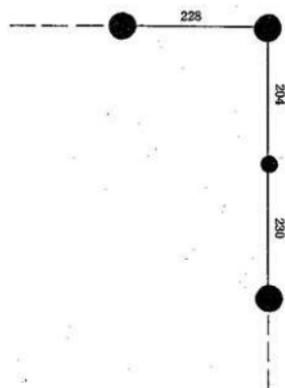


図20 掘立柱建物跡8、掘立柱建物跡10 模式図

9 掘立柱建物跡9 (図21・22 図版22)

桁行3間(6.16m)×梁行1間(3.84m)の掘立柱建物。

建物の棟方位はS-88°-E。建物面積は約24m²。

柱間距離は、桁行間188~222m、桁行間384cmであり、梁行の方が長い掘立柱建物跡である。

柱穴ハ-1、柱穴ロ-1、柱穴ハ-4では10~20cmの礫を根石として混入し基礎固めを行っていた。上に柱痕の7.5YR3/1黒褐色土が認められ、そのまわりを7.5YR3/1黒褐色土で埋めていた。

底部分の柱穴の平面形態は楕円形もしくは円形で大きさは50~90cm、深さは25~50cmで、柱痕の規模は22~42cmである。

柱穴そ、柱穴つ、柱穴ね、柱穴な、柱穴に、柱穴は、柱穴お、柱穴わ、では5~20cmの礫を根石として混入し基礎固めを行っていた。上に柱痕の2.5Y6/2灰黄色土が認められ、そのまわりを2.5Y6/3黒褐色土で埋めていた。

これらの礫は地山の小笠山砂礫層に含まれるものを使用している。

柱穴に伴う遺物は2点で身舎部分の柱穴イ-4根石の間から須恵器杯の破片(遺物5)が出土しており、5世紀後半のものと考えられる。底部分の柱穴そ、の検出面から須恵器杯の小破片(遺物3)が出土した。

8 掘立柱建物跡8 (図19・20 図版21)

桁行2間(4.34m)以上×梁行1間(2.28m)以上の掘立柱建物。

建物の棟方位はS-89°-E。

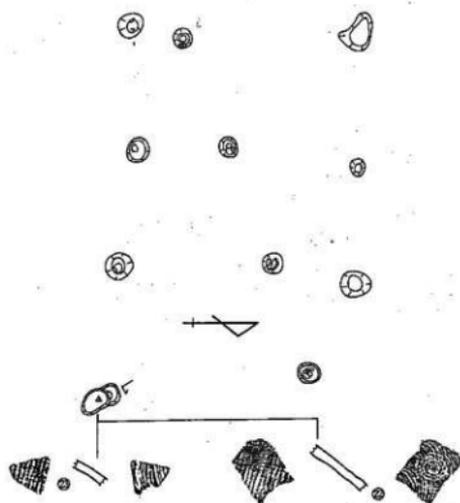
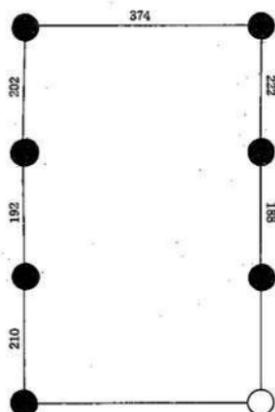
柱穴の確認は、削平が深くまで及んでおり、建物の南半は検出できなかった。

柱穴の平面形は隅丸方形もしくは楕円形で、大きさは20~60cm、深さは10~35cm。

柱穴断面は柱穴1、柱穴2、柱穴4は逆台形で、柱穴3は半円形である。

柱穴2では、底面に10cm前後の礫が根石として置かれ、上に柱を立てて掘り方を埋めている。

柱穴に伴う遺物は出土していない。



柱穴の確認は、掘り方内が5Y5/2灰オリーブ色土で容易であった。

柱穴の平面形は円形で、大きさは30~40cm、深さは15~35cmで、柱穴断面は逆台形を呈し、直線的に掘りこまれ、平底である。

柱穴底面に柱を建て(5Y5/2灰オリーブ色土)、そのまわりを地山混じりの5Y5/2灰オリーブ色土で埋めていた。

柱穴に伴う遺物が2点で柱穴イ-1(新)内から須恵器の壺胴部の小破片(遺物22,23)が出土した。

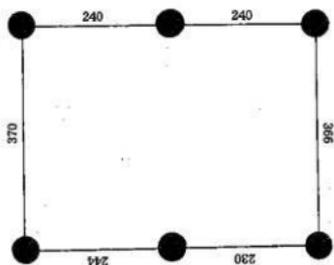


図22 掘立柱建物跡9. 11 模式図 遺物図

10 掘立柱建物跡10(図19・20 図版23・24)

桁行4間(7.6m)×梁行3間(4.88m)の掘立柱建物。

建物の棟方位はS-79°-W。建物面積は37㎡。

柱穴の確認は、削平が深くまで及んでおり、建物東辺の柱穴のほとんどが検出できなかった。

柱穴の平面形は円形で、大きさは30~40cm、深さは4~24cm、柱穴断面は逆台形である。

柱穴ホ-4では底面に柱を据えた痕跡がみられ、柱を安定させるため、周りに10~20cmの礫を多量に入れていた。柱穴に伴う遺物は出土していない。

11 掘立柱建物跡11 (図21・22)

桁行2間(4.72m)×梁行1間(3.60m)の掘立柱建物。

建物の棟方位はS-87°-E(変換)。建物面積は17㎡。

柱間距離は桁行間2.3~2.44m、梁行間3.66~3.7mであり、梁行の方が長い掘立柱建物である。

柱穴の平面形は円形で、大きさは25~35cm、深さは15~35cm。柱穴断面は逆台形もしくはU字形である。柱穴に伴う遺物は出土していない。

12 柵列跡1 (図21・22 図版22)

検出した限りでは、4間(7.37m)の小規模な柵列である。掘立柱建物跡9に重複する場所で確認された。

柱穴の平面形は円形で、大きさは30~35cm、深さは20~30cm。柱穴断面は逆台形もしくはU字形である。

柱穴内を5~15cmの礫と地山混じりの2.5Y4/3オリーブ色土で埋めている。柱穴に伴う遺物は出土していない。

13 広場(整地層) (図23・24 図版25・26・27・28)

1999年の4次調査の時点で整地層が確認されている。西方向に開く自然の小支谷を埋め立て平坦部を造り、広場としている。整地層内から多量の土師器が割られた状態で出土している。旧谷岸下層で祭祀土坑が見つかり、土坑の底に甕の破片を敷き、甕の上半分を上下逆さまに置き、内側に丸い壺を入れ、壺と甕の隙間に甕片や高坏などの破片を詰めていた。旧谷下層で3~25cmの大小様々の礫を多量に混入された暗栗排水が見つかり、底は西に向けて緩やかに傾斜している。

今回の8次調査で整地層の東端を確認した。谷の幅は約11mで深さは3~6cmで浅い。土師器の甕や壺などの破片が出土した。いずれも小破片のため図示できたのは壺底部の破片(遺物17)であった。同様に9次調査の1トレンチで整地層の続きを確認した。トレンチ内南西端で西方向に一段深くなっている。断面は2.5Y5/3黄褐色土や2.5Y6/4にぶい黄色土などに5~20cmの礫を混ぜ埋めている。

土師器の甕や壺、小型埴などの破片が割られた状態で出土した。窪みの縁に遺物の出土が多く、恐らく人為的に意識して割られたものと推測される。

高坏口縁部の破片(遺物7)、高坏脚部の破片(遺物9,10,11)、壺口縁部の破片(遺物15)、壺胴部(遺物18)、壺底部(遺物17)、甕口縁部(遺物19,20)、小型埴(遺物21)を図示した。

14 土壇 (図26・27 図版29・30・31・32・33)

8次調査区の北東隅で奈良時代と考えられる土壇を確認した。

土壇の北西側裾は、茶畑の区画ために削られ、北東側は道路で大きく削平され、南側裾も攪乱が及んでいた。以上のことから本来の平面形が円形もしくは方形であったかは判然としない。

土壇の規模は、現状で南北方向が10.6m、東西方向で11.3mを測る。高さは表土・攪乱土を除いた状態で0.9mである。

旧表土(2.5YR5/2暗灰黄色土)の上に2.5Y7/4浅黄色土、2.5Y6/2灰黄色土、2.5Y7/6明黄褐色土を

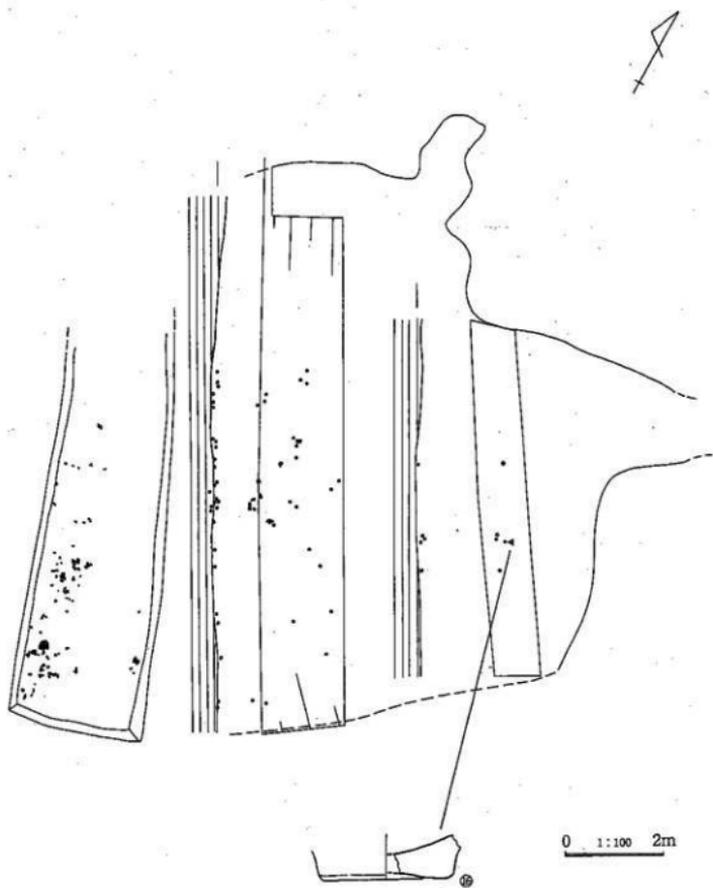


图23 整地土 遺物図

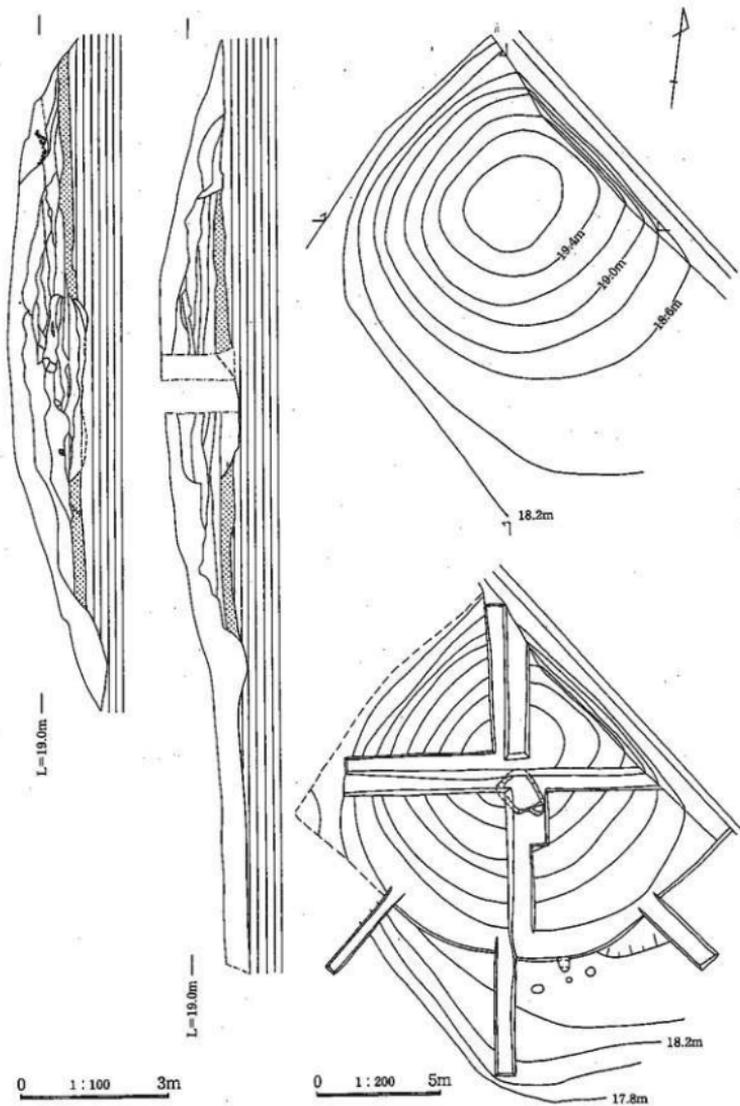


图25 土壤

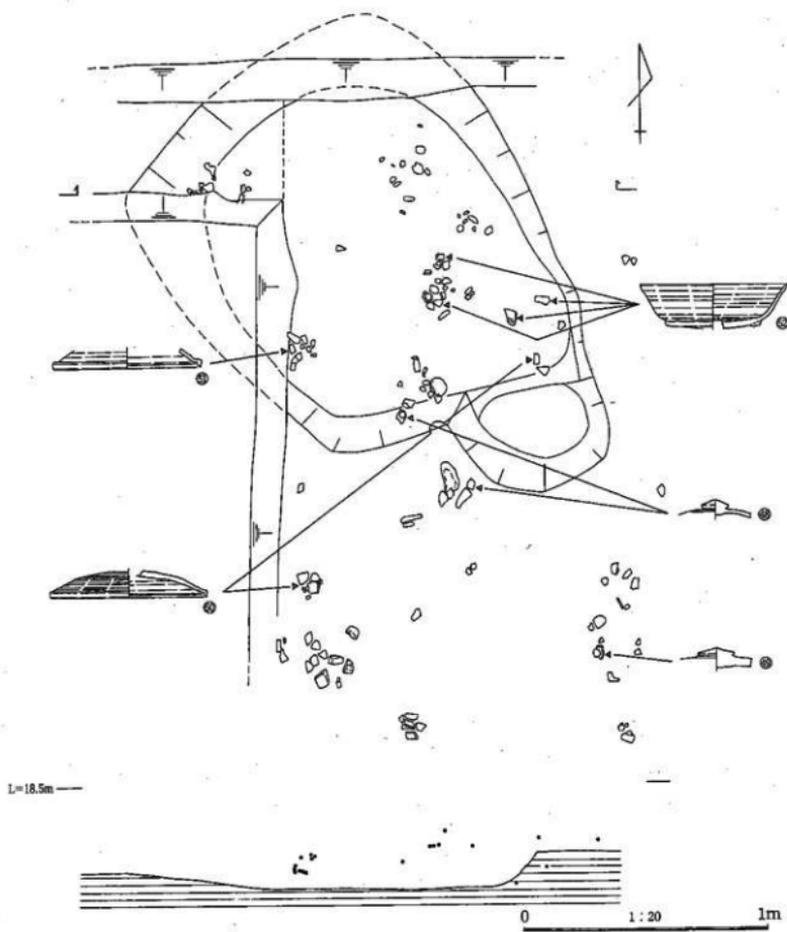


图26 土坑

互層に積んで、その上に覆い被さるように5Y7/4浅黄色土を積んでいた。

土壇下の中央から土坑が検出された。平面形は隅丸方形で南東隅に出っ張りが付く土坑で長軸が2.15mで短軸が1.5m、深さが40cmである。旧表土上から掘られ、覆土は10YR5/3にぶい黄褐色土である。出っ張りの付く部分が二段掘りで、底は平底である。

土壇南裾から小穴、土坑2と考えられる遺構が検出された。土坑2の平面形は途中までしか検出していないため不明であるが、遺物は5世紀代の土師器片が出土している。

土坑1埋土内から、奈良時代の須恵器坏蓋（遺物48,50,51）、須恵器坏身（遺物52）が割られた状態で出土した。また、土壇の擾乱土層から中世の山茶碗などの遺物が出土しているものの、擾乱を受けていない盛土内からは遺物が出土していない。土壇下の中央に土坑が検出されており、土坑で祭祀を行なった後すぐに、土壇を造ったものと考えられる。

15 溝状遺構1, 2 (図28 図版34・35)

溝状遺構1は、長さ約20m、幅は0.8~2m、深さは0.15~0.25mである。断面形は逆台形、半円形などである。レンズ状に堆積しており、自然堆積と考えられる。

溝状遺構2は、長さ約6m、幅は0.8~1m、深さは0.15mである。断面形は逆台形である。水平な土層から自然堆積したものであろう。溝内より奈良時代の須恵器坏蓋（遺物54）が1点出土した。

これらの溝は緩やかに西方向へ傾斜している。溝状遺構1の埋土は7.5YR5/3にぶい褐色土、溝状遺構2の埋土が7.5YR4/3褐色土でかなり類似している。同時期の遺構と考えている。

16 南側谷地形 (図29 図版36・37・38・39)

調査区の南端で谷地形を確認した。この谷は西方向に開き、4トレンチと2トレンチの間で幅は約16.5mで急に深くなっている。現在は東西方向の道路が通り約1.6m埋め立てられていた。

1トレンチで人工的に掘られた溝状遺構を確認した。なかに土師器片が混入されていた。

2トレンチと3トレンチの下層で5Y5/2灰オリブ色粘土の層を確認した。谷津田の床土と考えられる。底面で準大の礫を並べた集石列が見つかった。暗渠排水であろう。

4トレンチの谷地形下層の10YR3/2黒褐色土、10YR3/1黒褐色土の流込み土から土師器の破片が出土した。台地上で使用されていた土器と考えられる。

谷地形を境に南側の台地では遺構・遺物など確認されなかった。建物群の南の境界と考えられる。

17 5次調査で確認された遺構 (図30・31 図版40・41・42・43)

調査区は、畑の境界溝や削平などにより遺構が破壊されている個所がみられる。検出された遺構についても全般的に浅い。掘立柱建物跡1棟、土坑4基、焼土坑3基、溝状遺構1条、小穴を確認した。

調査区の東端で掘立柱建物跡1を確認した。桁方向が調査区外に伸びているため、確認された範囲で桁行1間以上(2.22m)×梁行3間(4.16m)である。建物の棟方位はS-86°-Wである。

柱穴の検出は、掘り内方が2.5Y5/2暗灰黄色土、2.5Y3/3暗オリブ褐色土などで容易であったが、畑境溝と重なっている場所では、柱穴より溝の方が深いため残っていないかった。

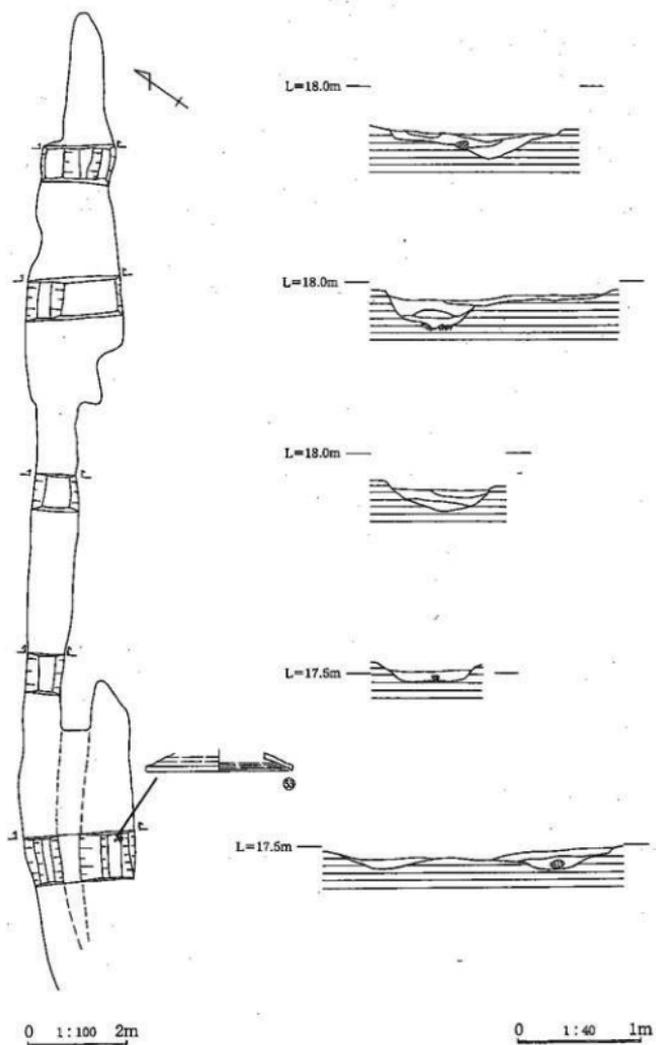


圖27 溝状遺構

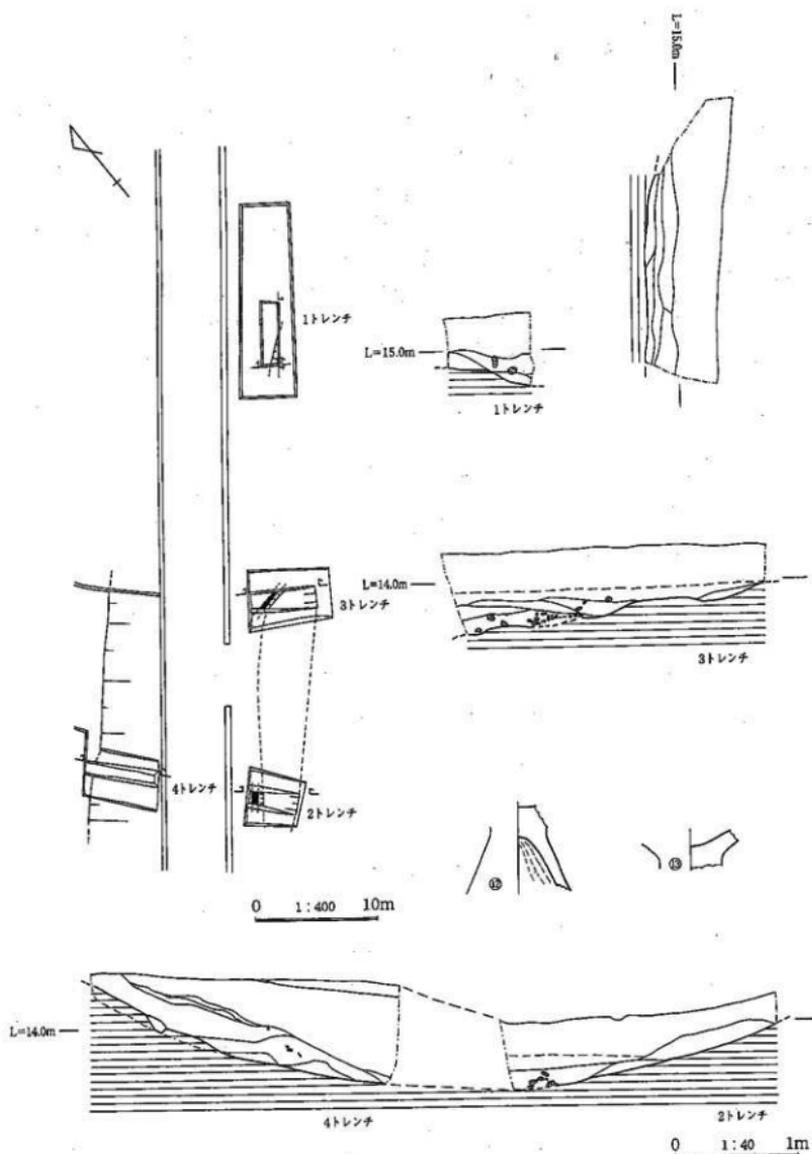


図28 南側谷地形

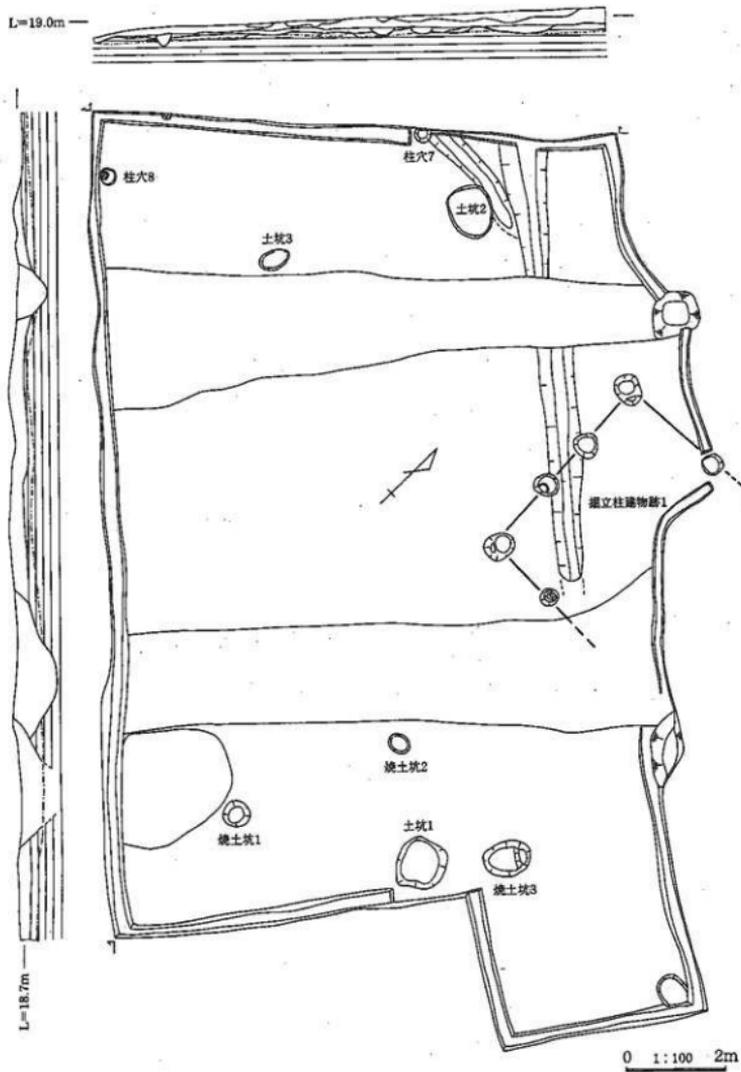


圖29 古新田5次調査遺構圖

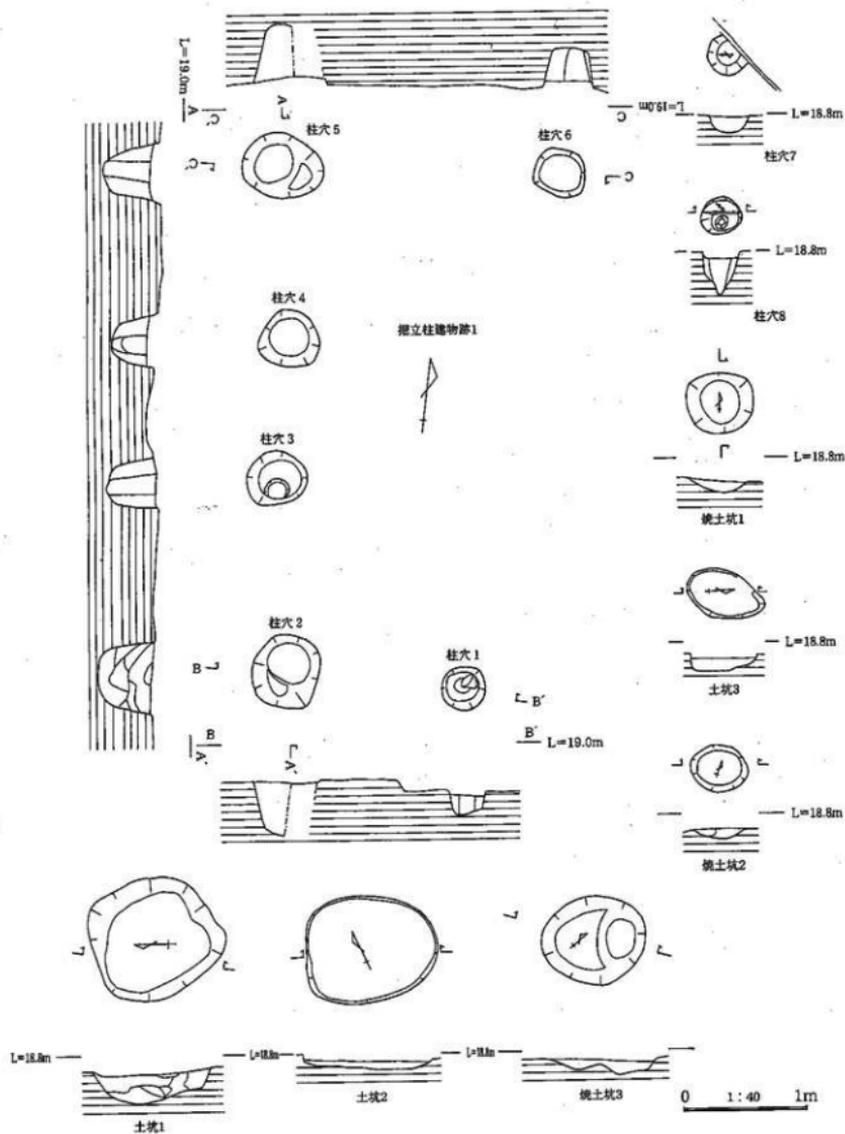


图30 掘立柱建物跡1·土坑·燒土坑

柱穴の平面形は円形で、断面形は逆台形、U字形をしている。大きさは30～55cm、深さは20～45cm、柱痕の規模は15～20cmである。柱穴3から土師器の小破片が出土している。

土坑、焼土坑の両者とも削平が及んでおり、深さが10～25cmと残りが悪い。焼土坑3で焼土、炭混じりの10Y R5/6黄褐色土が確認された。

第4章 出土遺物

1 8・9次調査出土遺物（古墳時代）

今回の調査で遺物は、コンテナケースで3箱出土し、整地層から纏まって出土しているものの、掘立柱建物跡からの出土は非常に少なく、年代の分かる遺物は限られている。

遺物は土師器が大半を占めており、器種は高坏、壺、甕、小型埴など殆ど整地層からの出土で、ほとんどが破片である。また小破片が多いため図示できた遺物は限られている。柱穴から出土したものもあるが少量であった。須恵器の出土は極少量で器種は坏、高坏、甕片などで柱穴からである。

1～6は須恵器の小破片で、高坏、坏蓋、坏身である。1・2は短脚1段透かしの高坏脚部破片である。同一個体と考えられる。方形の透かしが認められ、面取り調整がされ、四方向に透かしが施されていると考えられる。脚端部を玉縁状に仕上げている。器表に弓のような模様へラで描かれている。表面は灰色(10Y5/1)で、断面は暗赤褐色(2.5YR3/4)を呈する。特徴からTK208以前のものと考えられる。

1は掘立柱建物跡1の柱穴ニ-4検出面から、2は掘立柱建物跡1の柱穴イー-2検出面から出土した。

3・4は坏蓋の破片である。天井部に回転へラ削りが認められる。3は器表が灰色(7.5Y6/1)、断面は灰黄褐色(10YR5/2) 4は器表が灰色(5Y6/1)、断面は黄灰色(2.5Y6/1)を呈する。

3は掘立柱建物跡7の柱穴ソの検出面から、4は掘立柱建物跡4の柱穴内から出土した。

5は坏身の破片である。回転へラ削りが丁寧に上半部まで施されている。器表は灰色(7.5Y6/1)で、断面は灰色(7.5Y7/1) 5世紀後半のものであろう。掘立柱建物跡7の柱穴イー4根石の間から出土した。

6は無台碗と考えられる。底部は未調整である。8世紀前半と考えられる。器表、断面とも灰白色(N7/0)を呈する。掘立柱建物跡3の柱穴ハ-1の下層から出土している。

7～21は土師器の破片で、高坏、壺、甕、小型埴などの器種が検出されている。8・14は柱穴から出土し、ほとんど整地土から出土している。

7は高坏口縁部の破片である。緩やかに外反しながら立ち上がっている。

8～13は高坏脚部の破片である。脚部上半がややエンクシス状を呈し、下位では外に屈曲していると考えられる。8～12の内側にシボリ痕が認められた。8～10は整地層上層から、11は掘立柱建物跡2の柱穴ヘ-1下層から、12・13は南側谷地形から出土した。

14は二重口縁壺の口縁部破片である。口縁部が外に向って開いている。掘立柱建物跡1の柱穴い、の下層から出土している。

15は壺の口縁部破片である。くの字状に開き、端部は丸くおさめている。整地層上層より出土した。

16・17は甕の底部破片である。16は底面が窪んでいる。整地層上層より出土した。

18は口縁部が欠損した球形胴の壺である。内面に板ナデ調整がされている。整地層上層より出土した。

19は甕の口縁部破片で、くの字状に開いている。整地層上層より出土した。

20は壺の口縁部破片と考えられる。整地層上層から出土。

21は小型埴で、口縁部は欠損している。胴部内外面に指などで痕が認められる。整地層上層より出土。

22～27は須恵器甕の小破片で、柱穴からの出土である。

22・23は外面を平行叩きの後、カキ目が施されている。内面に同心円叩きが認められる。器表、断面ともに灰色(5Y5/1)を呈する。掘立柱建物跡9の柱穴イー-1(新)内から出土した。

24は外面に平行叩きが認められ、内面はナデ調整が施されているものの同心円叩きが残る半すり消しで、器表は灰色(5Y6/1)、断面は灰色(N5/0)である。掘立柱建物跡1の柱穴イー-3の検出面から出土した。

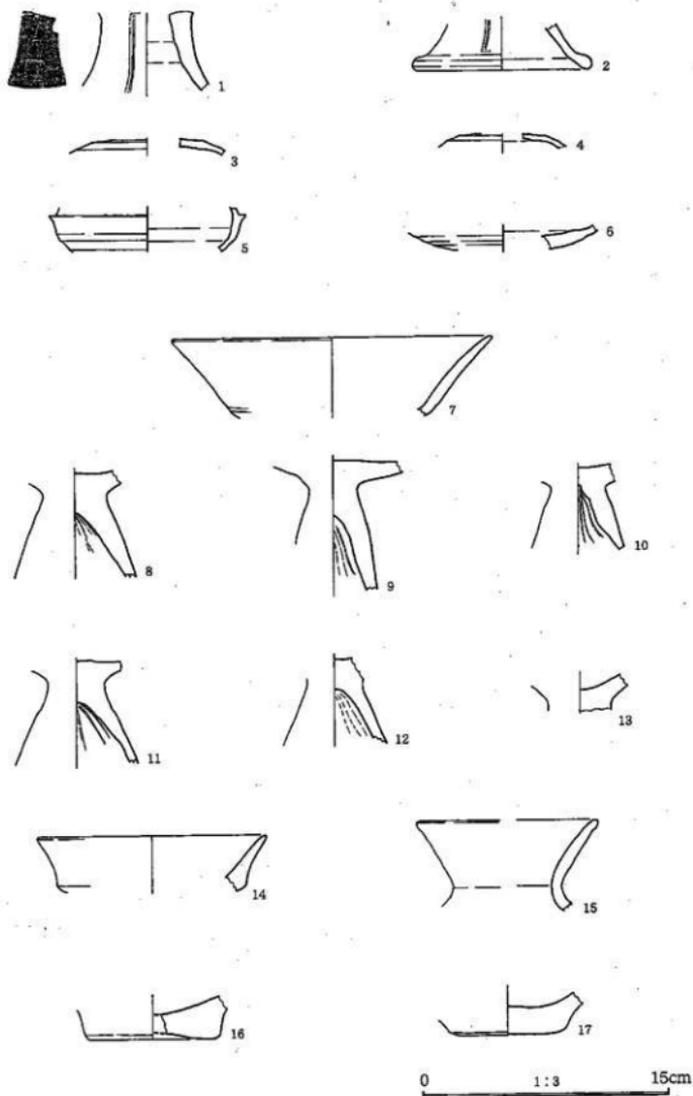
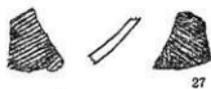
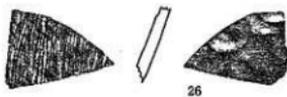
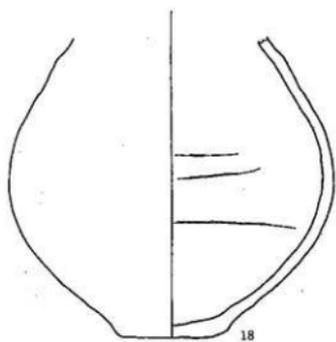


图31 古新田遺跡 8、9次調査出土遺物 1



0 1:3 15cm

图32 古新田遺跡8. 9次調査出土遺物2

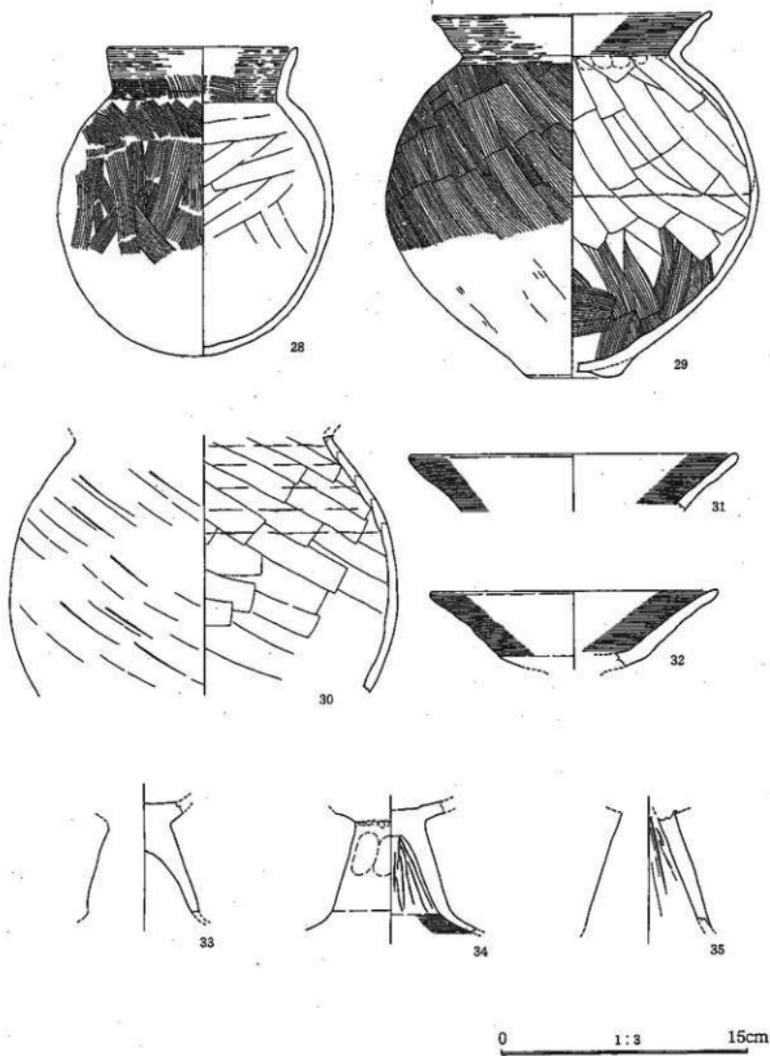


図33 古新田遺跡 8. 9次調査出土遺物 3

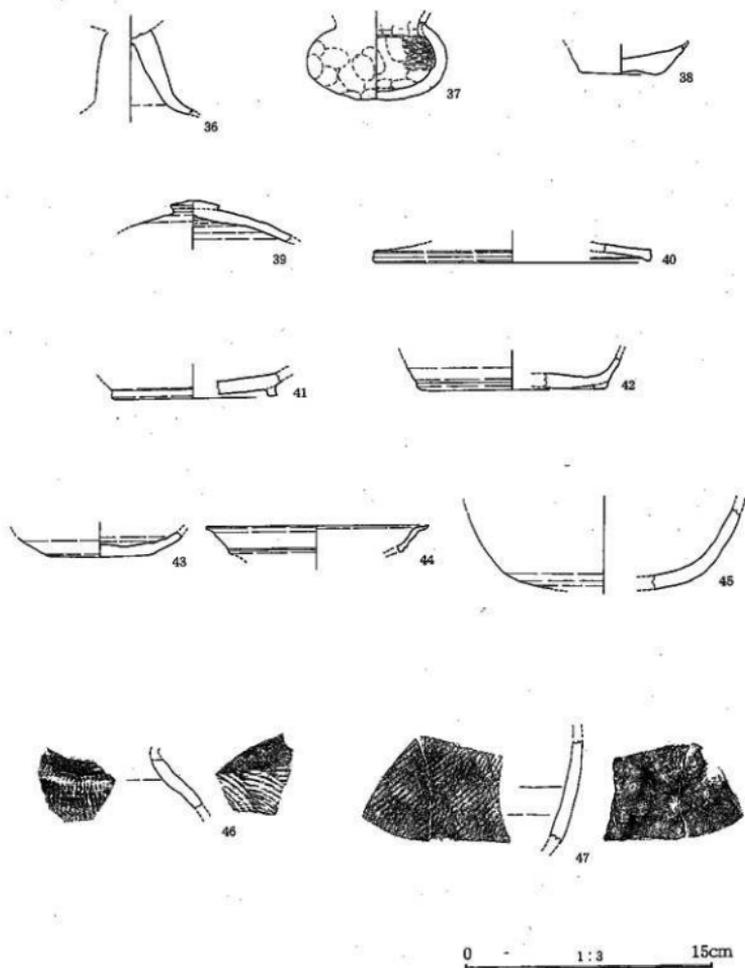


图34 古新田遺跡 8、9次調査出土遺物 4

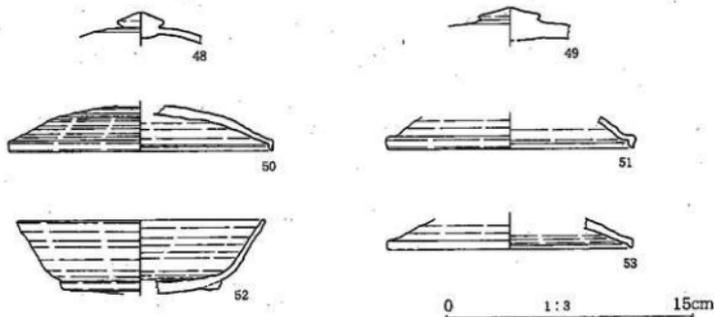


図35 古新田遺跡 8. 9次調査出土遺物 5

3 8次調査出土遺物（奈良時代）

48・50・51・53は坏蓋の破片である。48～52は土坑1と周辺から、53は溝状遺構2からである。48は小型の扁平宝珠状つまみが付き、49は48にくらべ大きい扁平宝珠状つまみであることから、皿の蓋と考えられる。

50はつまみが欠損しているものの全体に弓張り状をなし、天井部に同心円状にヘラケズリを施す。天井部から端部へは外反気味で、端部は折り曲げられ、横ナデ調整により三角状である。

51は端部が明瞭に折り曲げられ、横ナデ調整により三角状にしている。

53は横ナデ調整により三角状に仕上げられている。

52は坏身の破片である。口縁部は若干外反し、体部と底部の間は緩やかに曲がり、底部は高台より下に張り出している。土坑1内から出土した。

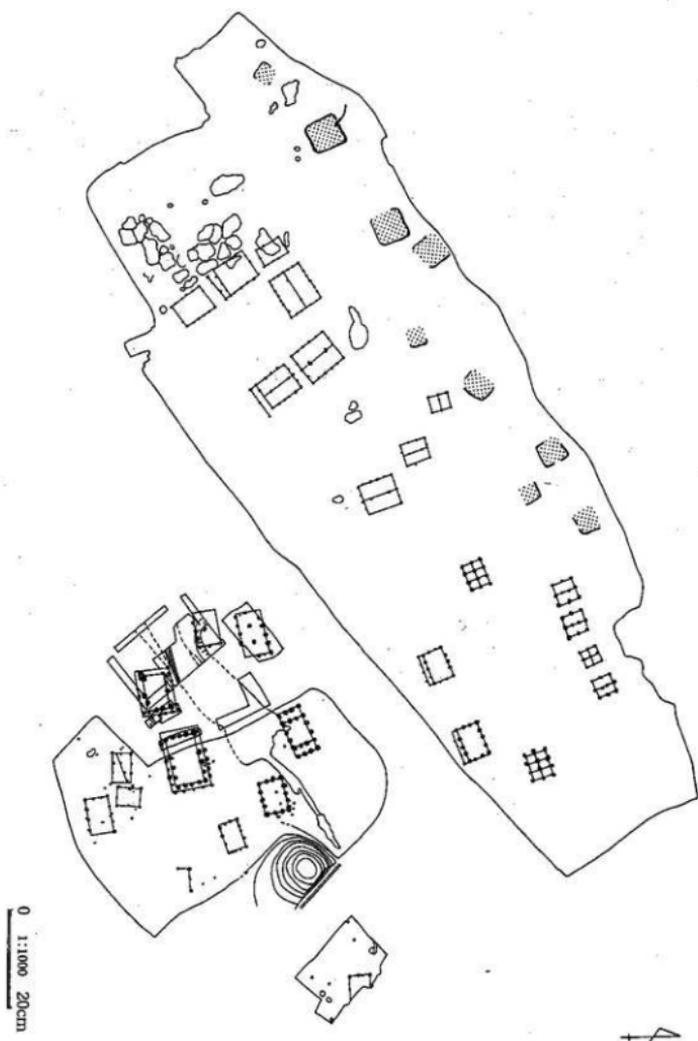


图36 古新田遺跡全体配置図

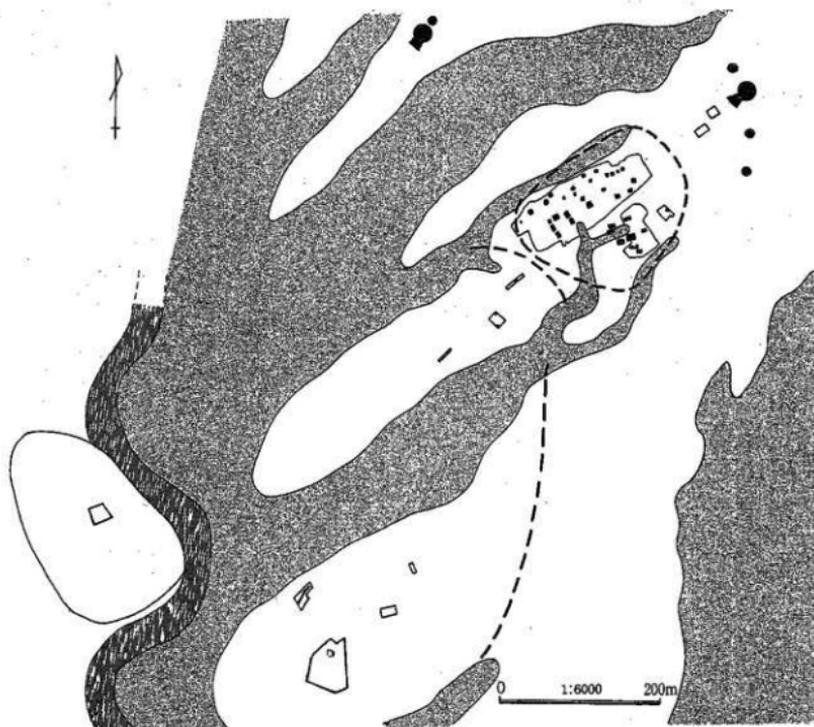


図37 古新田遺跡周辺の概念図

第5章 総括

1. 4、5次調査から8・9次調査までの概観

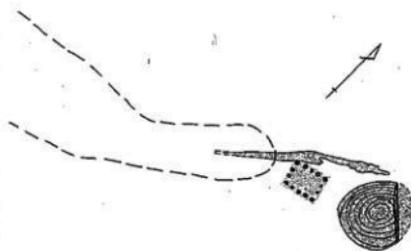
4次調査では、1999年の個人住宅建設に先だてて行ない、四面庇建物1棟と掘立柱建物が1棟発見され、居館を構成する建物群の一部が、1次調査の南に広がっていたことが確認された。それらの建物は小さな谷を埋め立ててから、建物を建てていたことが分かった。

さらに2002年、4次調査より70m東の場所で5次調査を行ない、同時期と考えられる掘立柱建物や土坑などを確認した。

今回、2003年から2004年の浅羽町立東幼稚園の建設に先立って行なった8・9次調査では、4次調査で検出された以外に新たにもう1棟の四面庇建物、東西両側に庇が付く掘立柱建物、屋内棟持柱建物などの特徴的な建物群が確認された。この建物群は小さな谷を埋めて造られた広場を中心に建てられていた。

物が同時に存在していたとは想定しにくく、建替えが行なわれたものと考えられる。

これらの建物の中で一番古い建物は、5世紀後半の掘立柱建物1と言える。掘立柱建物2、5、6、7は方位が近く出土遺物などから5世紀末から6世紀初頭のものと考えおり、この建物群の新古関係を見出せるところまでは至っていないが、四面庇建物を主殿として、数棟の建物で構成されていたようである。



8世紀代に建てられた建物をⅡ期とする。掘立柱建物3はⅠ期の建物群とは違い、柱穴内に根石が確認できず、掘り方も単純に一気に埋め戻され、下層より8世紀前半の遺物が出土していることから、奈良時代の建物である。この建物の北には細長い溝状遺構が確認されている。溝底から8世紀前半の遺物が出土している。また、建物の直

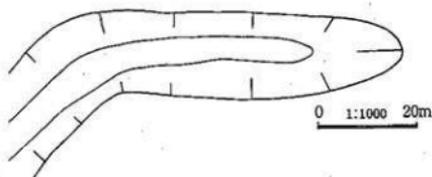


図40 遺構変遷図3 (5～9次調査区/8世紀)

ぐ東側に8世紀代の土壇と考えられる遺構が見つかり、同時期にこれらがセットで存在した可能性があり、祭祀場と関連施設として機能を果たしていたと思われる。この主館域は、以前より言われていた1次調査の主館域の後に、新たに造られたものではないかと推定している。

この度の調査でも居館の内と外を分ける櫓や漆などの防壁施設は見つからなかった。調査区は茶畑の開発で地表より、50～60cm削平・攪乱を受けているため、櫓の柱穴は消滅してしまったのであろうか。ただ調査区南側は谷地形になっていることから、漆の替わりをしていたかも知れないが想像の域は出ない。

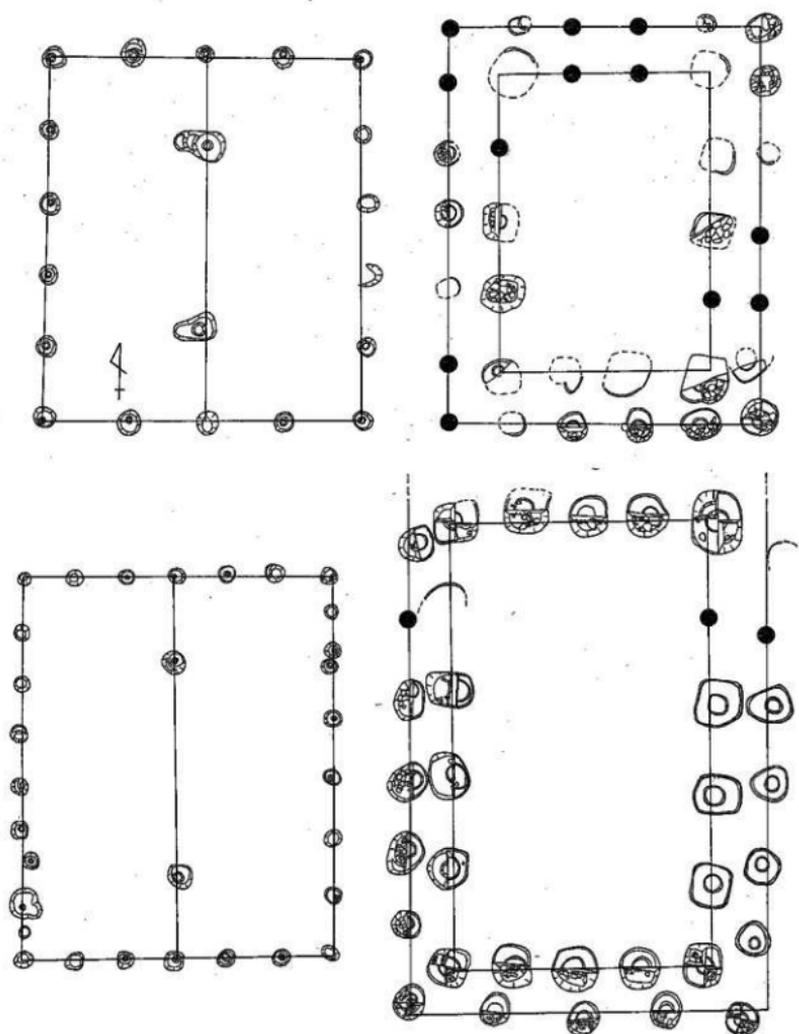


図41 1次調査区と8・9次調査区の建物の比較図1

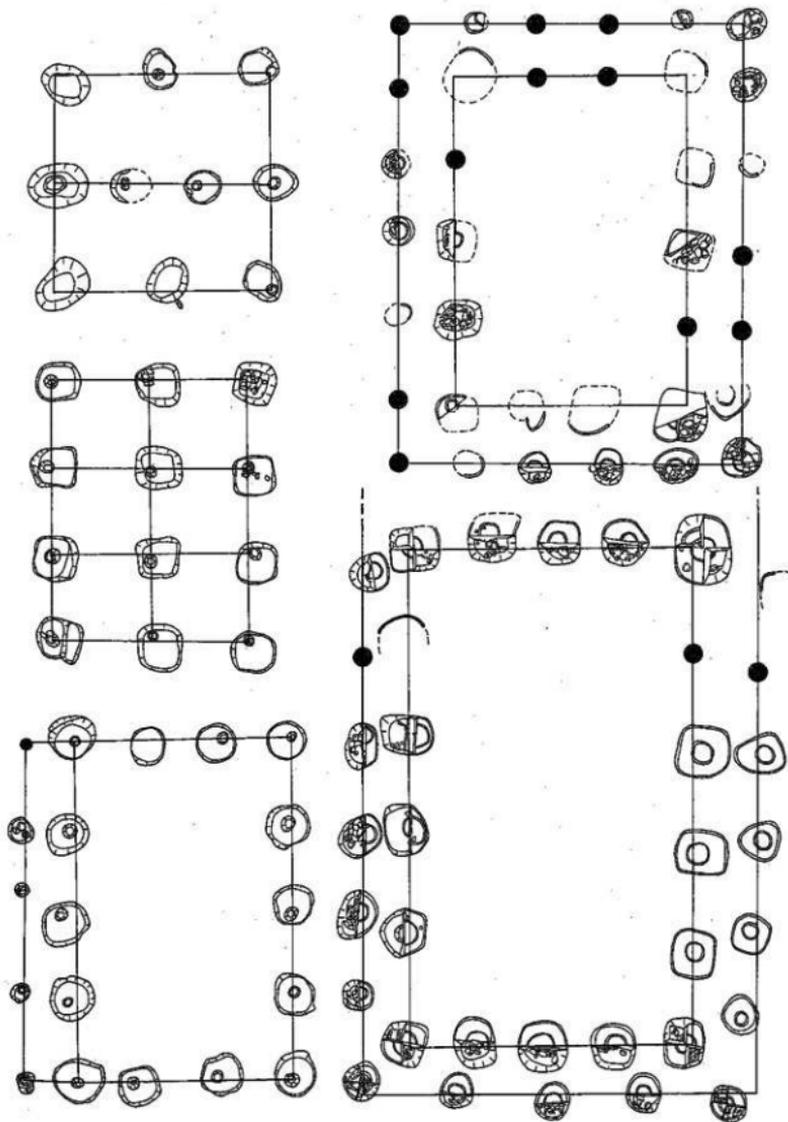


図42 1次調査区と8・9次調査区の建物の比較図2

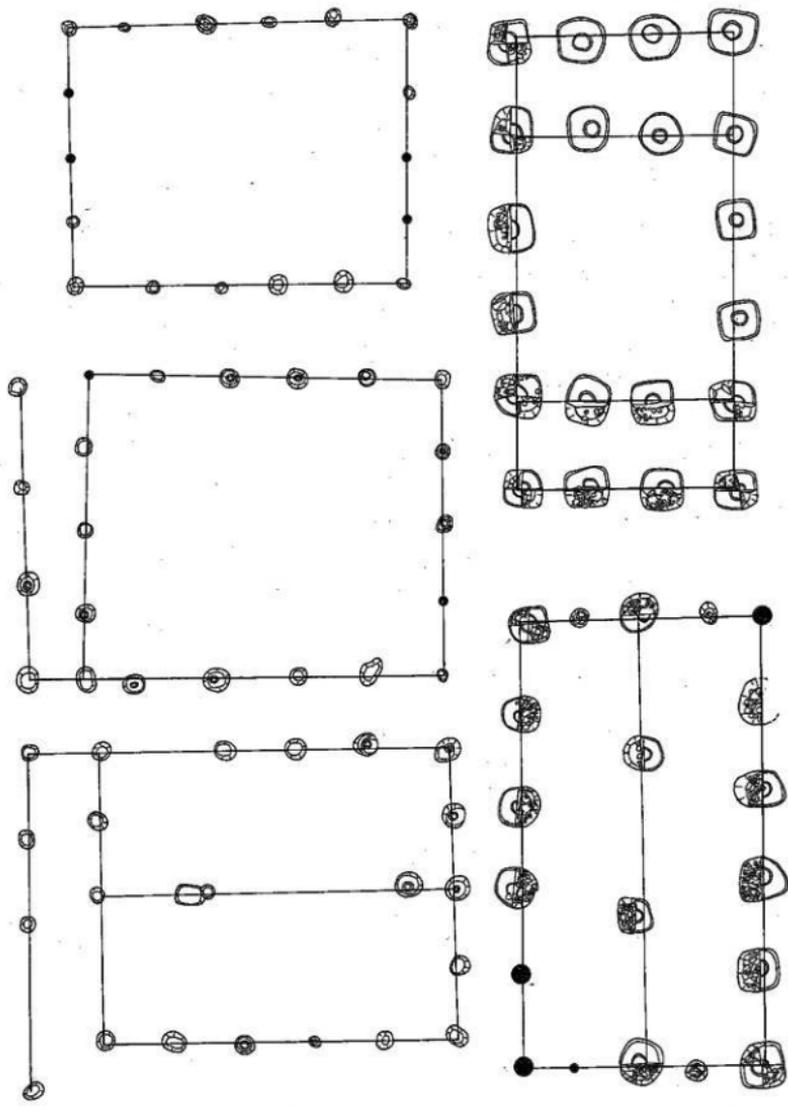


図43 1次調査区と8・9次調査区の建物の比較図3.

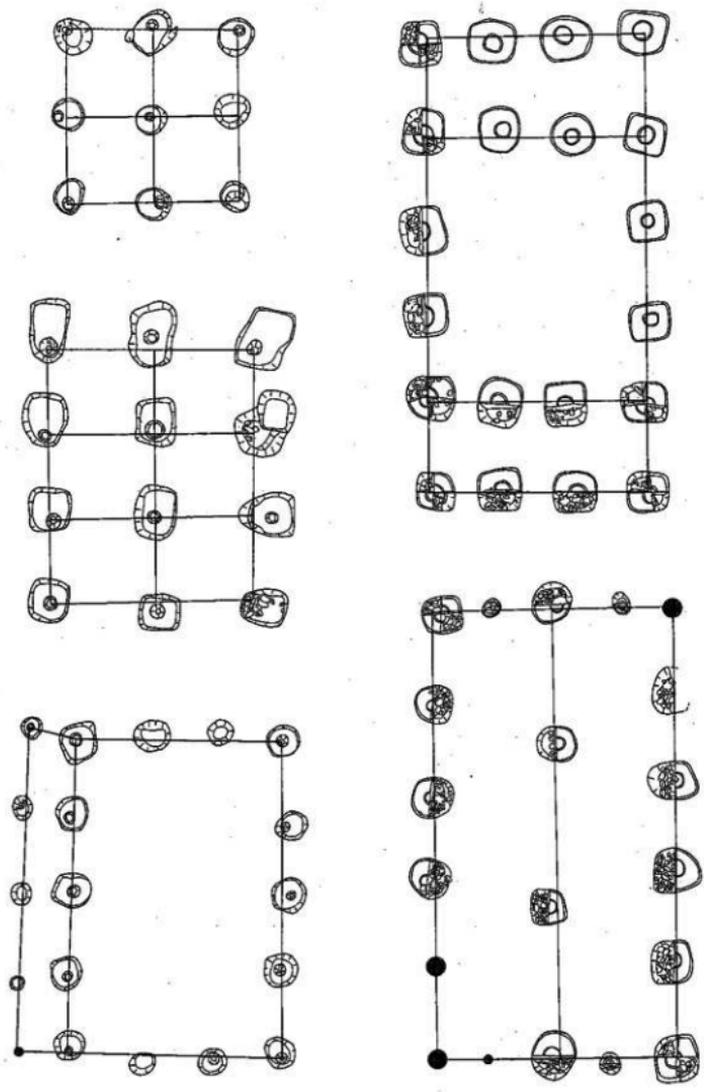
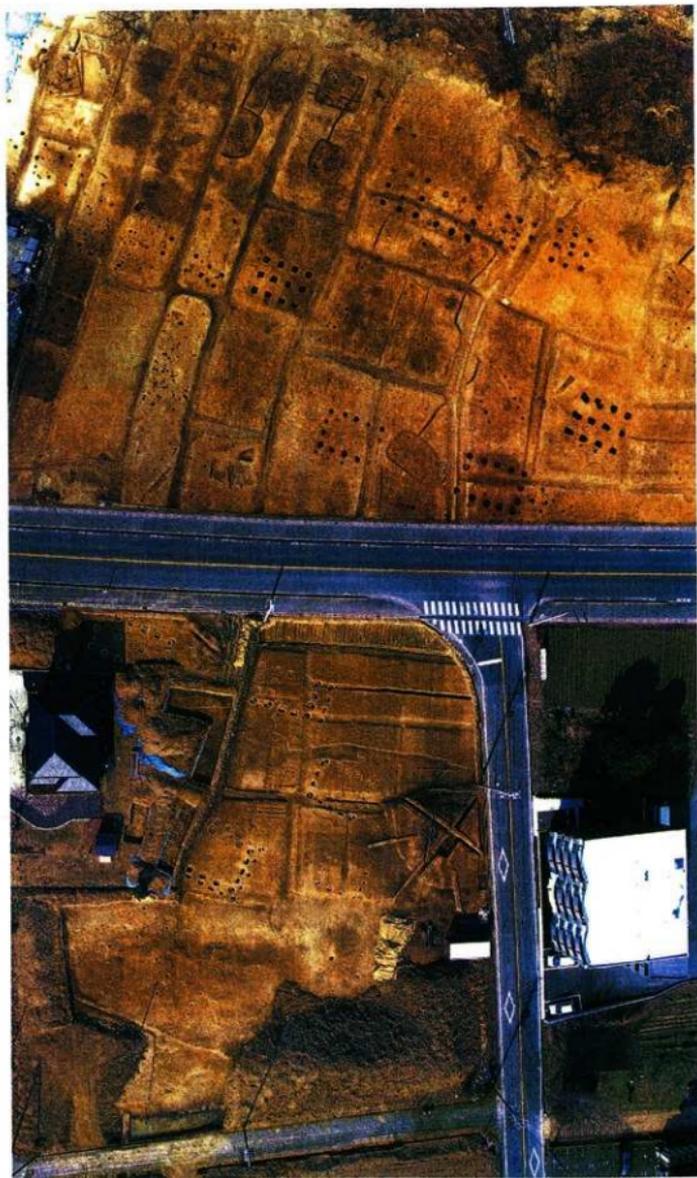


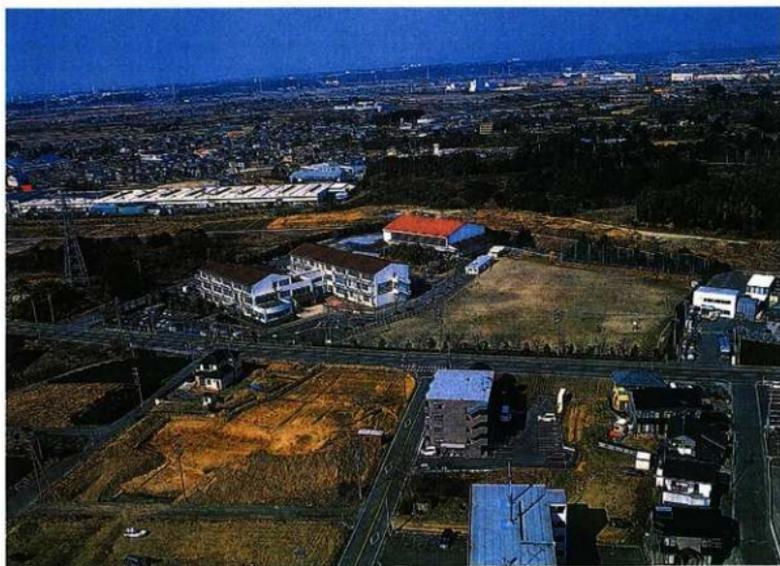
図44 1次調査区と8・9次調査区の建物の比較図4



古新田遺跡 1・8 次調査区全景



1. 古新田遺跡 8 次調査区全景



2. 調査区周辺



1. 掘立柱建物跡1



2. 掘立柱建物跡1 調査後



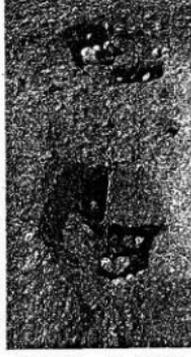
1. 柱穴4-イ、柱穴に
半截



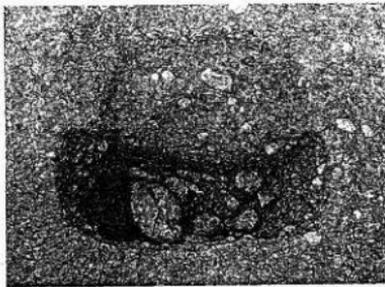
2. 柱穴3-イ、柱穴は
半截



3. 柱穴2-イ、柱穴ろ
半截



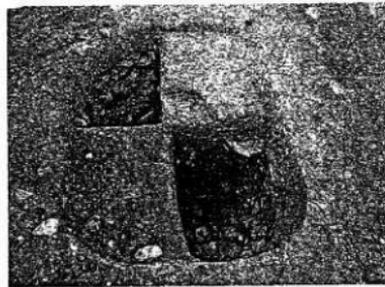
4. 柱穴1-イ、柱穴い
半截



5. 柱穴1-ロ 半截



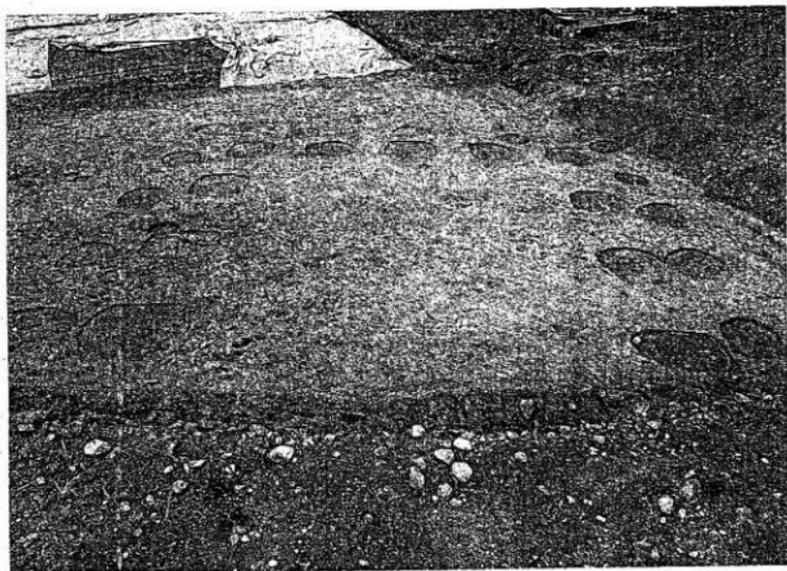
6. 柱穴1-ハ 半截



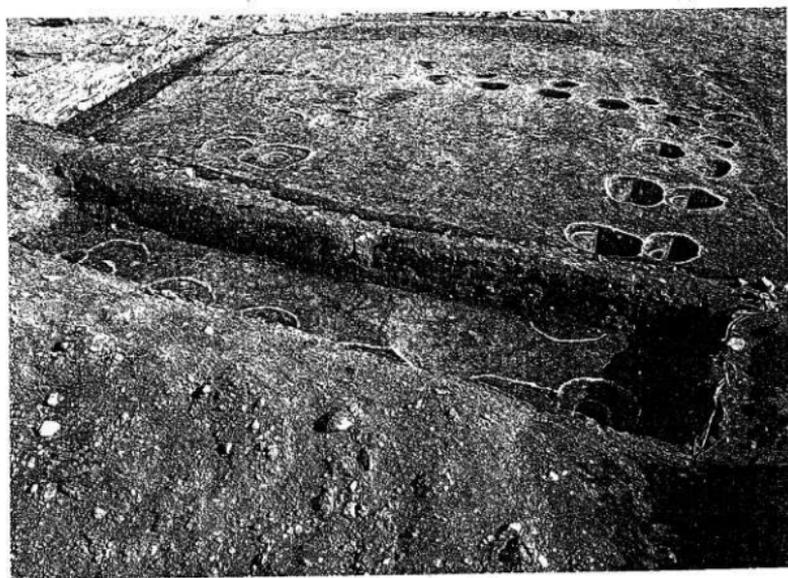
7. 柱穴1-ニ 半截



8. 柱穴ほ 半截



1. 掘立柱建物跡 2



2. 掘立柱建物跡 2 調査後



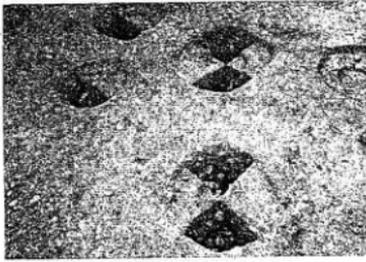
1. 掘立柱建物跡 2



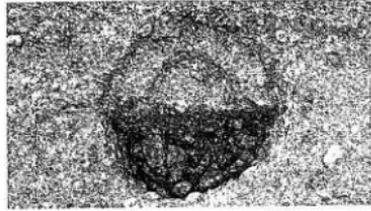
2. 掘立柱建物跡 2 調査後



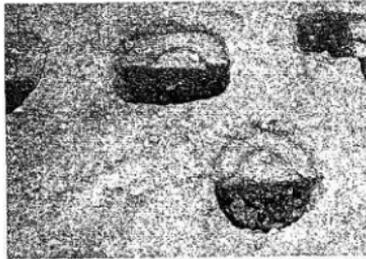
3. 作業風景



1. 柱穴5-イ, 柱穴4-イ, 柱穴わ, 柱穴か 半載



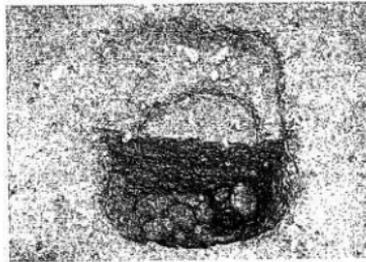
2. 柱穴か 半載



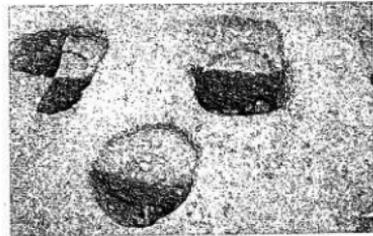
3. 柱穴4-イ, 柱穴か 半載



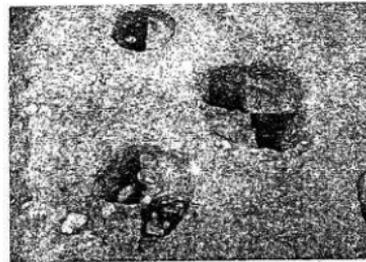
4. 柱穴3-イ, 柱穴よ 半載



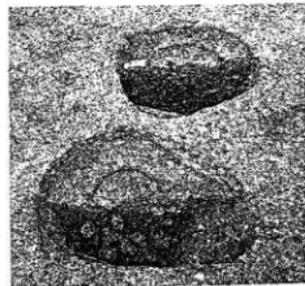
5. 柱穴2-イ 半載



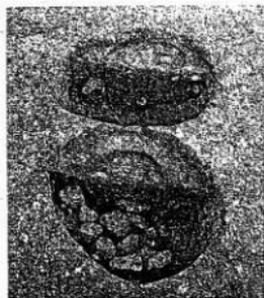
6. 柱穴2-イ, 柱穴た 半載



7. 柱穴1-イ, 柱穴い, 柱穴ろ 半載



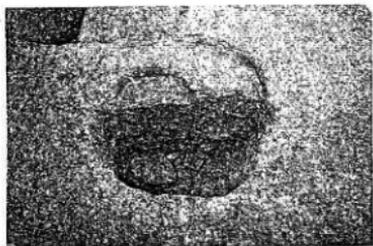
8. 柱穴1-ロ, 柱穴は 半載



1. 柱穴1-ハ、柱穴ニ 半截



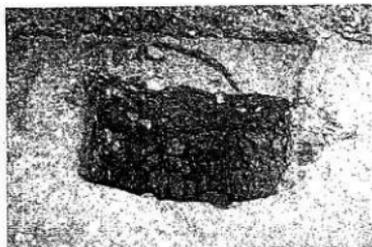
2. 柱穴1-ニ、柱穴ハ 半截



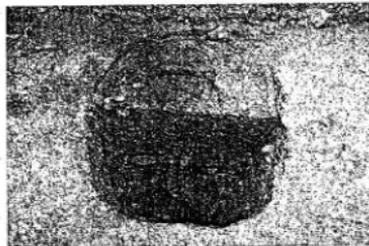
3. 柱穴ト 半截



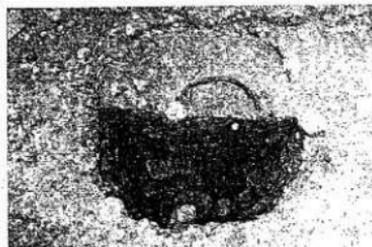
4. 柱穴1-ハ 半截



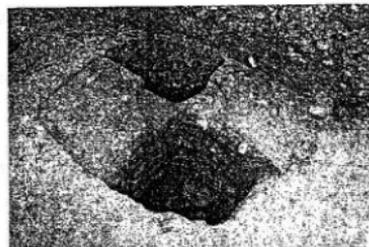
5. 柱穴2-へ 半截



6. 柱穴3-へ 半截



7. 柱穴4-へ 半截



8. 柱穴5-へ 半截



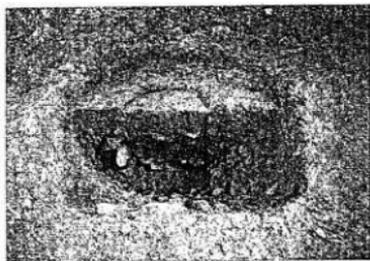
1. 掘立柱建物跡 3



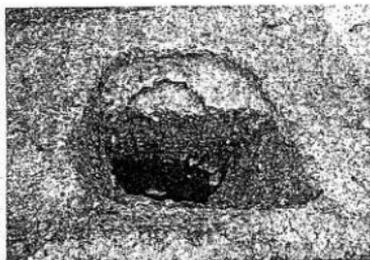
2. 掘立柱建物跡 3 調査後



1. 柱穴1-イ 半截



2. 柱穴1-ロ 半截



3. 柱穴1-ハ 半截



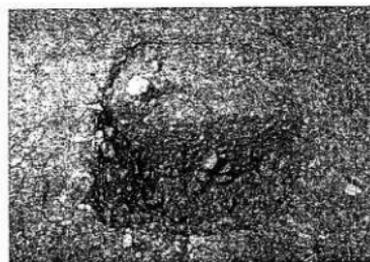
4. 柱穴1-ニ 半截



5. 柱穴1-ホ 半截



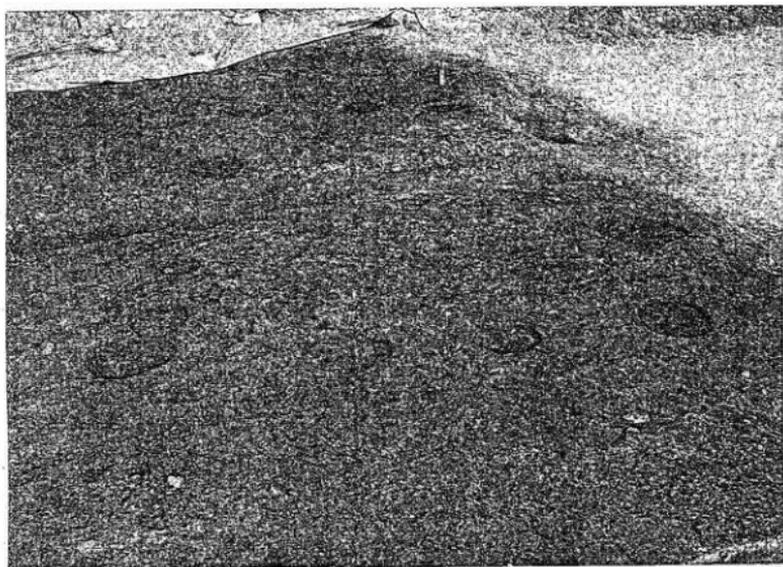
6. 柱穴2-ホ 半截



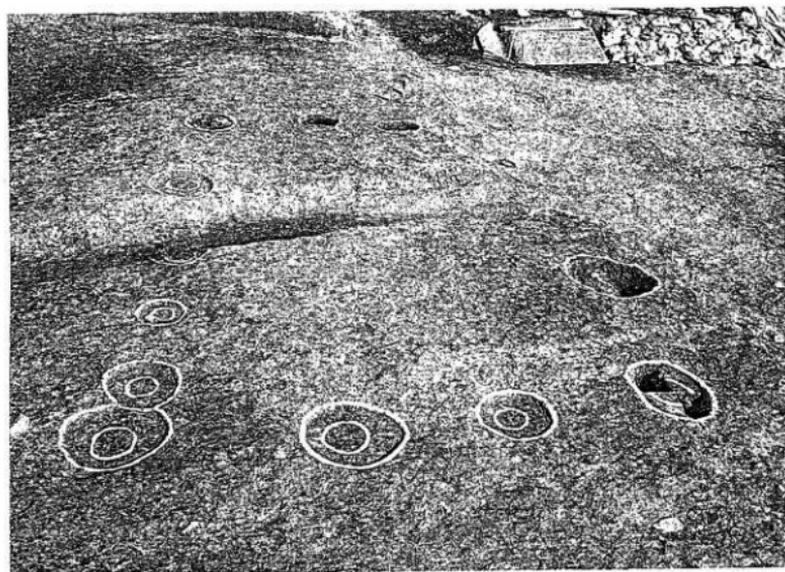
7. 柱穴3-ホ 半截



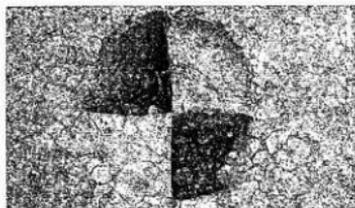
8. 柱穴4-ホ 半截



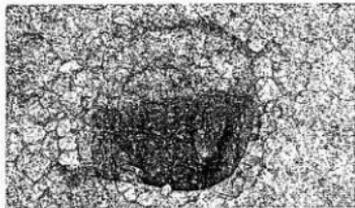
1. 掘立柱建物跡 4



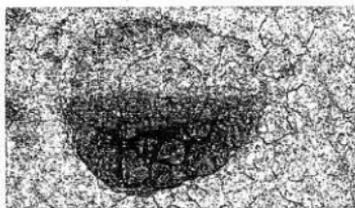
2. 掘立柱建物跡 4 調査後



1. 柱穴4-イ 半載



2. 柱穴3-イ 半載



3. 柱穴2-イ 半載



4. 柱穴1-イ 半載



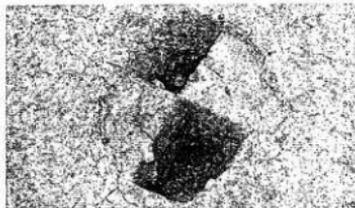
5. 柱穴1-ロ 半載



6. 柱穴1-ハ 半載



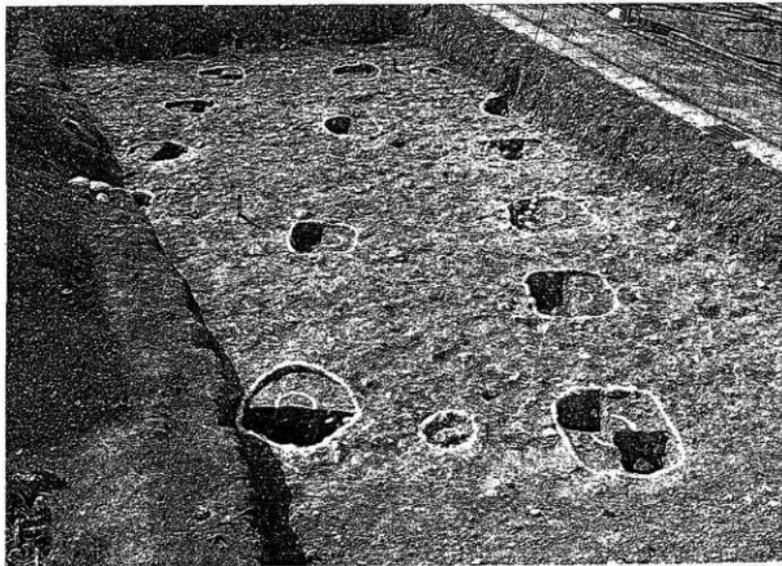
8. 柱穴4-ハ、小穴2、小穴1、柱穴4-ニ 半載



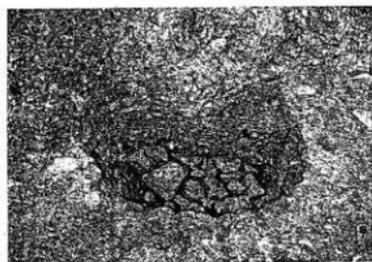
7. 柱穴1-ニ 半載



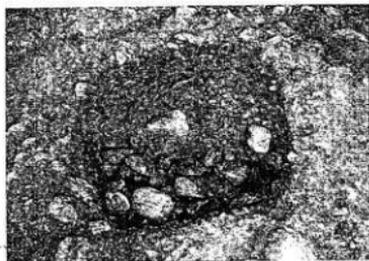
1. 掘立柱建物跡 5



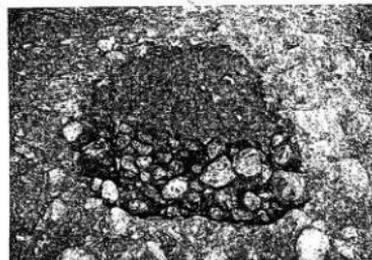
2. 掘立柱建物跡 5 調査後



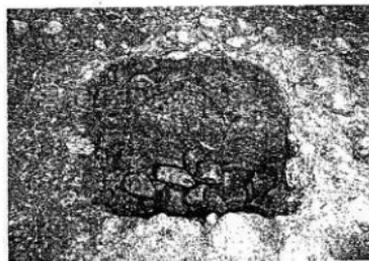
1. 柱穴5-ホ 半載



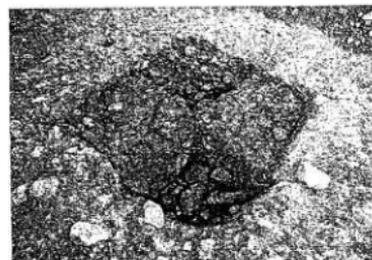
2. 柱穴5-ニ 半載



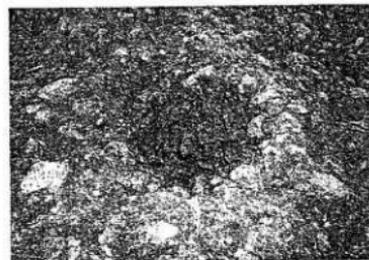
3. 柱穴5-ハ 半載



4. 柱穴5-ロ 半載



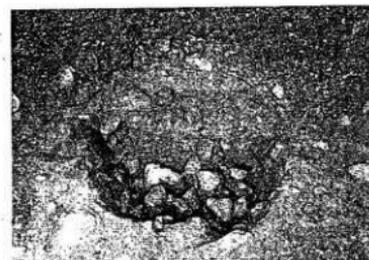
5. 柱穴5-イ 半載



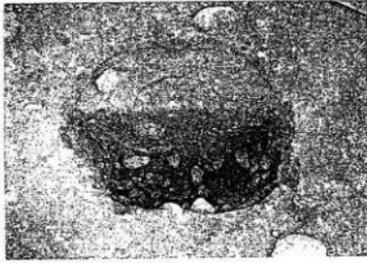
6. 柱穴4-イ (間柱) 半載



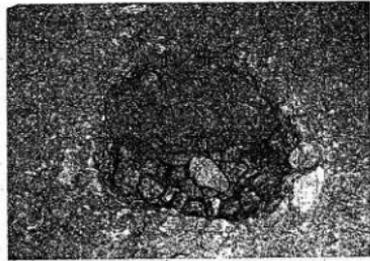
7. 柱穴1-イ 半載



8. 柱穴3-イ 半載



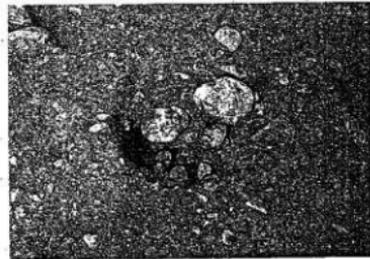
1. 柱穴1-ニ 半載



2. 柱穴1-ホ 半載



3. 柱穴1-ヘ 半載



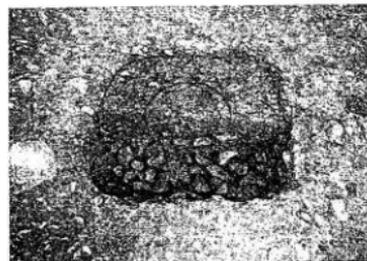
4. 柱穴2-ヘ(間柱) 半載



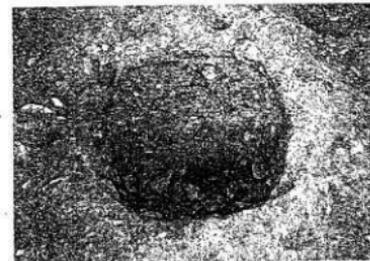
5. 柱穴3-ヘ 半載



6. 柱穴4-ヘ(間柱) 半載



7. 棟持柱1 半載



8. 棟持柱2 半載



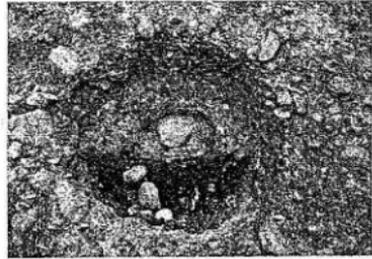
1. 掘立柱建物跡6



2. 掘立柱建物跡6 調査後



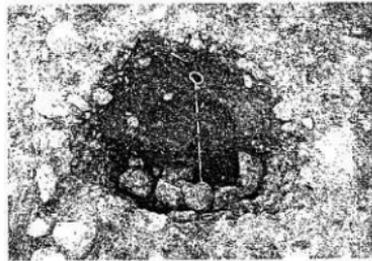
1. 柱穴1-2 半截



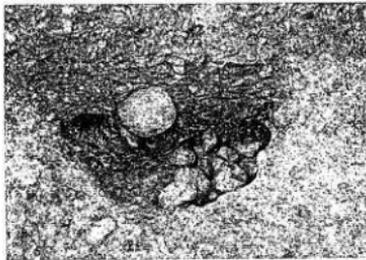
2. 柱穴1-8 半截



3. 柱穴1-10 半截



4. 柱穴1-11 半截



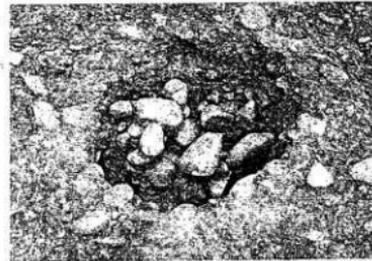
5. 柱穴2-1 半截



6. 柱穴3-1 半截



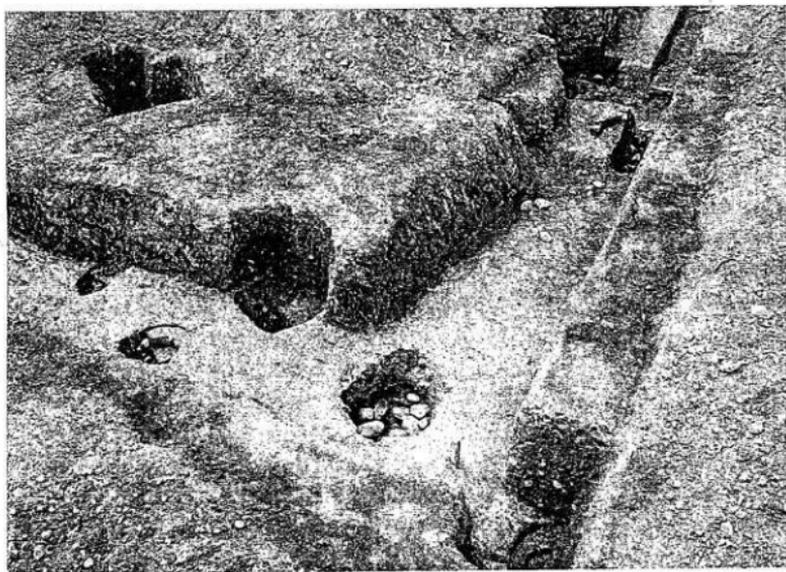
7. 柱穴1 半截



8. 柱穴1-2



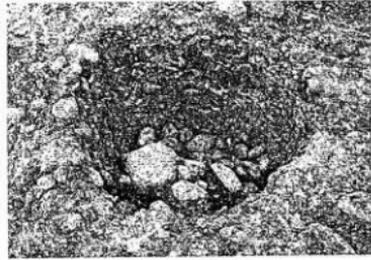
1. 掘立柱建物跡 7



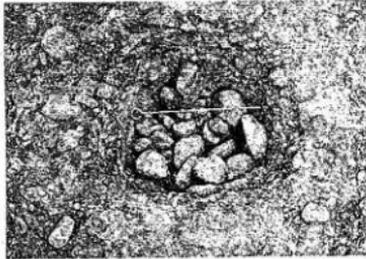
2. 掘立柱建物跡 7 調査後



1. 掘立6 柱穴1-ハ



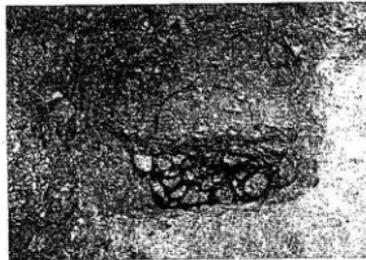
2. 掘立6 柱穴1-0



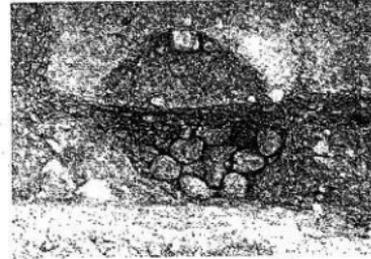
3. 掘立6 柱穴1-イ



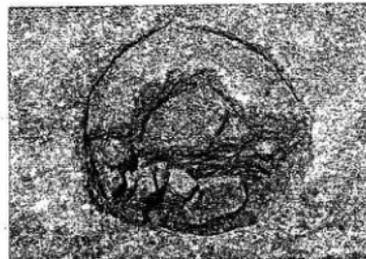
4. 掘立7 柱穴1-0



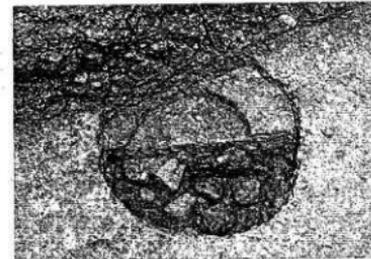
5. 掘立7 柱穴1-ハ 半截



6. 掘立7 柱穴4-ハ 半截



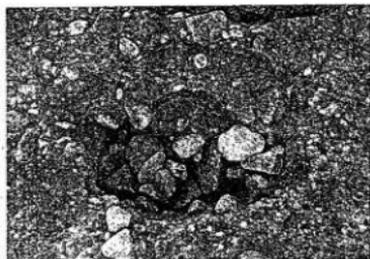
7. 掘立7 柱穴に 半截



8. 掘立7 柱穴に 半截



1. 柱穴そ 半截



2. 柱穴つ 半截



3. 柱穴ね 半截



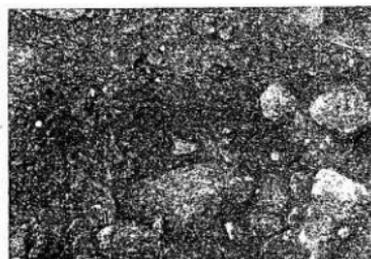
4. 柱穴ら 半截



5. 柱穴4ーイ 半截



6. 柱穴4ーイ 遺物出土状態



7. 柱穴4ーイ 遺物出土状態近景



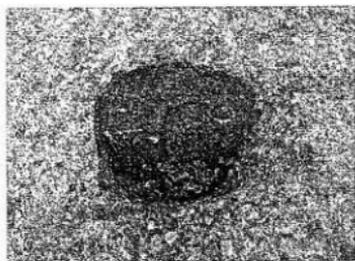
8. 柱穴そ 遺物出土状態



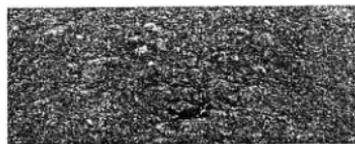
1. 掘立柱建物跡 8



2. 柱穴 1, 柱穴 2



3. 柱穴 2 半截



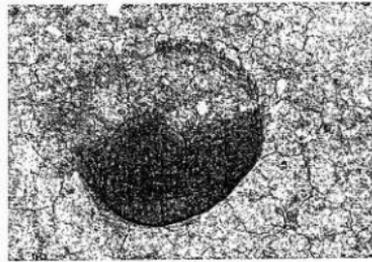
4. 柱穴 3



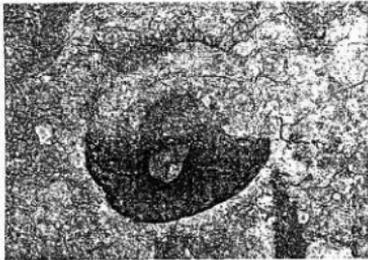
5. 柱穴 4 半截



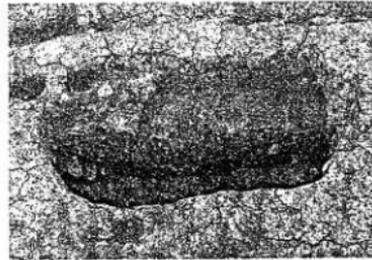
1. 柱穴1-ニ 半截



2. 柱穴1-ハ 半截



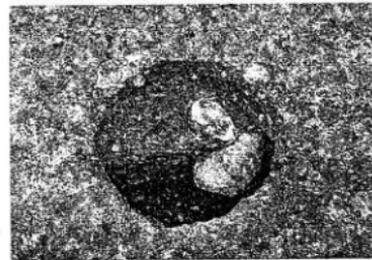
3. 柱穴1-ロ 半截



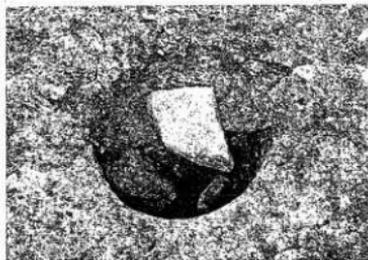
4. 柱穴1-イ 半截



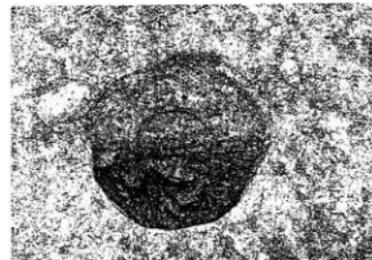
5. 柱穴1 半截



6. 柱穴2 半截



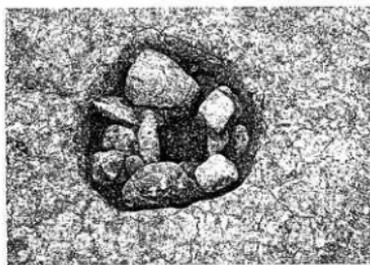
7. 柱穴3 半截



8. 柱穴4 半截



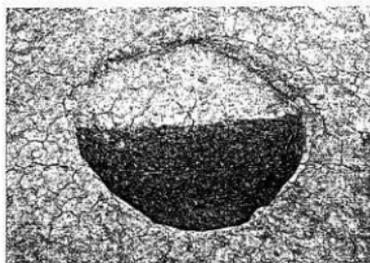
1. 掘立柱建物跡10



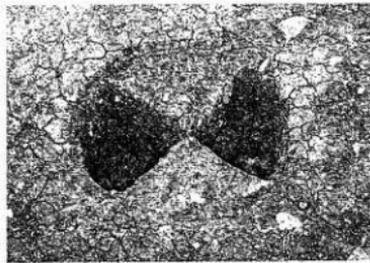
2. 柱穴4—ホ



3. 柱穴3—ホ 半截



4. 柱穴2—ホ 半截



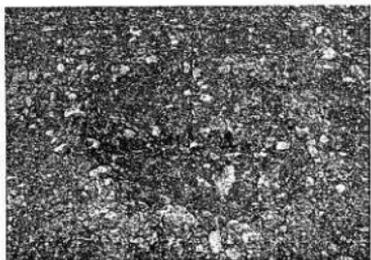
5. 柱穴1—ホ 半截



1. 柱穴4-ニ 半載



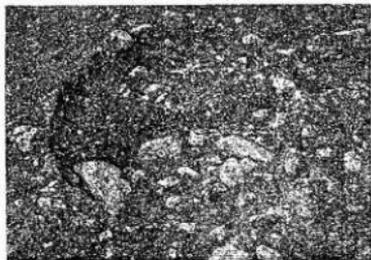
2. 柱穴4-ハ 半載



3. 柱穴4-ロ 半載



4. 柱穴4-イ 半載



5. 柱穴1-ニ 半載



6. 柱穴1-ハ



7. 柱穴1-ロ 半載



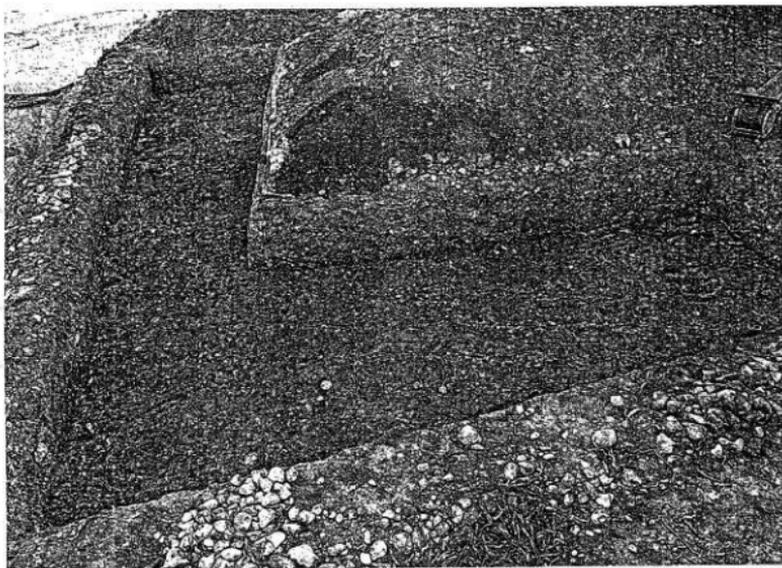
8. 柱穴1-イ



1. 広場の中央に整地土を確認



2. 整地土内トレンチ



1. 9次調査トレンチ 整地土確認



2. サブトレンチ土層断面



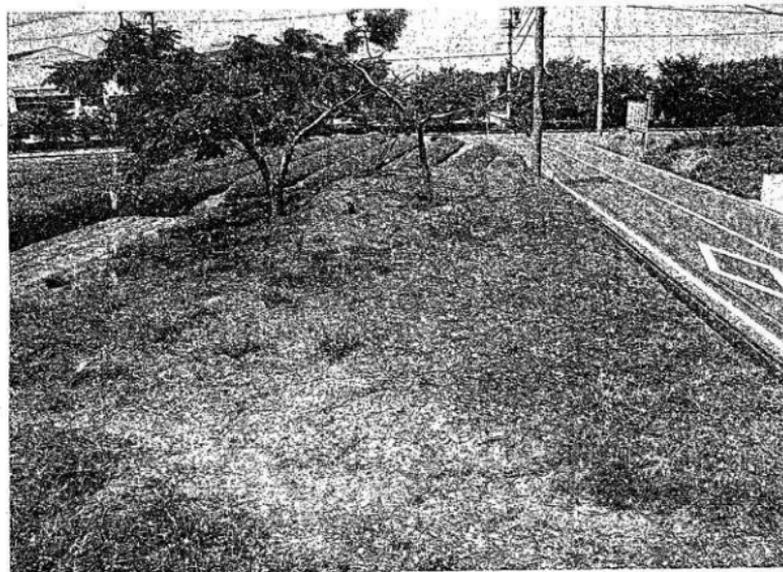
3. 遺物出土状態



1. 遺物出土状態近景



1. 土壌 調査前 南西より



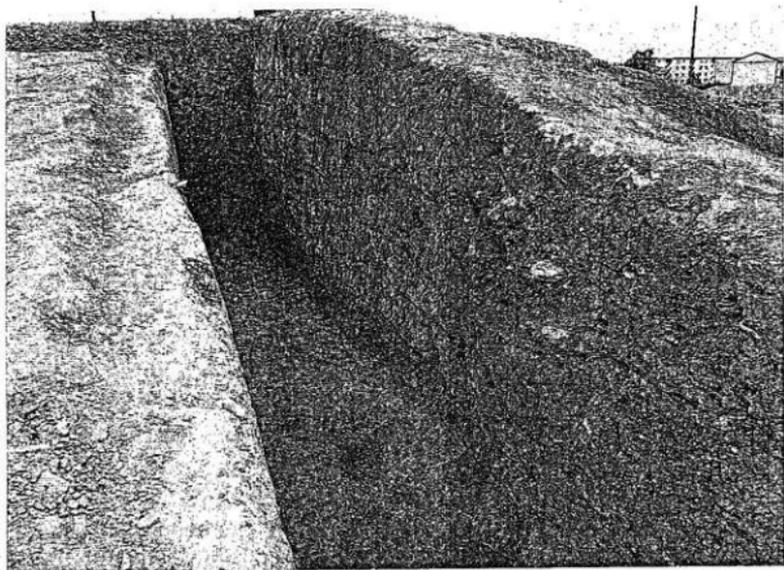
2. 土壌 調査前 南より



1. 土壇 調査中



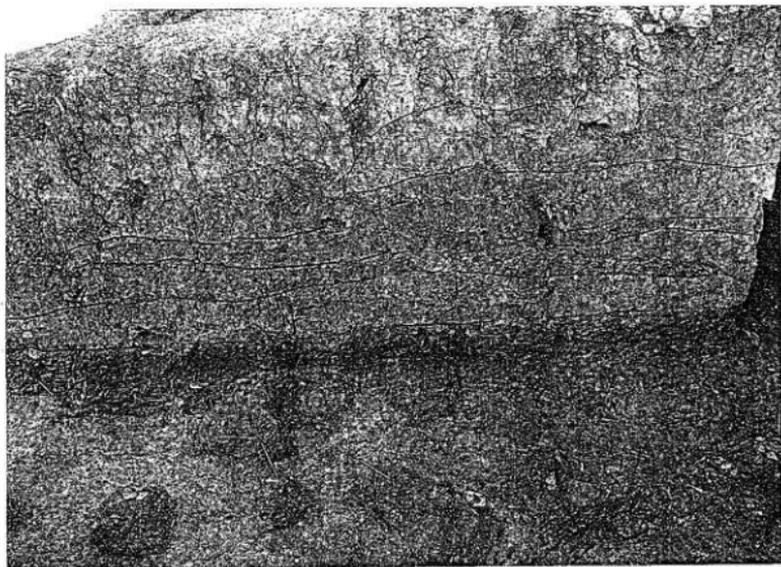
2. 土壇 東西トレンチ断面



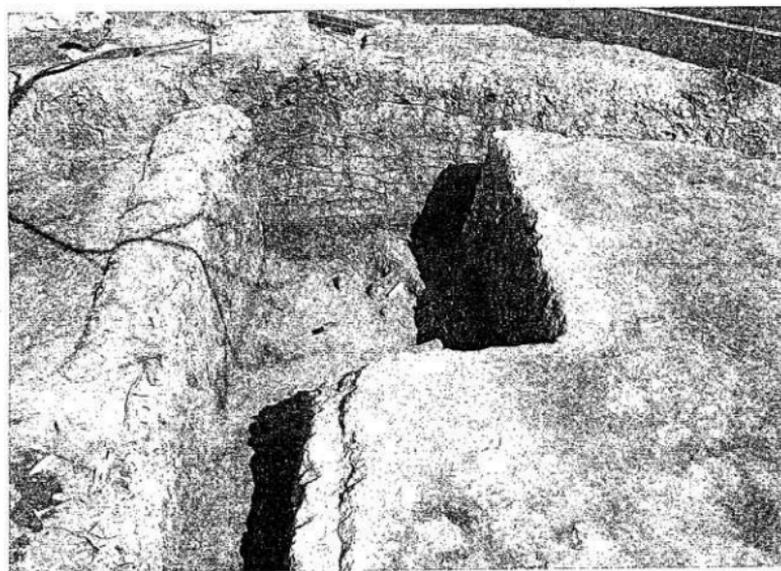
1. 土壇 北トレンチ断面



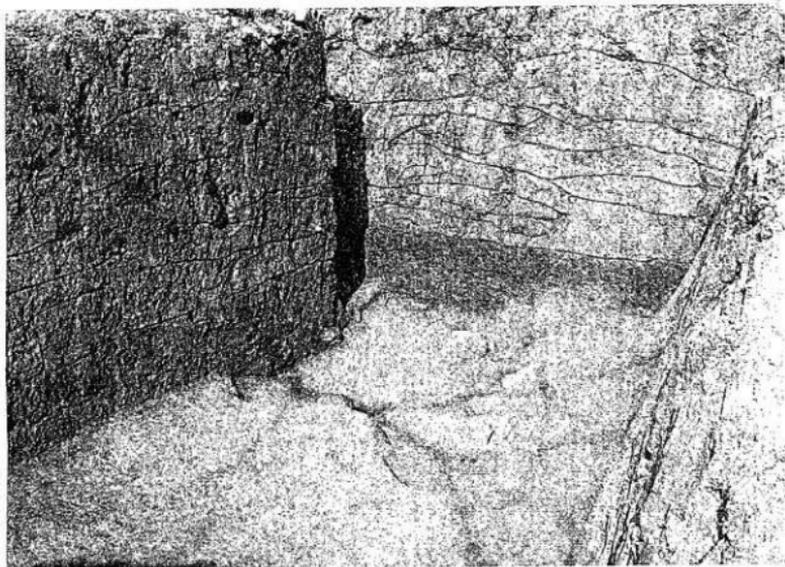
2. 土壇 南トレンチ土坑遺物出土状態



1. 土壇 南トレンチ断面 出土遺物状態



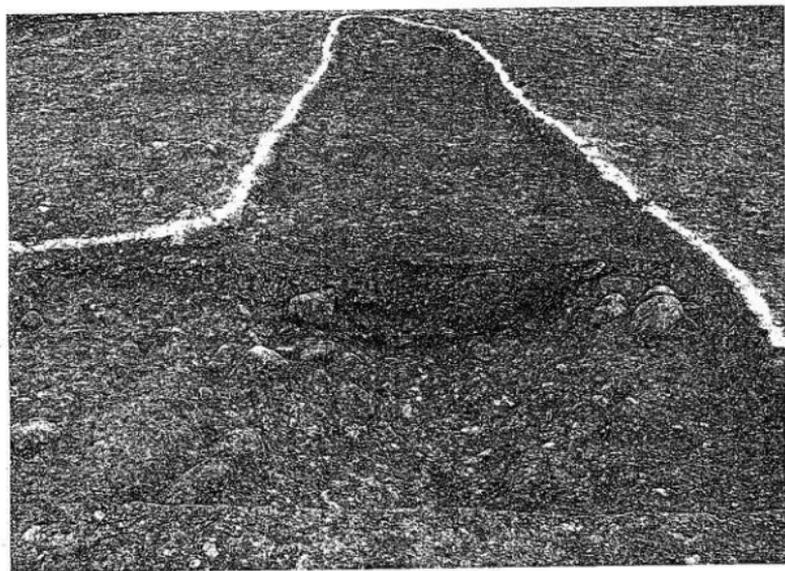
2. 土壇 土坑



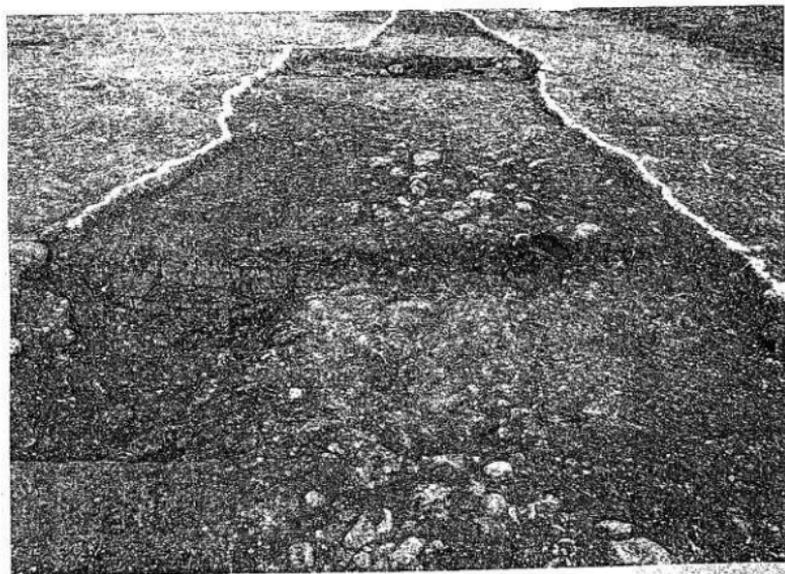
1. 土壇 土壇完掘状態



2. 土壇南裾の遺構



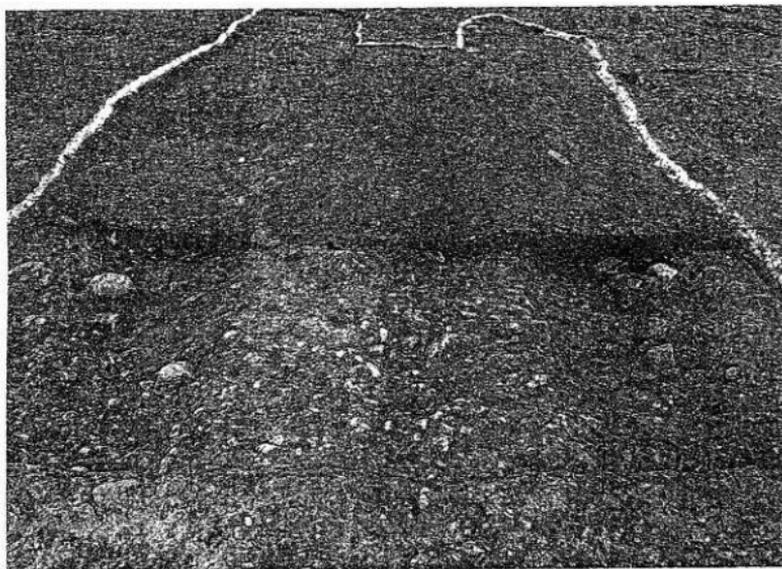
1. 溝狀遺構断面



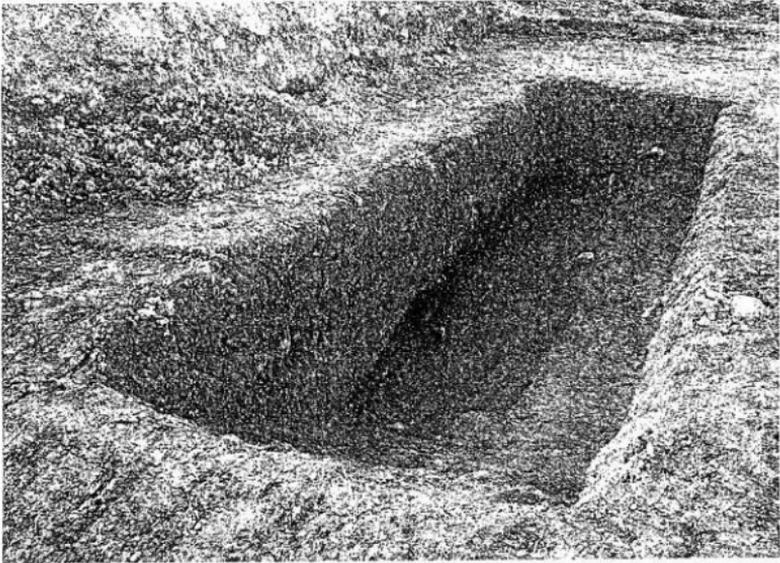
2. 溝狀遺構断面



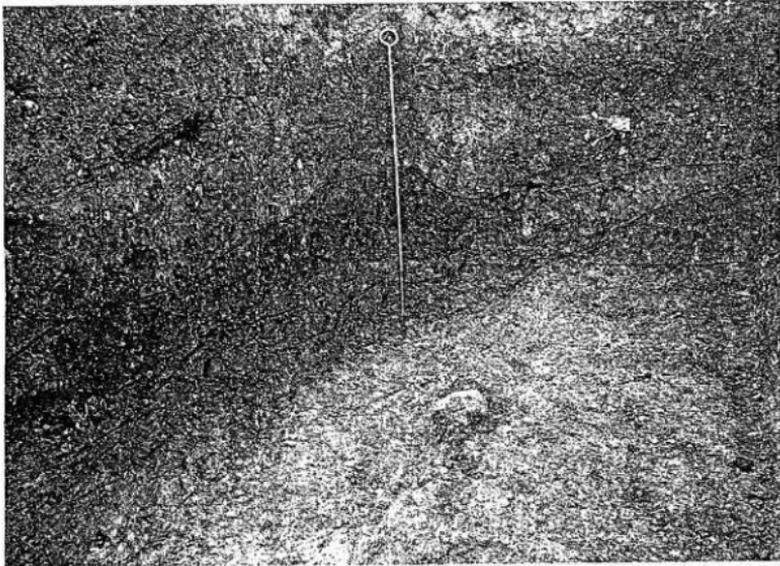
1. 溝状遺構断面



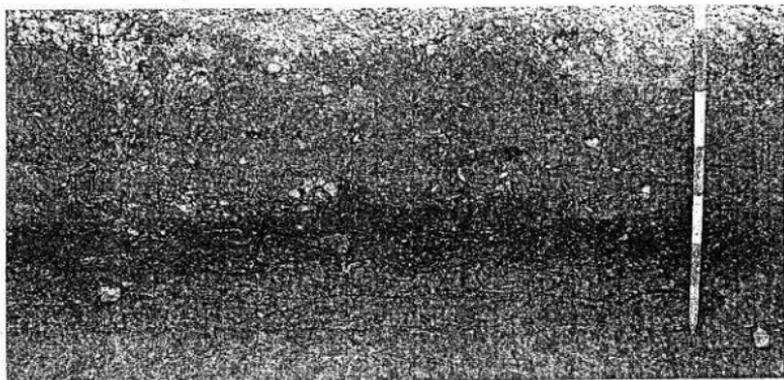
2. 溝状遺構断面



1. 南側谷地形 1トレンチ



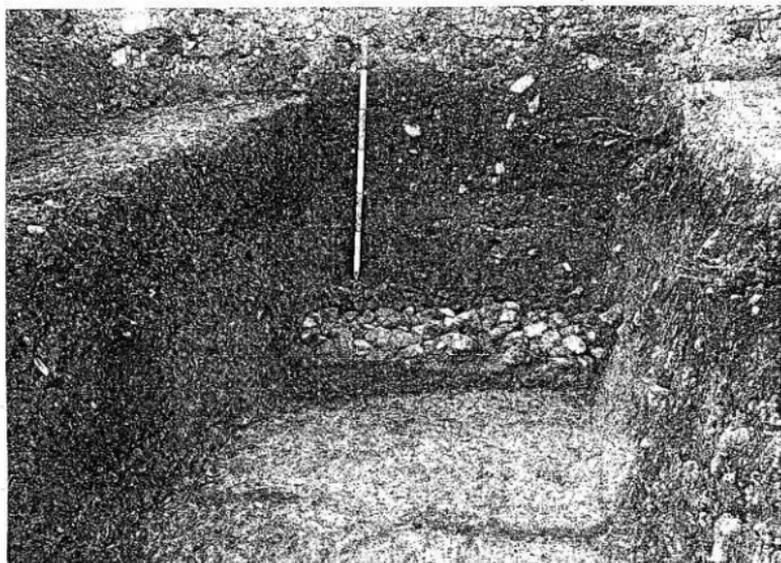
2. 1トレンチ断面



1. トレンチ断面



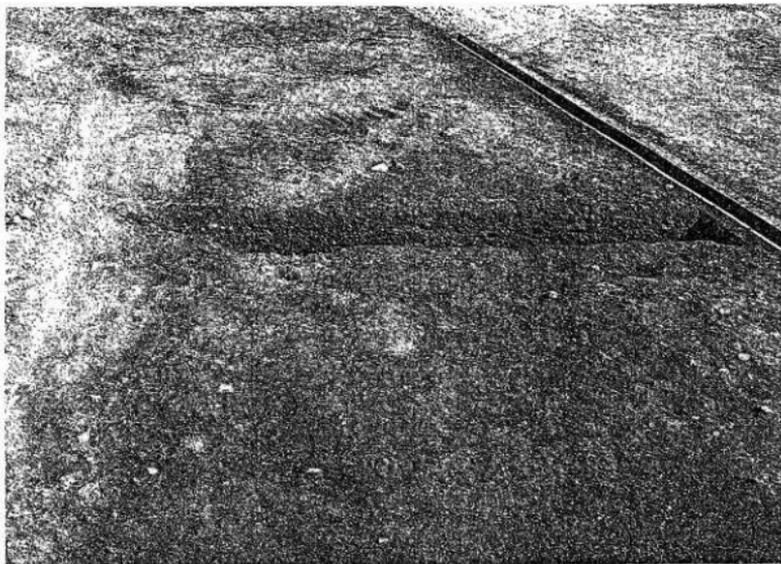
2. トレンチ



1. 2トレンチ



2. 3トレンチ



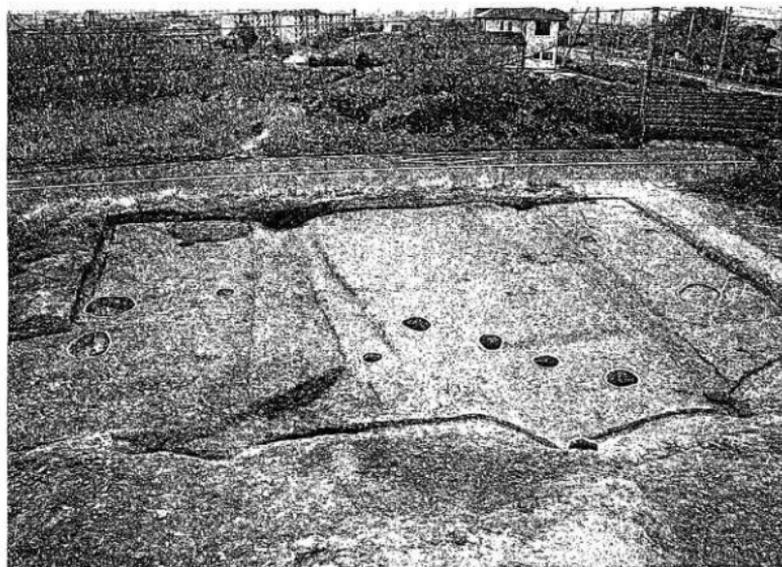
1. 4トレンチ



2. 4トレンチ断面



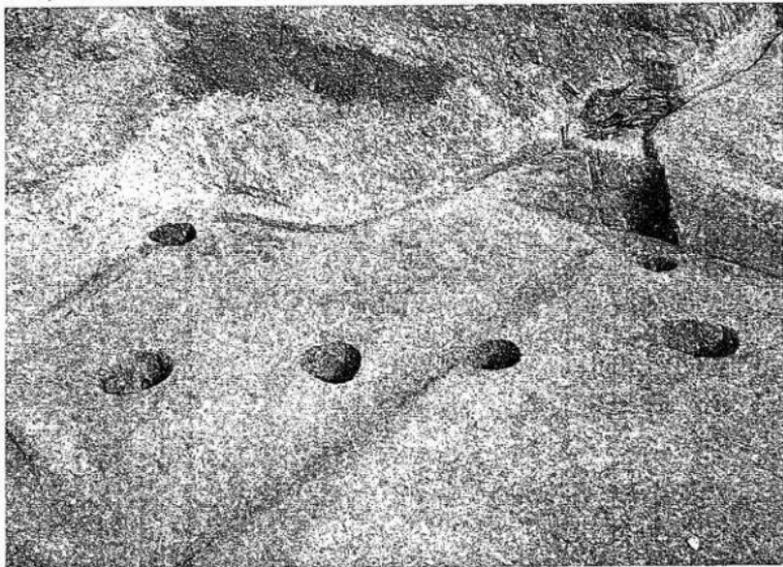
1. 古新田遺跡5次調査全景



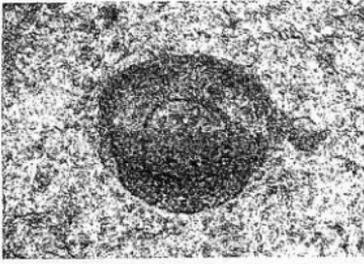
2. 古新田遺跡5次調査全景 調査後



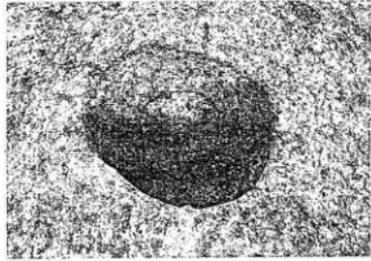
1. 掘立柱建物跡1 (南から)



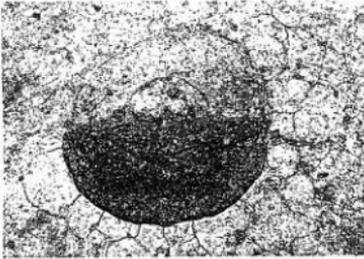
2. 掘立柱建物跡1 調査後 (西から)



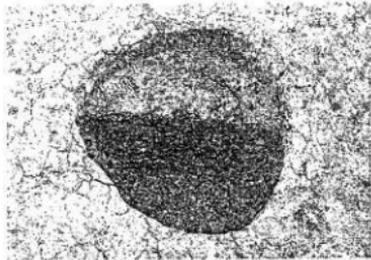
1. 柱穴 1 半載



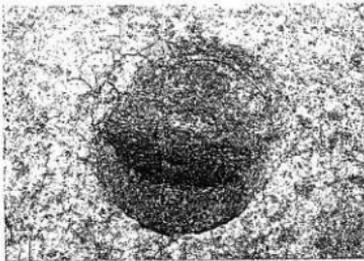
2. 柱穴 2 半載



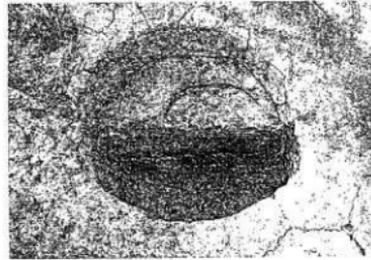
3. 柱穴 3 半載



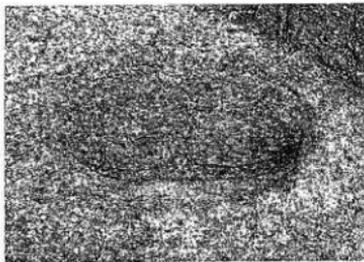
4. 柱穴 4 半載



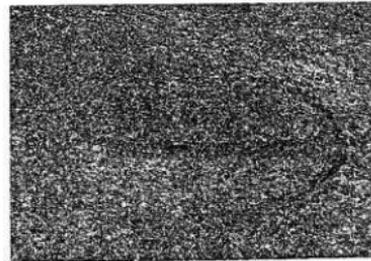
5. 柱穴 5 半載



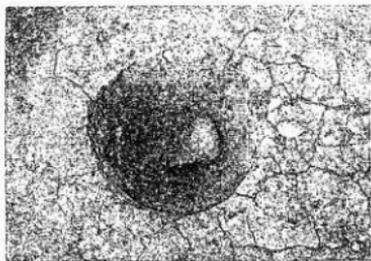
6. 柱穴 6 半載



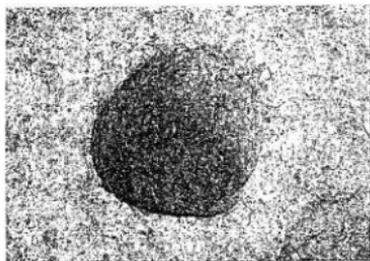
7. 土坑 1 半載



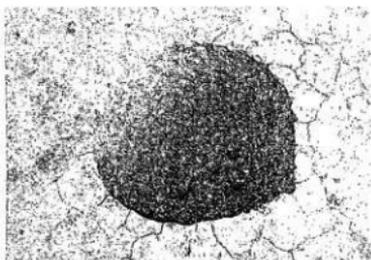
8. 土坑 2 半載



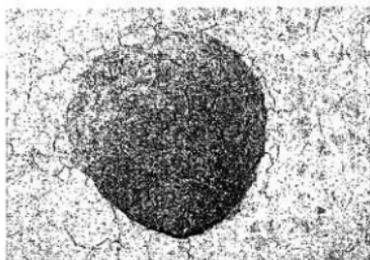
1. 柱穴1 完掘



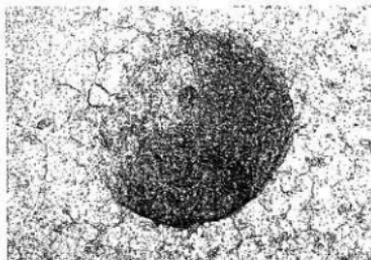
2. 柱穴2 完掘



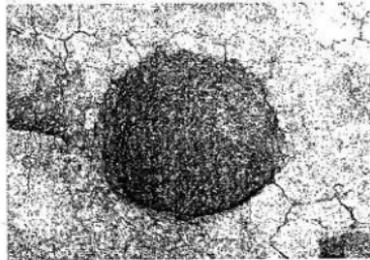
3. 柱穴3 完掘



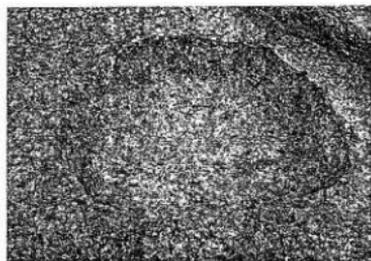
4. 柱穴4 完掘



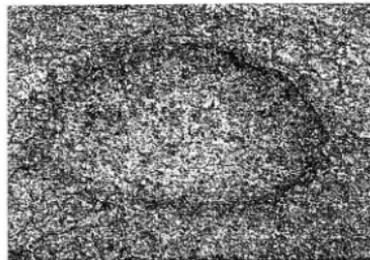
5. 柱穴5 完掘



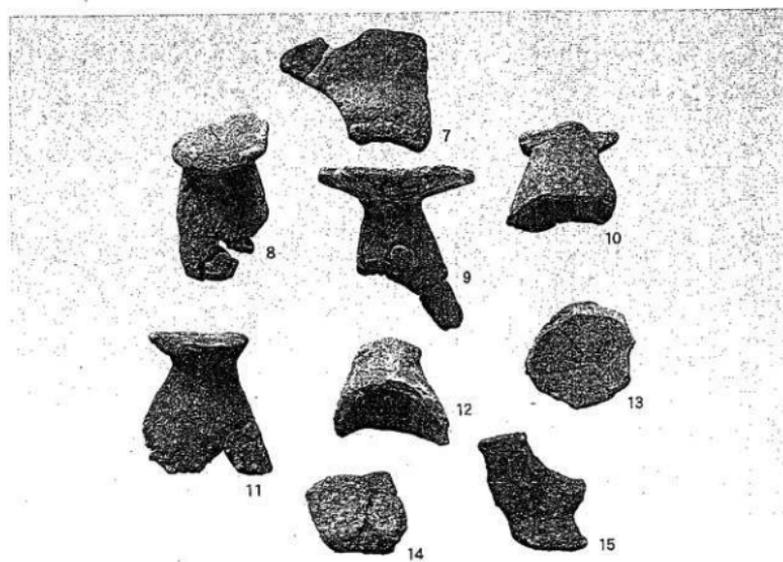
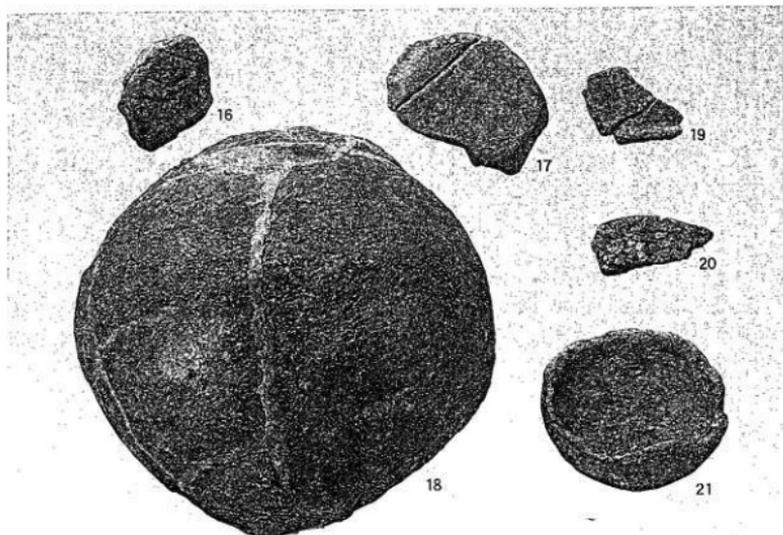
6. 柱穴6 完掘



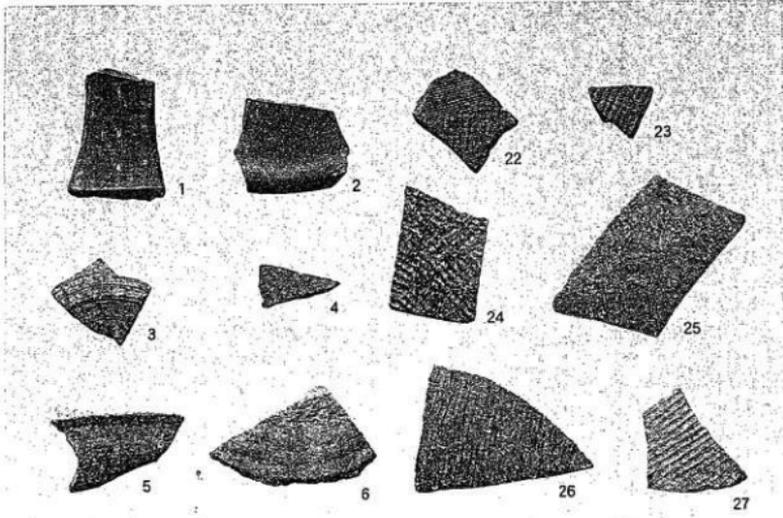
7. 土坑1 完掘



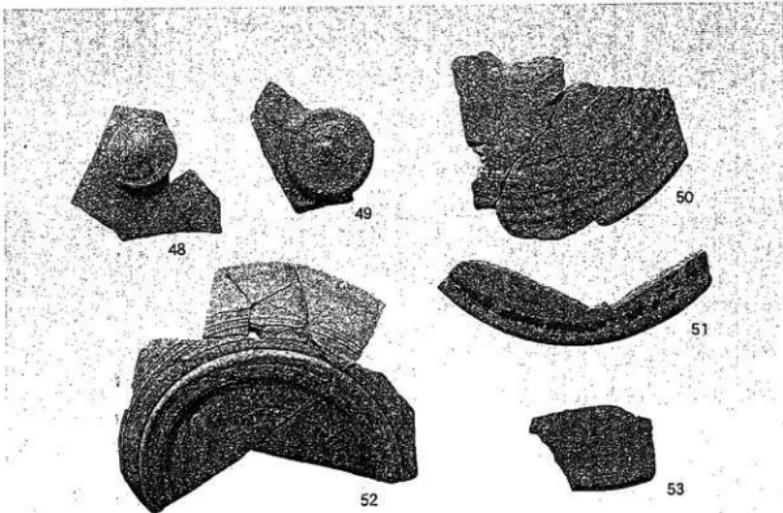
8. 土坑2 完掘



広場・掘立柱建物跡の出土遺物



1. 掘建柱建物跡の出土遺物



2. 土壇の出土遺物

報告書抄録

ふりがな	こしんでん							
書名	古新田Ⅲ							
編集名	山本義孝、木曾昌司（編集）							
編集機関	浅羽町教育委員会 磐田郡浅羽町浅名1028 tel (0538)-23-2424							
発行機関	浅羽町教育委員会 磐田郡浅羽町浅名1028 tel (0538)-23-2424							
発行年月日	2005年2月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こしんでんいせき 古新田遺跡	しずおかけん 静岡県	22481	54	34度	137度	5次 20020130 ～0228	800㎡	集合住宅建設
	いわたん 磐田郡			43分	55分	8次 20030916 ～20040225	2,500㎡	幼稚園建設
	あひばらまち 浅羽町			00秒	50秒	9次 20040101 ～20040227	100㎡	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
こしんでんいせき 古新田遺跡	居館	古墳中期後半～ 後期初頭 奈良時代		四面庇建物 掘立柱建物跡 整地土 土壇		須恵器 土師器 須恵器	居館の主館域を確認	

静岡県 磐田郡 浅羽町

古新田Ⅲ

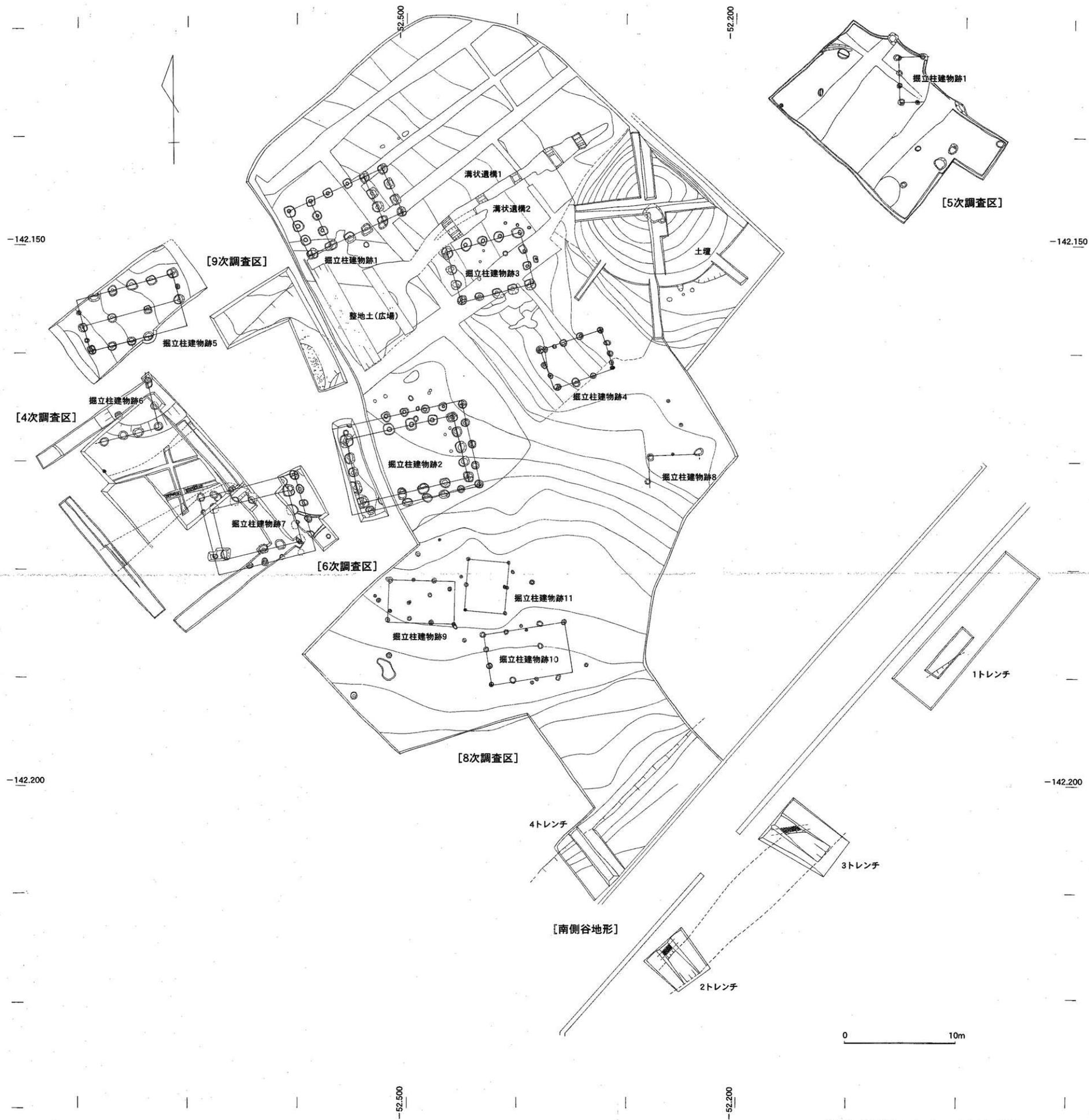
2005年2月28日発行

編集・発行 浅羽町教育委員会

印刷 静岡県磐田市ニ之宮 251

株式会社 山田印刷所

TEL(0538)35-6151



別 図 古新田遺跡4・5・6・8・9次調査区全体図